

静岡県立美術館年報
平成20年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF
ART
2008

静岡県立美術館年報
平成20年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2008

目次

使命・重点目標・評価指標	4
平成20年度 美術館の評価活動	5
【館長公約 A】人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します。	
【重点目標 1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。	
展覧会活動 展覧会一覧	8
観覧者数一覧、年度別観覧者数	9
（企画展）	
シャガール展	10
国宝鑑真和上展	12
十二の旅展	14
風景ルル展	16
朝鮮王朝の絵画と日本展	19
（その他）	
第19回富嶽ピエンナーレ展	21
【重点目標 2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します。	
（調査研究活動）	
紀要の発行	22
研究活動	23
研究会	25
各種資料整理	28
博物館実習	29
【重点目標 3】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。	
収蔵品展	31
移動美術展	32
平成20年度 新収蔵品	33
収蔵品点数一覧	39
図書資料の収集・整理	40
館蔵品の貸し出し	41
美術作品の補修	50
保存活動	51
【館長公約 B】地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します。	
【重点目標 1】質の高い教育・普及プログラムを開発します。	
（一般向け）	
ギャラリートーク	53
実技・鑑賞講座	54
（子ども向け）	
実技・体験	59
夏休み子どもワークショップ	61
学校連携普及事業（美術館教室）	62
【重点目標 2】講座・講演会等を充実します。	
講演会	71
美術講座	72
対外活動	74
【重点目標 3】地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します。	
美術館ボランティア・広報サポーター	77
平成20年度 友の会活動	79
【館長公約 C】戦略的な広報を展開し、情報発信に努めます。	
【重点目標 1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます。	
広報活動（ホームページ）	83
美術館ニュース「アマリリス」	84
【重点目標 2】観光などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます。…	
新たな広報チャンネルの開拓	85
【重点目標 3】ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。	
ロダン館展示・イベント	86
【館長公約 D】施設の改修を推進し、美術館のアメニティーを高めていきます。…	
【重点目標 1】館内施設を充実し、満足度を高めます。	
施設利用状況（年度別）	87
県民ギャラリー利用状況	88
【重点目標 2】周辺環境やアクセス環境の向上を進めます。	
来館者のアクセス満足度	89
■付帯資料	
平成20年度主要記事	90
（展覧会 出品目録）	
（企画展）	
シャガール展	92
国宝鑑真和上展	98
十二の旅展	100
風景ルル展	105
朝鮮王朝の絵画と日本展	108
（その他）	
収蔵品展	115
移動美術展	119
（管理運営）	
関連法規	120
組織・名簿	128
歳入・歳出決算	129
建築・設備概要	130
利用案内	136
奥付	137

使命・重点目標・評価指標

(平成20年度～平成22年度)

使命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

館長公約

A	人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します
B	地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します
C	戦略的な広報を展開し、情報発信に努めます
D	施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます

重点目標

1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します
2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します
3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
1	質の高い教育・普及プログラムを開発します
2	講座・講演会等を充実します
3	地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します
1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます
2	観光などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます
3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします
1	館内施設を充実し、満足度を高めます
2	周辺環境やアクセス環境の向上を進めます

評価指標

1	展覧会の観覧者数
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数（レベル別）
3	作品やテーマに興味を持った人の割合
4	展覧会における新規来館者数の割合
5	展覧会に対する外部評価(レビュー) 【定性】
6	調査研究の発表件数（種類別）
7	内部セミナー・研究会・研修の回数
8	大学等と連携した取組件数
9	インターンシップ受入人数
10	調査研究に関する外部評価(レビュー) 【定性】
11	収蔵品展の観覧者数
12	収蔵品の公開件数（貸出し含む）
13	作品購入件数・購入価格
14	作品寄贈件数・評価価格
15	公開または貸出した展覧会における作品の位置付け等に関する学芸員レポート 【定性】
16	学校教育と連携した取組数
17	鑑賞系プログラム数
18	コレクションを活用したプログラム数
19	教育・普及プログラムに関する美術館職員のレポート 【定性】
20	講演会等の開催回数
21	学芸員のフロアレクチャー等の数
22	地域住民等と連携した取組件数
23	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
24	地域住民等と連携した取組に関する美術館職員のレポート 【定性】
25	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
26	ホームページのアクセス数
27	ホームページの満足度
28	取材の件数
29	広報手法における新たな取組状況に関する美術館職員のレポート 【定性】
30	ロダン館の入館者数
31	美術館利用者数（計）
32	鑑賞環境に対する満足度
33	レストラン・カフェ利用者の満足度
34	ミュージアムショップ利用者の満足度
35	来館者のアクセス満足度

平成20年度 美術館の評価活動

■総括

平成21年度の富士山静岡空港の開港に向けて、本県では観光客誘致のための様々な取組を行っている。県立美術館においても、広報・PRを推進するべく平成21年3月、ロダン館の開館15周年にあわせ、「風景とロダンの静岡県立美術館」のロゴを考案したのに加えて、外国人観光客の増加を見込んで、館内に外国語案内板を設置、パンフレットを作成するなどの対応を行った。

こうした状況の中、平成20年度から22年度までの中期的な重点目標である、4つの館長公約（A 人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します、B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します、C 戦略的な広報を展開し、情報発信に努めます、D 施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます）を掲げ、事業に取り組んだ。

全体的な成果として、美術館利用者数が目標の380,000人を超え、389,194人に達したことが挙げられる。また展覧会の観覧者（企画展等）及び収蔵品展の観覧者も目標の191,000人には及ばなかったが、190,669人とほぼ目標に達し、ロダン館の観覧者数も目標の80,000人に対し実績81,771人に達し、概ね目標を達成した。

館長公約に対する個別の取組としては、館長公約A「人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します」については、「風景ルル」展、「シャガール」展、「十二の旅」展、「朝鮮王朝の絵画と日本」展など、学芸員の日頃の調査・研究をふまえた自主企画及び企画参加型展覧会を積極的に開催したことで、来館者から新鮮で独自性のある内容が評価された。

つぎに館長公約B「地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します」については、当館の教育普及活動が広く認知されるようになり、学校との連携の機会が増加したとともに、実技系プログラムだけでなく、鑑賞系プログラム、多様な講演会等の実施により、鑑賞教育の充実を図ることができた。しかし、当館ボランティアについては、自主的な組織運営を行うための組織作りや活動指針等を策定したが、抜本的な改革には至らなかった。

館長公約C「戦略的な広報を展開し、情報発信に努めます」については、ホームページをリニューアルすることで活用を促進し、展覧会ごとにターゲットを絞り込んで効果的な広報を実施したが、館全体としての広報戦略の策定に取り組むことができず、課題を残し

た。

最後に館長公約D「施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます」については、ミュージアムショップの1階から2階への移転、カフェの新設等により、利用者のアメニティの向上を図ったことで、美術館全体の利用者増加に繋げることができた。

また、平成21年度に展示室の改修を実施するべく、その検討及び準備を行った。

■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークスの改訂作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取り組みを行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

■平成20年度の活動

平成20年度も引き続きミュージアム・ナビによる自己点検評価とともに、外部の委員による研究活動評価を受けた。それぞれについて説明する。

（1）ミュージアム・ナビによる自己点検評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し自己点検を行うことで業務の改善に取り組む。それによって、Plan-Do-Check-Action（計画－実行－監視－改善）のサイクルを確立する。

自己点検の拠り所となるのは来館者に対するアンケート調査である。ボランティアの協力を得て、統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を加え、意味のあるデータを取り出せるよう心がけている。

20年度は以下の活動を行った。

- (1) アンケート調査結果の集計と分析
 - A. 展覧会観覧者アンケート（5本）
 - B. 教育・普及プログラム参加者アンケート（実技系・イベント系）
 - C. 付帯施設利用者（図書閲覧室、レストラン、ミュージアムショップ）アンケート
 - D. 美術館ホームページによるアンケート
- (2) テキストマイニングによるアンケート自由回答欄データの分析
- (3) グループ・インタビュー

(2) 研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会および学芸員の調査研究に関わる定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼するのがこの委員会である。

■静岡県立美術館研究活動評価委員

（【 】内は専門分野）

- 坂本 満 【西洋絵画・日本洋画】／金沢美術工芸大学客員教授・（前）うらわ美術館館長
- 潮江 宏三 【西洋絵画・現代美術】／京都市立芸術大学学長
- 山梨絵美子 【日本洋画】／東京文化財研究所企画情報部文化財アーカイブズ研究室長
- 榊原 悟 【日本画】／群馬県立女子大学教授
- 金原 宏行 【教育普及・日本画】／常葉学園大学教授、豊橋市美術博物館館長

■開催記録

○委員会

平成20年5月19日

- ・平成19年度研究活動についての評価及び提言
- ・平成20年度研究活動評価スケジュールの確認
- ・「シャガール展 色彩の詩人」評価

○展覧会評価

平成20年9月21日、10月9日

- ・「十二の旅」展

○展覧会評価

平成20年11月19日、28日

- ・「風景ルルル」展

○展覧会評価

平成21年3月24日、26日

- ・「朝鮮王朝の絵画と日本」展

○静岡県立美術館紀要24号（平成21年3月31日刊行）
掲載論文についての評価

■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要項

（設置）

第1条

静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条

委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業
- (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物
- (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項

（組織）

第3条

委員は5名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

（委嘱）

第4条

委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

（任期）

第5条

委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

（委任）

第6条

この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

■評価基準

1) 展覧会

1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、多様な資料（写真や二次資料等）の積極的な活用、館藏品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究（記録・整理を含む）等。
2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。
4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

2) 展覧会カタログ／学芸員のエッセイ

1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、資料的な価値等。
4. その他…特に評価に値する事柄。

3) 研究紀要／館藏品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。
4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

4) 教育・普及プログラム

1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
2. その他…特に評価に値する事柄。

【館長公約 A】人々の感性を磨き、生活に変化をもたらすような魅力的な展覧会を開催します。

【重点目標 1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。

■展覧会活動 展覧会一覧

※ 展覧会名称、会期などが変更になる場合があります。

	企 画 展						収 蔵 品 展	ロダン館
	1	2	3	4	5	6	7	ロダン館 第2
4 APRIL	4/1(火)~11(金) 1~6室閉室						4/1(火)~4/27(日)	
5 MAY	4/12(土)~5/25(日) ※5/5(月)、6(火)は祝日のため開館し、翌7(水)も開館 シャガール 色彩の詩人 終生、抱き続けた故郷のヴィテブスクへの想い モスクワ、パリ、ニースのシャガール作品を一挙公開。 国立ユダヤ劇場のための壁画全7点も特別出品 ※5/13(火)~5/25(日)野田好子回顧展 (県民ギャラリー)						4/29(火祝)~5/25(日) 若冲から 狩野派まで —百花繚乱の18世紀— (GW若冲特別展示)	
6 JUNE	5/26(月)~7/11(金) 工 事 休 館							5/26(月)~6/2(月)休館
7 JULY	7/12(土)~8/31(日) 唐招提寺金堂平成大修理記念 国宝 鑑真和上展						7/12(土)~9/7(日)	6/3(火)~7/11(金) ロダン館のみ開館
8 AUGUST								[第2室] 7/15(火)~9/7(日) 彫刻の伝統
9 SEPTEMBER	9/12(金)~10/26(日) 十二の旅 感性と経験のイギリス美術 ターナーからホックニーまで、時空を超えて世界を旅したイギリス人作家12人を紹介。 絵画・立体・写真・映像による多彩な英国美術の軌跡。						9/9(火)~10/26(日)	[第2室] 9/9(火)~10/26(日) 立つこと/あること 彫刻と版画である
10 OCTOBER								
11 NOVEMBER	11/3(月祝)~12/21(日) 風景ルルル わたしのソトガワとのかかわり方						10/28(火)~12/26(金)	[第2室] 10/28(火)~12/26(金) 古きフランスの旅
12 DECEMBER	12/27(土)~1/1(木) 年末年始休館							
1 JANUARY	1/2(金祝)~1/25(日) 第19回富嶽ビエンナーレ展					1/2(金)~2/12(木)	1/2(金)~2/12(木)	
2 FEBRUARY	1/26(月)~2/16(月) 工事休館					ヨーロッパ 絵画 バロックから近代へ	屏風絵の世界	
3 MARCH	2/17(火)~3/29(日) 富士山静岡空港開港記念 朝鮮王朝の絵画と日本 —宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美— 日韓に所蔵される名品により、朝鮮絵画の全貌を伝える初めての展覧会。 またその影響を受けた若冲など日本の巨匠たちの作品も併せて展示。						2/17(火)~3/29(日) 余白の美	
							3/31(火)~ 新収蔵品展	

■観覧者数一覧

展 覧 会		会 期		観覧者 見込数	観 覧 者 実 績 数						
		期 間	日数		一 般	高校・大学	小・中学	70歳以上	招待	実績数	対見込
企 画 展	シャガール展	4/12～5/25	日 39	人 50,000	(注1) 人 27,971	人 2,816	人 3,311	人 4,406	人 7,064	人 45,568	% 91.1
	国宝 鑑真和上展	7/12～8/31	44	80,000	43,214	2,291	6,981	9,907	11,246	73,639	92.0
	十二の旅	9/12～10/26	39	8,000	4,189	855	989	1,043	2,186	9,262	115.8
	風景ルルル	11/ 3～12/21	42	12,000	4,615	739	1,137	508	2,303	9,302	77.5
	朝鮮王朝の絵画と日本	2/17～3/29	36	15,000	14,456	286	1,600	2,510	3,955	22,807	152.0
	計		200	165,000	94,445	6,987	14,018	18,374	26,754	160,578	97.3
収 蔵 品 展		4/ 1～3/31	300	15,000	9,164	(注2) 0	5,348	1,434	1,904	17,850	119.0
合 計			-	180,000	103,609	6,987	19,366	19,808	28,658	178,428	99.1
第19回富嶽ビエンナーレ展		1/ 2～1/25	21	11,000	5,185	264	3,040	1,236	2,516	12,241	111.3
総 合 計				191,000	108,794	7,251	22,406	21,044	31,174	190,669	99.8
移動美術展	富士宮市	11/ 4～11/10	6	2,000	-	-	-	-	1,871	1,027	51.4
	浜松市	11/25～11/27	3	2,000	-	-	-	-	798	480	24.0

(注) 1. シャガール展の観覧者「一般」には、カップルデーチケットの158人と、静岡県舞台芸術センターとのセット券33人を含めている。

(注) 2. 収蔵品展観覧者の「一般」には「大学生」が、「小・中学生」には「高校生」がそれぞれ含まれている。

■年度別観覧者数

(単位：人)

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成10年度	153,099
昭和62年度	174,031	平成11年度	107,977
昭和63年度	214,156	平成12年度	146,833
平成元年度	229,258	平成13年度	207,340
平成2年度	233,904	平成14年度	170,390
平成3年度	190,361	平成15年度	184,095
平成4年度	173,665	平成16年度	146,706
平成5年度	218,921	平成17年度	129,768
平成6年度	410,182	平成18年度	222,608
平成7年度	245,028	平成19年度	184,535
平成8年度	178,701	平成20年度	190,669
平成9年度	127,299	累 計	4,585,272

「シャガール展 色彩の詩人」

主催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送
会期：平成20年4月12日（土）～5月25日（日）
休館日：毎週月曜日、ただし5月5日は開館
観覧料：一般 1,100円（900円）
70歳以上・大学・高校生 500円（400円）
中学生以下 無料

マルク・シャガール（1887-1985）は、モスクワから480km離れたユダヤ人の町ヴィテブスクに生まれ、画家を志した後は、ペテルブルグ、モスクワ、パリ、ベルリン、ニューヨークなどに移り住み、型破りの愛と聖の絵画世界をつくりあげた。ヴァイオリン弾き、空を舞う恋人たち、翼のある振り子時計、2つの顔をもつ花嫁、曲芸師や道化、村人や牛・山羊・鶏…。これらのモチーフを、枯渇することのない想像力と天与の色彩感覚で自在に組み合わせた画面は、まさに奔放な叙情の爆発であった。

故郷ヴィテブスクにいる両親や知人、そしてその町での体験は、シャガールの記憶の奥底に深く刻み込まれ、いつ、どこにいても特別な感情として湧き上がった。父、母、祖父、叔父、出産、結婚式、町の火事など、少年時代にマルクがユダヤ人社会の中で触れ合い、見聞した人々や出来事が、次々に主題として選択されたのだった。シャガールの故国と故郷へのノスタルジアは、ただ過去を懐かしいと思うだけでなく、旺盛な創造活動を促すエネルギーを内包していた。

このたびの展覧会は、モスクワの国立トレチャコフ美術館と、パリのシャガール家およびニースの国立シャガール美術館の全面的な協力を得て、ようやく実現することになった。シャガール初期の集大成であるモスクワのユダヤ劇場のための壁画全7点をはじめ、油彩、テンペラ、グアッシュ、版画、タペストリーなど約160点が出品された。

■関連事業

・特別講演会

4月20日（日） 14：00-15：30 講堂

「形成期の芸術的環境ーキュビズム、オルフィスムなど」 八重樫春樹氏（美術史家）

・美術講座

5月11日（日） 14：00-15：30 講座室

「シャガール芸術とノスタルジア」 小針由紀隆（当館学芸部長）

5月18日（日） 14：00-15：30 講座室

「シャガールのヴァイオリン」 小林旬氏（静岡音楽

館学芸員）

・学芸員によるフロアレクチャー 小針由紀隆（当館学芸部長）

4月26日（土） 14：00～

■カタログ

29.7×22.6cm 230ページ

寄稿論文

「色彩の詩人」エカテリーナ・セレズネイワ

「詩と色彩の対話」メレット・メイエル

「ユダヤ劇場壁画」タチアナ・グバノワ

各論

「なぜ恋人たちは空を飛ぶ——シャガールの超現実的表現とロシアの地、およびユダヤの精神性との関連について」村松和明

「マルク・シャガールとノスタルジアの行方」小針由紀隆

「シャガールと劇場空間」相良周作

「紡がれる思想——シャガール初期銅版画シリーズ」村上哲



▲チラシ

作品図版

- 第1章： 初期絵画 [1910年代]
- 第2章： ユダヤ劇場
- 第3章： 中期・晩期絵画 [1920～1970年代]
- 第4章： 版画集『わが人生』
- 第5章： 『死せる魂』
- 第6章： 版画集『ラ・フォンテーヌ』の寓話
- 第7章： 版画集『聖書』
- 第8章： 戦後のリトグラフ
- 第9章： タペストリー

年譜

「マルク・シャガールの生涯」

参考文献

出品リスト

■出品目録

p.92～p.97参照

唐招提寺金堂平成大修理記念

国宝 鑑真和上展

- 主催：唐招提寺、静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送
- 後援：文化庁、奈良県、奈良県教育委員会、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会
- 特別協賛：清水銀行
- 学術協力：奈良国立博物館
- 協力：日本通運
- 会期：平成20年7月12日（土）～8月31日（日）
- 休館日：毎週月曜日
（ただし、月曜祝日の場合は開館、翌火曜休館）
- 開館時間：10：00～17：30（入室は17：00まで）
※毎週土曜日は20：00まで夜間開館
- 観覧料：一般1,200円（1,000円）、高校生・大学生・70歳以上600円（500円）、中学生以下無料
※（ ）内は団体または前売料金

唐招提寺は、12年に及ぶ多難な渡航を乗り越えて来日した中国・唐の高僧、鑑真和上によって759年に創建された。創建当初の面影を残す主要な伽藍の中でも、金堂は、天平の金堂建築様式を唯一今に伝える貴重な遺構として名高い。過去4度の大修理を経てその姿を保ってきた金堂であるが、平成のこの時代に大規模な解体修理が行われることとなり、これを記念して開催されたのが本展覧会である。ほぼ年1回のペースで日本各地を巡回してきたが、金堂の完成を控え、奈良以外の地では静岡が最終会場となった。

唐招提寺の歴史的な意義を示す文物や、唐の円熟した芸術を背景に花開いた天平時代の仏教美術の至宝——国宝9件・重要文化財34件を含む約140点——が一堂に公開されたが、中でも、8世紀に制作され日本最古の肖像彫刻として知られる鑑真和上坐像（国宝）をここ静岡で公開できたことは特筆すべきであり、観覧者の反響も大きかった。また、唐招提寺長老をはじめとした外部講師を招いての連続講演会も、予想を超える聴講者を得ることとなり、仏教美術への関心の高さが改めて確認された。

なお、小・中学生の観覧料無料化以降はじめての夏季休業期間の展覧会であることから、小学生、中学生向けにそれぞれ特別チラシを作成し、観覧料無料化の周知と展覧会観覧促進を図った。



▲チラシ

■関連事業

連続講演会

会場はいずれも静岡県立大学大講堂

7月21日（月・祝）特別記念講演 13：30～

「共結来縁」（ともに来縁を結ばん）

講師：松浦俊海師（律宗総本山 唐招提寺長老）

7月21日（月・祝）特別記念講演 14：30～

「鑑真和上と唐招提寺の仏像」

講師：鷲塚泰光氏（展覧会総監修、前奈良国立博物館館長）

7月26日（土）14時～

「講座 鑑真和上の教え－戒律について」

講師：石田太一師（唐招提寺執事）

8月2日（土）14時～

「仏像のひみつに近づく」

講師：山本勉氏（清泉女子大学教授）

8月9日（土）14時～

「蓮のイコノロジー」

講師：宮治昭（静岡県立美術館館長、龍谷大学特任教授）

法要見学会

7月26日（土）9：00～、8月16日（土）9：00～、
26日（火）16：30～

夏休み子どもワークショップ

p.61参照

夜間開館特別企画 夕食付ファミリー鑑賞会
8月9日(土)、16日(土) 16:30~20:00

■カタログ

30.5×23.0cm 224ページ

総監修：鷺塚泰光

監 修：阪田宗彦

発 行：TBS

内 容：論文「唐招提寺の美術と歴史」鷺塚泰光、
「歴史の中の鑑真和上」東野治之、「戒律思想史上の
鑑真和上」末木文美士、「中世唐招提寺の復興と覚盛・
慶円」細川涼一、「金堂の歴史と修理」鈴木嘉吉、「唐
招提寺金堂の解体修理現場から」田中泉、「瓦からみ
た唐招提寺」前園実知雄、「正倉院に見る鑑真和上の
足跡」三宅久雄

ごあいさつ、図版、唐招提寺文学散歩、鑑真和上略年
譜、唐招提寺略年表、作品解説、作品一覧

■出品目録

p.98~p.99参照

十二の旅ー感性と経験のイギリス美術

主催：静岡県立美術館
後援：ブリティッシュ・カウンシル
助成：財団法人 地域創造
会期：2008年9月12日（金）～10月26日（日）
休館日：毎週月曜日
* 9月15日は開館し、翌16日（火）休館

日英外交関係150周年にあたる年に、「旅」という視点から構成したイギリス美術展。イギリスの文化にとって旅はきわめて重要な要因であり続けてきた。この展覧会は、日本の公立美術館4館（栃木県立美術館、静岡県立美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館）の共同企画で、主催館のコレクションを主体に、19世紀から現代まで12人の英国人作家を紹介した。絵画、彫刻、版画、写真、映像など、幅広いジャンルで構成された約170点の出品作品には、日本を含む遠く離れた土地での体験のみならず、過去の記憶という時間の旅をテーマにしたものも含まれた。当館会場では、12人の作家たちを、下記の4つのセクションに分けて展示・構成した。

1 日本

「日本」に触発された作家たち。日本の自然や伝統的技術、日本ならではのモチーフに魅せられた作品の数々。

ボイル・ファミリー、アンディ・ゴールズワージー、チャールズ・ワグマン、バーナード・リーチ、デイヴィッド・ホックニー、デイヴィッド・ナッシュ

2 記憶

「時間」をさかのぼる作家たち。愛情あふれる家族との一場面や、辛く厳しい過去の記憶。

アンソニー・グリーン、モナ・ハトゥーム

3 抽象

美術への探求から、抽象へとたどり着いた作家たち。ヘンリー・ムーア、ベン・ニコルソン

4 欧州

故郷・英国への愛着、そしてヨーロッパへの旅を作品にした、風景画の巨匠たち。

ジョン・コンスタブル、ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー

出品作品の中でも、特に大きい比重を占めたのは、日本をモチーフとした、あるいは実際に日本で制作された作品である。これらを紹介することにより、日英美術の出逢い、あるいは日英文化交流という側面を検証することにもなった。

なお本展は、2008年度に駐日イギリス大使館が中

心になって主催した、日本におけるイギリス文化紹介のフェスティバルUK-Japan2008のイベントとして公認された。

■カタログ

発行および編集：十二の旅：感性と経験のイギリス美術展実行委員会

デザイン：今井千恵子(n.b graphics) 30×23cm 192頁

あいさつ 謝辞

杉村浩哉「十二の旅のもたらすもの」

関連地図

カタログ（年譜、作家・作品解説含む）

ボイル・ファミリー

ジョン・コンスタブル

アンディ・ゴールズワージー

アンソニー・グリーン

モナ・ハトゥーム

デイヴィッド・ホックニー

バーナード・リーチ

ヘンリー・ムーア

デイヴィッド・ナッシュ

ベン・ニコルソン

ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー

チャールズ・ワグマン

杉野秀樹「イギリス美術の一側面ーメゾチントの流行と衰退」

作家資料（作家別展覧会歴、主要参考文献） テキスト英訳 出品作品リスト

■関連事業

□特別講演会 3回シリーズ・イギリスへの招待

*いずれも、午後2時～3時30分。当館講堂。

9月21日（日）

「イギリス周遊ー自然に触発される旅」潮江宏三氏（京都市立芸術大学学長）

10月12日（日）

「イギリスの暮らしー絵になるイングリッシュガーデン」吉谷桂子氏（英国園芸研究家／ガーデンデザイナー）

10月18日（土）「イギリスのティーハウスやウォーキングを楽しむ、滞在型旅のすすめ」小関由美氏（文筆家／英国アンティーク研究家）

□学芸員によるフロア・レクチャー

9月28日(日)、10月4日(土)、10月25日(土)
14:00~15:00

□版画入門

「キミもこれで銅版マエストロー 2種の版に挑戦!」9月14日(日)・15日(月・祝) 10:15~16:30

柳本一英氏(版画家) 実技室

□実技講座

「石こう実技講座ーあなたの場所をきりとる」

10月11日(土)・12日(日) 10:15~16:30

鈴木雅道(当館教育普及スタッフ) 実技室

□「EPO」ロダン館アコースティックライブ

10月5日(日) 14:00~15:30 ロダン館

EPO(歌手・セラピスト)、笹子重治(ギタリスト)

■メディア紹介

『毎日新聞』(10月10日)

NHKテレビ「新日曜美術館」アートシーン(10月11日)

『新美術新聞』1161(9月1日)号

『R.S.V.P』第3号(2008年秋号)

■出品目録

p.100~p.104参照



▲チラシ

風景ルルル～わたしのソトガワとのかかわり方

主催：静岡県立美術館
共催：中日新聞東海本社、テレビ静岡
助成：財団法人 地域創造
会期：平成20年11月3日(月・祝)～12月21日(金)
〈42日間〉
開館時間：午前10時～午後5時30分*入場は閉館の30分前まで
休館日：毎週月曜日(ただし11月3日〔月・祝〕、11月24日〔月・祝〕は開館、11月4日〔火〕、11月25日〔火〕は休館)

■ 展覧会の概要

現代の風景表現には、断片的で、風景それ自体が大した意味を持たず、どことなく軽く、ゆるく、ささやかで、流動的といった特徴がみられる。風景とともに人物が表される場合には、風景と人物とが明確なつながりを持たず関係が曖昧である。テーマや表現媒体が多様化する中で、同時代の表現者たちが表す風景は、かつて「風景画」として独立したテーマとして存立し、認識されてきたようなスタイルとは異なった表れ方をしている。この展覧会では、このような現代にみられる風景表現を「ルルル」という軽味をもった擬音語でとらえ、これら特徴を備えた8人のアーティストの作品を紹介した。

会期中は、出展作家によるワークショップ、アーティストトークを開催したほか、地域との連携をはかる催しを多数開催した。また、同時開催の収蔵品展「リゾナンス」では、「風景ルルル展」でとりあげた現代作家の作品と、彼らの作品に共鳴する当館の収蔵作品を組み合わせ展示。時空を超えた表現が触れ合う空間を創出した。

広報媒体や展覧会図録のアートディレクションを森本千絵氏に依頼し、会期中、出展作家とのトークショーを開催した。

■ 出展作家(順不同)

展示室1：高木紗恵子(絵画)
展示室1：照屋勇賢(立体・インスタレーション)
展示室2：柳澤顕(絵画)、
展示室3：鈴木理策(写真)、
展示室4、エントランスホール：内海聖史(絵画)
展示室5：ブライアン・アルフレッド(絵画・コラージュ・映像)
展示室6：佐々木加奈子(写真)
展示室7：小西真奈(絵画)

■ 関連事業

- オープニングイベント 出品作家によるギャラリートーク
高木紗恵子、照屋勇賢、柳澤顕、内海聖史、佐々木加奈子、小西真奈
11月3日(月・祝) 14:00～15:30/展示室 参加者 85名
- スペシャルトーク
照屋勇賢×森本千絵(デザイナー、本展のポスター、図録デザイン、イメージ映像制作)
11月15日(土) 14:00～15:30/静岡県立図書館、参加者 150名
主催:静岡県立美術館・財団法人静岡県教育研究会・静岡県教育会館・静岡県教育事業団体連絡会
- ブライアン・アルフレッドによる公開制作
11月7日(金) 13:00～16:30/実技室、参加者 38人



▲ チラシ

○アーティスト・トーク

ブライアン・アルフレッド 11月9日（日）14：00～15：30／講座室にて、参加者40人
小西真奈 11月22日（土）14：00～15：30／講座室にて、参加者40人
柳澤顕 11月23日（日）14：00～15：30／講座室にて、参加者30人

○鈴木理策ワークショップ「谷田風景散策」

撮影会 11月24日（月・祝）10：00～16：30 美術館周辺
講評会／アーティスト・トーク 12月7日（日）14：30～16：30 カフェ・ロダンにて
参加者23人

○佐々木加奈子ワークショップ「風景の中のわたしin 旧マッケンジー邸」

展覧会見学・レクチャー・撮影会場下見
12月13日（土）10：00～16：00
撮影会・講評会 12月14日（日）10：00～15：00
旧マッケンジー邸
参加者31人

○アートとお茶で感じる静岡の風景

11月29日（土）、11月30日（日）両日とも10：30～、13：00～、14：30～（各回1時間半程度）
案内役：川谷承子（静岡県立美術館学芸員 本展覧会担当）
協力：富士東製茶農業協同組合青年部、静岡県立美術館ボランティア草薙ツアグループ
参加者65人

○ロダン館ミュージアムコンサート【とらわれのない 日常informal usualness】

黒田亜樹、野口千代光 ピアノとヴァイオリンコンサート
日時11月16日（日）14：00～15：30 出演者 黒田亜樹（ピアノ）野口千代光（ヴァイオリン）、参加者 200人

○現代アートの世界－「風景ルルル」展と「風景の中のフウケイ」展出展作家による公開座談会

11月8日（土）13：30～15：00（13：00より受付開始）／当館エントランスホールにて。主催：静岡県立美術館、アートプロジェクトSHIZUOKA2008実

行委員会、参加者 70人

○旧マッケンジー邸、中勘助文学記念館 「風景の中のフウケイ」展（会期：11月3日（月・祝）～11月16日（日））、静岡アートギャラリー「木のぬくもり」展（会期：10月18日（土）～12月23日（火・祝））と合同でスタンプラリーを開催。

○第9回 ストリートフェスティバル・イン・シズオカに「風景ルルル」展PRブースを出展。
日時：11月22日（土）、23日（日）11：00～18：30
場所：静岡市葵区青葉シンボルロード

■カタログ

21×26cm 208ページ

発行：静岡県立美術館

編集：多田智美（Licht/alt）

アートディレクション：森本千絵（goen°）

デザイン：酒井洋輔（京都goen°）、京都goen°
井上みすず（goen°）

執筆：川谷承子（静岡県立美術館）

翻訳：板井由紀、水野大二郎、小林直人

内容：論文 川谷承子「風景ルルル～わたしのソトガワとのかかわり方～」距離や地理を越えたコミュニケーションを求めて

図版、作家解説、作家略歴、参考文献、出品リスト

■掲載記事

（新聞）

11月8日 「プロの美術制作を間近で」『中日新聞』朝刊

11月9日 「作品への思い作家らが披露」『中日新聞』朝刊

11月12日 「日本の浮世絵がヒント」『中日新聞』朝刊

11月12日 「国内外若手8人現代アート紹介」『静岡新聞』夕刊

11月16日 「ポスターや出品作語る 風景ルルル作家2人がトーク」『中日新聞』朝刊

11月19日 「風景ルルル 作品紹介①高木紗恵子」『中日新聞』朝刊

11月19日 「風景ルルル展 若手作家の作品80点」『毎日新聞』朝刊

11月20日 「風景ルルル 作品紹介②柳澤顕」『中日新聞』朝刊

11月21日 「風景ルルル 作品紹介③小西真奈」『中日

- 新聞』朝刊
- 11月22日 「風景ルルル 作品紹介④内海聖史」『中日新聞』朝刊
- 11月25日 「視点新たに自然活写 風景ルルル出展 鈴木さんが指導」『中日新聞』朝刊
- 12月4日 「風景ルルル 作品紹介⑤鈴木理策」『中日新聞』朝刊
- 12月5日 「風景ルルル 作品紹介⑥照屋勇賢」『中日新聞』朝刊
- 12月6日 「風景ルルル 作品紹介⑦ブライアン・アルフレッド」『中日新聞』朝刊
- 12月7日 「風景ルルル 作品紹介⑧佐々木加奈子」『中日新聞』朝刊
- 12月16日 「学生や主婦“撮影”学ぶ 風景ルルル出品の佐々木さんと」『中日新聞』朝刊

(雑誌等)

- 11月7日 『In Red』12月号 宝島社 概要紹介(画像付)
- 11月7日 『日経WOMAN』12月号 日経BP社 概要紹介(画像付)
- 11月17日 『美術手帖』12月号 美術新聞社 概要紹介(画像付)
- 10月 『小原流』冊子 概要紹介(画像付)
- 10月 『BEAUTY WOO』概要紹介(画像付)
- 11月6日 『静岡リビング』11月8日号 概要紹介(画像付)

(オンライン情報サイト)

- 10月28日 『STUDIO VOICE』ONLINE NEWS 概要紹介
- 11月1日 「アートナビ」『美術手帖』の携帯アート情報サイト 12月号
- 11月28日 『e-SPUR』(画像カラー)

■出品目録

p.105～p.107参照

「朝鮮王朝の絵画と日本—宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美—」展

主催：静岡県立美術館、静岡第一テレビ、読売新聞大阪本社、美術館連絡協議会

後援：駐日韓国大使館 韓国文化院、在日本大韓民国民団静岡県地方本部

特別協賛：静岡銀行

協賛：きんでん、ダイワボウ情報システム、ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン

協力：日本航空

助成：国際交流基金、全日本社会貢献団体機構

■概要

朝鮮王朝は、太祖李成桂（在位1392～1398）によって1392年に建国された、朝鮮半島最後の王朝である。500年以上に渡る王朝の歴史の中で、中国とは明・清、日本とは室町・江戸の各時代に密接な関わりをもってきた。にもかかわらず、一般はもとより研究者にとっても朝鮮絵画は必ずしも馴染み深いものではない。しかし、日本の絵画との関係は想像以上に大きなものがあり、特に雪村をはじめとする室町絵画や、俵屋宗達・池大雅・伊藤若冲などといった近世の日本絵師たちに与えた影響は注目に値する。

本展は、国内のみならず韓国からも作品を借用し、朝鮮王朝の絵画を通史的に紹介する初めての試みである。中国絵画からの影響を受けながらも、日本とはまた異なる独自の展開を遂げていった様子を概観するとともに、朝鮮絵画からの影響も考えられている日本の絵画作品もあわせて展示し、両者の関係について実際の作品を通じて検証する。

展示室では、まず冒頭で朝鮮絵画と日本絵画の並列展示を行い、両者の関係がいかに関接なものであったかを示した。そのうえで、朝鮮絵画を前期・中期・後期と時代順に展示し、その変遷を概観。最後に、朝鮮絵画からの影響が想定可能な日本絵画を展示し、より緩やかなレベルでの両者の関係を示した。

日本美術史においては、これまで中国との関係に偏重していたきらいがあったが、韓国を含む東アジア的視点での美術史の再構築が必要であることを提唱した。

■関連事業

(1) 特別講演会（場所：当館講堂 各13：30～15：00）

2月21日（土）「朝鮮王朝の絵画と室町絵画」

橋本慎司氏（栃木県立美術館特別研究員）

3月7日（土）「朝鮮王朝中期の絵画—明宗の時代を中心に」

板倉聖哲氏（東京大学東洋文化研究所准教授）

(2) シンポジウム「朝鮮時代の絵画とその周辺—時代背景への視点」

共催：東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—

（平成17年度～21年度文部科学省特定領域研究）

3月1日（日）（場所：当館講座室 13：30～17：30）

① 「朝鮮時代の政治・文化と絵画」

六反田豊氏（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

② 「風俗画に見る朝鮮時代の経済と社会」

須川英徳氏（横浜国立大学教育人間科学部教授）

③ 「朝鮮通信使の遺したもの」

長森美信氏（天理大学国際文化学部専任講師）

④ 「絵画に描かれた朝鮮時代の水辺風景」

森平雅彦氏（九州大学大学院人文科学研究科准教授）

(3) 美術講座（場所：当館講座室、13：30～15：00）

3月15日（日）「朝鮮絵画と近世の日本絵画」

福士雄也（静岡県立美術館学芸員）

(4) 李京玉（イ・キョンオク）先生のポジャギ教室

朝鮮生まれの風呂敷を、パッチワークのようにして制作。

2月28日（土）、3月21日（土）場所：当館講座室 各日13：30～16：30

(5) 特別映像上映会

3月14日（土）場所：当館講堂 13：30～14：45

「朝鮮通信使 駿府発・21世紀の使行録」（監督 山本起也、主演 林隆三）

■図録

29.5×21.0cm 323ページ

・総論

朝鮮王朝後半期の絵画活動と傾向／洪善杓

韓国仏画の展開—法古創新／鄭于澤

朝鮮王朝前期の瀟湘八景図—東アジアの視点から／板倉聖哲

室町絵画と朝鮮王朝の絵画／橋本慎司

・各論

鄭叡の「真景」－鄭叡の《朴淵瀑図》を中心に／石附啓子

朝鮮絵画と近世の日本絵画／福士雄也

岡山県内所在の朝鮮王朝時代の仏画について／中田利枝子

仙仏奇踪と朝鮮絵画／五十嵐公一

・構成

第1部 朝鮮絵画の精華

第1章 朝鮮絵画の流れ 山水画を中心に

第2章 仏画の美 高麗から朝鮮王朝へ

第3章 絵画と工芸 越境する花鳥の美

第4章 「民画」誕生

第2部 日本人のまなざし

第5章 交流の形－朝鮮通信使の果たした役割

第6章 日本画家のまなざし－日本絵画に与えた影響

作品解説

関連地図／石附啓子

朝鮮絵画史年表／福士雄也

朝鮮絵画史研究文献表／石附啓子

出品リスト

総論（韓国語訳）

出品リスト（韓国語訳）

■関連記事

・11月20日

「韓国・朝鮮の絵画」『別冊太陽』平凡社（特集号）

・2月24日、25日、26日

（展覧会及び出品作品の紹介記事連載）『読売新聞』
静岡県版

・2月26日

山脇佐江子（美術史家）「互いの交流が生んだ多様性」『日本経済新聞』東京本社夕刊文化欄

・3月10日

「知られざる隣国の美」『朝日新聞』名古屋本社朝刊（西岡一正記者）

・3月20日

「特集 朝鮮王朝の絵画」『アジア遊学』120 勉誠出版（特集号）

■出品目録

p.108～p.114参照



▲チラシ

第19回富嶽ビエンナーレ展

主催：静岡新聞社・SBS静岡放送、静岡県立美術館
会期：平成21年1月2日（金）～1月25日（日）
会場：静岡県立美術館 2階展示室及び1階県民ギャラリー
休館日：毎週月曜日
※ただし月曜祝日の場合は開館、翌火曜休館
観覧料：一般 600円（400円）
高校生・大学生・70歳以上 300円（200円）
中学生以下 無料
※（ ）内は20名以上の団体および前売料金。

静岡新聞創刊40周年にあたる1982年（昭和57年）、
「富嶽文化賞展」が、静岡県の文化活動を推進する芸術家を発掘し、その芸術活動を奨励することを目的に発足。その後、1993年（平成5年）第11回から6部門同時公募の隔年開催とし、名称を「富嶽ビエンナーレ展」と改める。

このビエンナーレ展は、広く創作活動を通じて顕著な業績を上げ、将来ともに活躍が期待される芸術家を発掘し、奨励する公募展で、出身、在住、国籍を問わず広く作品を募集し、優れた作品を結集することにより、さらなる芸術文化の向上を図ることを趣旨としている。部門は、平面作品・立体作品《日本画、油彩画、水彩画、版画、工芸、彫刻・造形》からなっている。

第19回「富嶽ビエンナーレ展」の応募点数は全534点。内訳は日本画50点、油彩画200点、水彩画74点、版画23点、工芸99点、彫刻・造形88点。県外からの出品は199点であった。以下のとおり13点が入賞した。

大賞／能島芳史「風蝕・南瓜G」 パネル・白亜地・油彩 194×162cm
準大賞／中村葉子「ある日の午後」 キャンバス・油彩・ジェッソ・アクリル 130×194cm
準大賞／家住利男「M.0811101」 ガラス 20×20×200cm
優秀賞／大石 泉「The space in a forest」 銅 60×160×175cm
優秀賞／松岡圭介「an elephant man」 木・磁石・鉄粉他 196×108×56cm
佳作／志賀絵梨子「繁華」 キャンバス・油彩 162×162cm
佳作／渡辺昌哉「刻が見える」 キャンバス・アクリル 194×162cm
佳作／高杉尚子「狂想曲を奏でる（虎跳峡）」 キヤ

ンバス・水彩（アクリル） 162×162cm
佳作／小田淑郎「森の記NO 1 1 - 宙返り」 紙・油彩 木版・コラグラフ 120×91.5cm
佳作／杉山英雄「還暦同窓会」 紙・油性インク、紙版、ドライポイント 56×98cm
佳作／豊田共子「WAVE・スイング」 染織 186×93.7cm
佳作／崎山隆之「扁壺 [聴涛]」 陶器 43×43×43cm
佳作／笹原奈央「蘇生へのステップ」 エノキ、シラカバ 200×200×170cm

■表彰式

平成21年1月17日（土）14：00～ 静岡県立美術館講堂

■カタログ

23.9×25.4cm、62ページ

紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の昭和58年に紀要第1号を刊行し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。従って、研究テーマは主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に従い、広く美術および美術館をとりまく諸問題まで取り扱う。成果品は、例年のように、全国の研究機関、研究者へ配布した。

第24号

■版 型 29.7×21.0cm

■頁 数 56ページ

■発効日 平成21年3月31日

■内容

□口絵図版

- ・中村岳陵《牡鹿啼く》(全図) 当館蔵
- ・中村岳陵《白狗》 横須賀美術館蔵

□論文

- ・小針由紀隆「1818-21年のアシル=エトナ・ミシャロン-歴史的風景画家のアイデンティティはどのように形成されたのか?-」
- ・堀切正人「石田徹也の自画像について-《(無題7)》を中心に-」
- ・森充代「中村岳陵《牡鹿啼く》について-古典文学主題再生の試み」

□各論日・英レジュメ

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌などへの寄稿や、図録等の作品解説などは除いている。

◆小針由紀隆

- ・「マルク・シャガールとノスタルジアの行方」『シャガール 色彩の詩人』展図録（西日本新聞社／平成20年4月）
- ・「1825-1828年のコロラー・オレヴァーノ風景をめぐる一つのメモ」『アマリリス』No.92（静岡県立美術館ニュース／平成21年1月）
- ・「1818-21年のアシル＝エトナ・ミシャロンー歴史的風景画家のアイデンティティはどのように形成されたのか？」『静岡県立美術館紀要』第24号（平成21年3月）

◆飯田 真

- ・「天保期の富士山図・谷文晁筆「富士山図屏風」をめぐる」『アマリリス』No.93（静岡県立美術館ニュース／平成21年4月）

◆南 美幸

- ・「彫刻」『歴史学事典 第15巻 コミュニケーション』（弘文堂／責任編集・樺山紘一／平成20年6月）
- ・「ジョン・コンスタブル」「ヘンリー・ムーア」『十二の旅ー感性と経験のイギリス美術』展図録（十二の旅：感性と経験のイギリス美術実行委員会／平成20年4月）

◆堀切正人

- ・「石田徹也の自画像についてー《（無題7）》を中心にー」『静岡県立美術館紀要』第24号（平成21年3月）
- ・「公開シンポジウム 大学と博物館を結ぶ10 地域とつながる博物館 報告4 静岡NewArt〈あなたの居場所〉展の試み」『生涯学習教育研究』No.11（静岡大学生涯学習教育研究センター）

◆新田建史

- ・「ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー」『十二の旅 感性と経験のイギリス美術』展図録（十二の旅：感性と経験のイギリス美術実行委員会／平成20年4月）
- ・「未知なる都市の彼方へーピラネージにみるエキゾティシズム」『ピラネージ版画展2008ー未知なる都

市の彼方へー』図録（町田市立国際版画美術館／平成20年10月）

◆川谷承子

- ・「距離や地理を越えたコミュニティーを求めて」『風景ルルル〜わたしのソトガワとのかかわり方』展図録（静岡県立美術館／平成20年12月）

◆村上 敬

- ・「博物館実習について」『アマリリス』No.91（静岡県立美術館ニュース／平成20年7月）
- ・「〈彫刻〉と〈工芸〉と〈いい仕事〉ーものをめぐる言葉について」『美術史の余白に 工芸・アール・現代美術』、「工芸」シンポジウム記録集編集委員会編、美学出版（平成20年9月）
- ・「静岡県立美術館事業評価システムの現状と今後について」『博物館研究』（44-4）（財）日本博物館協会編／平成21年3月）

◆森 充代

- ・「下村観山・横山大観《日・月蓬萊山図》ー主題と朦朧体との関わりについて」『アマリリス』No.92（静岡県立美術館ニュース／平成20年10月）
- ・「中村岳陵《牡鹿啼く》についてー古典文学主題再生の試みー」『静岡県立美術館紀要』第24号（平成21年3月）

◆福士雄也

- ・「若冲の手紙」『アマリリス』No.89（静岡県立美術館ニュース／平成20年4月）
- ・「朝鮮絵画と近世の日本絵画」『朝鮮王朝の絵画と日本』展図録（読売新聞大阪本社／平成20年11月）
- ・「若冲と朝鮮絵画」『アジア遊学』120（勉誠出版／平成21年3月）

<引用・参考文献掲載された当館の研究成果>

■研究論文：出光佐千子「池大雅筆「松蔭観湖・夏雲
霊峰図」屏風の主題再考察」『国華』1354号（2008
年8月・国華社）参考文献掲載

- ・山下善也「江戸時代における伝雪舟筆「富士三保
清見寺図」の受容と変容」『細川コレクション・
日本画の精華』展図録（1992年・静岡県立美術館）
- ・山下善也「個性をうつす鏡－探幽の富士図制作」
『遠澤と探幽』展図録（1998年・福島県立博物館）

■研究論文：内山淳一「山水癖の絵画－谷文晁「東北
地方写生図」をめぐって」『国華』1355号（2008年
9月・国華社）参考文献掲載

- ・飯田真「原在正筆「富士山図巻」をめぐって－江
戸後期京都画壇における実景図制作の一様相－」
『静岡県立美術館紀要13号』（1998年・静岡県立
美術館）

■研究発表：稲墻朋子（学習院大学）「中林竹洞にお
ける作画と学問」美術史学会全国大会（2008年6月
1日・東京大学）参考文献掲載

- ・『描かれた日本の風景』展図録（1995年・静岡県
立美術館）
- ・飯田真「原在中筆「富士三保松原図」について－
江戸時代後期の富士山図をめぐって」『静岡県立
美術館紀要16号』（2001年・静岡県立美術館）

■図書：佐藤康宏『日本美術史』<放送大学教材>（放
送大学教育振興会・2008年9月刊行）参考文献掲載

- ・『狩野探幽の絵画』展図録（1997年・静岡県立美術館）
- ・『文人の夢・田能村竹田の世界』展図録（2005年・
静岡県立美術館）
- ・『明治の浮世絵師・小林清親展』図録（1998年・
静岡県立美術館）
- ・『もうひとつの明治美術』展図録（2003年・静岡
県立美術館ほか）
- ・『<彫刻>と<工芸>』展図録（2004年・静岡県立美術館）

■図録：『桃山・江戸絵画の美』（徳川美術館・2008年
4月）参考文献掲載

- ・山下善也「詩仙堂の丈山と狩野探幽をめぐって」
『アマリリス』N0.18（1990年・静岡県立美術館）

■図録：『静かなる情熱－藤川勇造とロダンの美』（香
川 県立ミュージアム 2008年4月）参考文献掲載

・『ロダンと日本』展図録（2001年・静岡県立美術
館ほか）

研究会

平成20年度に開催した研究会の題目と要旨は以下のとおりである。この研究会は、準備室時代から始まり、ほぼ月1回ペースで現在まで実施されている。発表者である学芸課職員は自由にテーマを設定できるが、当館における展覧会企画や館蔵品研究に関わる発表も多い。発表時間は約40分で、発表後は館長および同僚たちとの質疑応答を行う。20数年続いているこの研究会は、当館でアカデミックな伝統を形成し、ここから有益な示唆を得ることも少なくない。

4月

中村岳陵《牡鹿啼く》について

森 充代

中村岳陵の代表作のひとつ《牡鹿啼く》について、琳派学習を反映した造形的特質を指摘した上で、昭和初期の日本画における文学主題表現について考察した。

描かれた樹木の種類や配置、土坡や金地の平面的構成や抽象性の高い形態感覚、鮮やかな色彩など、本作には明らかな琳派的要素が観察できる。加えて、再現性の高い細密描写によって工芸的な要素を抑制しつつ、装飾性と写実性のバランスを取り、造形的な堅固さを持たせている。これらの効果を用いて伝統的な文学主題を表現した点に、本作の重要な特質がある。和歌主題“牡鹿啼く”の文学的情緒の表出に主眼を置いた構成は、造形のみならず、表現内容や、意匠化・抽象化した画面の効果と文学的情感とを結びつける手法をも琳派に学び、再生させたものといえ、この点に、琳派・やまと絵の流れを汲む近代画家としての岳陵の独自性と意義を見出すことができる。

6月 第一回

博物館実習について

村上 敬

博物館実習の社会的意義を明らかにし、ある程度体系化されたカリキュラムを設定し実践していくための端緒となることを目指した発表。まず、博物館実習についての大学側・ミュージアム側の言説を概観、整理した。結果、人的・コスト的負担や受け入れ先確保の難しさなどの技術的問題以上に、実習に求められる要件が大学にとってもミュージアムにとっても不明であることが本質的問題としてあることを指摘した。

一方、「生涯学習推進施設」としての性質が強くと求められるようになったミュージアムの専門職員を現状

のように「学芸員」として一本化しておくべきか職種ごとに細分化していくべきか、ということも問題となりつつある。このような状況下、従来のような「コンサバター&レジストラ入門」といった実習から脱してミュージアム支援者作りのツールとして博物館実習を捉えていく考え方も考慮に値すると結論づけた。

6月 第二回

川村清雄《巨岩海浜図》について

堀切 正人

静岡県立美術館所蔵の川村清雄《巨岩海浜図》のものになった風景は、静岡県下田市の入田浜に実在するが、「巨岩」は作為的に描かれたと思われる。この場所は、江戸時代、各地の城石や台場建築のための石丁場の一つであった。下田の州佐利崎と狼煙崎にも台場が建設され、その下田港防衛線上に入田浜の「巨岩」は位置する。この台場建設に関わったのは、当時、幕府の勘定吟味役・浦々御備場御用取扱を務めた川村清兵衛（のちの修就）、すなわち川村清雄の祖父である。また、江戸東京博物館などに所蔵された作品や資料と比較考察すると、川村清雄にとって岩のモチーフは、時の流れを象徴するものであったと考えられる。本作が徳川慶喜の四男、徳川厚の旧蔵品か、もしくは徳川家ゆかりの品であり、徳川家のために制作されたとするならば、開国の地、下田を舞台に、朝日を描かずに、ただ時の流れと平安に暮らす人々を描くことこそが、ふさわしい主題であったのかもしれない。

7月

対話型美術鑑賞の可能性

川谷 承子

当館では、企画展、収蔵品展ごとに、来館者に作品の背景や魅力を伝える目的で、学芸員によるフロアレクチャーと、ボランティアによるギャラリートークを行っている。ともに話す側が主体的に語るというスタイルをとっている。この方法の場合、短時間に、作品の見方を教えてもらいたいという鑑賞者にとっては有効だが、他方、鑑賞の幅を狭めてしまうこともある。本発表では、対話型美術鑑賞を研究する京都造形芸術大学の鑑賞者研究プロジェクトの活動を通して学んだことを例に上げながら、対話型美術鑑賞の可能性についての考えを述べた。アメリカ・アレナス氏が言うように対話型鑑賞は、認識力、理解力、批判精神が育成されるという利点がある一方で、ナビゲーターには美

術史の深い知識、力量、および経験が必要である。この方法の有効性についてもより深い検討を要するとともに、ナビゲーターの人材育成をどのように行っていくかが今後の課題となる。

9月

静岡県立美術館のここ10年間の事業展開について

飯田 真

平成10年～20年の静岡県立美術館の事業展開について、展覧会、教育普及、作品収集の各面で振り返り、どのような変化があったかを分析した。展覧会で言うと、西洋絵画展の減少、文明展の導入、収蔵品によるテーマ展の導入など、事業内容を変化させていることを確認した。そのことにより、今置かれている状況を再確認するとともに、今後進むべき方向を考える材料とした。その結果として、最近少し活動が停滞した感はあるが、収蔵品を中心とした事業に転換すべきであるという私見を述べた。また、教育普及に関しては、年々充実してきているが、ますますその重要度が増してきていることを確認した。

10月

1818-21年のミシャロン

一歴史的風景画家のアイデンティティはどのように形成されたのか？

小針由紀隆

1818年1月、アシル=エトナ・ミシャロン(1796-1822)は、歴史的風景画部門の最初のグランプリ受賞者として、ローマのフランス・アカデミーに留学。その後館長シャルル・テヴナン(在位1816-1823)の指導下で、1821年まで滞在した。ところが、この部門のグランプリ受賞者に対するカリキュラムは未整備だったらしく、ミシャロンはイタリアにおける研究の方向性を自分自身で切り開かねばならなかった、という意見も聞かしている。とはいえ、成文化されたカリキュラムが探し出せないだけで、ミシャロンのための教育指針は、フランス・アカデミーの館長によって示されていたのではないだろうか。

本発表では、歴史的風景画の奨学生への課題を記録史料に基づき精査し、同時にミシャロンのイタリア滞在中の制作活動を詳細に探ることで、フランス・アカデミー側の「風景習作重視」の教育指針を浮かび上がらせることを狙いとした。

11月

狩野伊川院栄信の研究(序)

福士雄也

近年、探幽以降の所謂「江戸狩野」についての再評価が進みつつある。江戸狩野の中では、木挽町狩野家第九代の狩野養信(1796-1846)が早くから注目されてきたが、本発表ではその父に当たる狩野栄信(1775-1828)に注目した。

養信はやまと絵と漢画を完全に融合させた絵師として評価されているが、実はすでに栄信によってそのかなりの部分が達成されていた。また、古画の膨大な模写という行為自体についても、栄信のあとを引き継ぐものだったと捉えるのが適当だと思われる。

さらに、そのような古画の閲覧が茶人大名など文化人との交流によって支えられたものだった可能性が指摘できる。朝岡興禎による『古画備考』編纂も栄信の情報収集なしには成立し得なかったであろう。

同時に、栄信とその父惟信、さらに遡って典信との関係も考察する必要がある。ともすれば一括りにされがちな江戸後期の狩野派画人については、今後個別の検証が必要だろう。本発表はそのための土台作りである。

12月

子どもとかくこと、つくること

岡崎隆司

当館では教育普及事業のひとつとして学校連携事業を実施している。これはさらに実技を主としたもの、鑑賞を主としたプログラムに分けられる。いずれも保育園、あるいは学校との連携事業という位置づけから、幼稚園教育要領、保育所保育指針、そして学習指導要領に基づいた活動を行っている。

本発表では、そもそも子どもにとってかいたり、つくったりするということはどういうことなのかということに始まり、これらの活動の幼稚園教育要領、保育所保育指針での位置づけ、さらに各プログラム実施にあたり、五感を働かせる体験、ことばかけ等、注意している指導のポイントに触れた。最後に幼稚園・保育園児を対象に行っている「粘土あそび」の実際をDVDで提示した。

1月

彫刻と写真ーロダン、ブランクーシ、ロツソの場合 南 美幸

19世紀前半に成立した写真術は、科学としての写真術の発達と同時に、表現手段としての写真を模索してきた。そのような中で、彫刻と写真との関係は、絵画と写真との関係に比べて希薄であり、撮影者にとって「彫刻作品／立体」を撮る意識はさほど成立していなかったと言えよう。

このような課題に対し、彫刻と写真との関係に積極的にアプローチして自分なりの解答を導き出したのが、ほかならぬ彫刻家である、ロダン、ブランクーシ、ロツソである。本研究会では、19世紀に撮影された立体作品を概観するとともに、3人の彫刻家による写真へのアプローチの特徴と、翻って彼らの写真への視線が彫刻制作にどのようにフィードバックされたかを将来的に研究の延長線上に見ずえる、考察の端緒とした。

2月

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ作『牢獄』 第2版の光について 新田建史

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ作『牢獄』は、1749～50年頃に刊行された初版と、1761年頃に刊行される第2版とが知られている版画連作である。初版が全14図、第2版は16図からなり、当館には後者の第2版が所蔵されている（当館所蔵番号P-116-905（1-16））。これまで『牢獄』は、後代のロマン主義への影響や、暗澹たる幻想といった文脈で語られ、改版の意図については、作者の政治的信条の表明という解釈もなされてきた。本発表では、この改版をピラネージ自身の投獄体験と関連付けて考察した。元々カプリッチョとして扱われた「牢獄」というモチーフが、入獄という契機によって、より身につまされるものとなり、その意味では版の改定に伴い、苦悩や恐怖といったネガティブな要素が一層強力に導入される。だが同時に、その闇を照らし出す光もまた明確に描かれ、投獄体験の昇華とでも言うべきものが生じており、本作品をただ単に「暗い情熱」という言葉で片付けたり、理不尽な行為への非難としてのみ語るのとは妥当ではないことを指摘した。

3月

美術館における作品鑑賞活動の可能性について ～言語能力の育成と学校教育現場を視野に入れて～ 鈴木雅道

実技系ワークショップは、言葉や文字による意思疎通が不可能でも、図や絵、世代共通のモード等を駆使して意思疎通ができることを実証し続けている。言い方を変えれば、想像力と非言語的な表現に支えられた意思疎通である。鑑賞活動の入口は数多くあるが、目指す先は感性や情緒といった不可視な心の動きであり、出口はそれを可視化する表現である。想像力の働きの、その両者に底通することを前提にすると、PISA2006調査分析を受け、読解力や言語能力の育成に力を注ぐ教育界では、母国語による意思疎通の重要性と同時に、背後にある豊かな感性をベースにした想像力の育成を重要視しているとも言えるのではないだろうか。鑑賞活動は（結果的に）想像力とコミュニケーション能力の育成に大きな役割を果たすものと考えている。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行われており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル（アイウエオ順）
- (2) 館藏品資料（館藏品番号順）
- (3) 出品作家資料（各企画展ごと）
- (4) 館藏品収集に関わる資料（ジャンル別）

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館藏品等のフィルム・デジタル画像作成整理

- (1) 館藏品のフィルム

新収藏品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による大型カメラでの写真撮影をおこなっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジを写真原板として受入番号順ホルダーに入れ、キャビネットに整理収納している。

なお、これまでの写真原板には撮影後10年を経た色の劣化が見られるものもあるので、予算の範囲内で劣化の激しいもの、使用頻度の高いものについては、再撮影を実施し新しい原板を作成した。また、昨今のデジタル写真主流化の流れを受け、ポジフィルムデューブ作業受注を取りやめる業者がでてきている。デジタルデータは利用至便なものであり、市場原理にしたがってそちらに資源を注力せざるを得ないのも理解できる。だが、銀塩写真も文化であり、将来これらの資源が利用できなくなるような事態に陥らないよう、関係業界の節度ある対応や文化政策上の配慮を望みたい。

- (2) 館藏品のデジタル画像

コンピュータで利用できるように、平成7年度から館藏品を撮影した4×5インチまたはブローニー判フィルムのフォトCD化を進めてきた。

平成16年度から、新収藏品およびフィルムが劣化した作品の再撮影の機会に、美術品写真の専門家に委託し、デジタルカメラによる直接撮影をあわせておこなっている。作成または撮影されたデジタル画像は、CDおよびDVDに保存され、インターネット上での公開や各種広報物の作成、講演会や研究会などに活用されている。デジタル画像が作成されていない館藏品もまだあり、それらの遡り撮影が懸案となっている。

- (3) その他

館藏品のほか寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、さまざまな形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料の整理には、ボランティアによる資料整理グループ「グループD」があたっており、整理が進んでいる。

■展覧会資料の整理

企画展などの文書および資料については、各企画展ごとに整理がおこなわれ、キャビネットに収められている。

■コンピュータによる各種データ管理

館藏品データベースや図書データなどのコンピュータ化は市販のデータベースソフト「桐」を使用し、以前より進められてきた。入力作業にはボランティア有志によるコンピュータ入力チーム「パソコン隊」の支援をいただいている。新たに発生するデータについては、日常業務の延長線上にデータが整っていく方向に道筋を作っている。

- (1) 館藏品

館藏品の基本データと履歴データが入力されている。デジタル画像はフォトCD化したものを中心に蓄積されており、主な作品については揃っている。未作成の作品については順次整備をすすめる必要がある。

履歴データは5種（伝来、修復歴、展覧会出品歴、収藏品展展示歴、文献掲載歴）のデータファイルで構成され、館藏品受入番号をキーに基本データのファイルとリンク、さらに画像ファイルとリンクしている。新たに発生する履歴データについては、研究・修復・貸出・特別観覧等の諸業務と連携させ、それらの業務で作成されていくデジタルデータを移植している。

これらのデータの見直し作業や表記の統一などを随時実施した。データ公開へのコンテンツはほぼ整っているが、インターネット上での公開には検索エンジンの実装や著作権問題といった検討課題も多く、これらの解決と業界標準化が待たれる。

- (2) 図書

図書は基本的には手作業によって収集・受入・整理作業がおこなわれているが、データはデジタル化されている。

新規受入については、図書担当職員によるデータベース登録がおこなわれている。平成18年度以降、館内および図書閲覧室でのデジタル図書検索がおこなわれている。

博物館実習

当館は、静岡県唯一の県立博物館施設であることから、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。実習生の受入には、つぎの3つを条件とし、本年度は10大学14名の実習生を受け入れた。

- (1) 県内出身者もしくは県内の大学に在籍していること。
- (2) 美学美術史学、または美術教育・制作等を専攻し、美術館で実習をおこなう合理的な理由があること。
- (3) 大学の推薦を受けていること。

当館の博物館実習は、実習生に直に美術館での経験の機会を提供するのみならず、社会の中での美術館の役割を理解し、将来の美術館界を支える一員としての素養を持ってもらうことを目指している。カリキュラムは見学・講義・実習からなり、それぞれを当館学芸課および総務課の職員が担当した。

本年度は「社会に支持される美術館とは」という総合テーマを設定し、現在の日本の美術館に期待されている社会の要請を実習を通じて学生に考えてもらうことを目指した。このテーマに沿って、当館以外の美術館の現状について調査した事前レポートを実習中に発表し、また実習後の成果をまとめた事後レポート提出を課題とし、学習効果の意識化と定着をはかった。

■実習内容

□講義

- (1) 静岡県立美術館の特徴 [他館と比較した場合の特徴や個性についての総論] (学芸部長)
- (2) 美術館評価活動概要 [美術館評価活動についての本質と総論] (村上)
- (3) 作品の管理・保全 [作品の管理・保全について総論と当館での活動の実際] (新田)
- (4) 県立美術館の経営方針 [当館の経営方針についてマネージャーとしての考え方] (館長)
- (5) 展覧会ができるまで-国内編 [「ボックスアート展」を例に展覧会運営の実際を紹介] (村上)
- (6) 教育普及活動-講座系 [講座系の教育普及活動についてその狙いと実例を紹介] (堀切)
- (7) 展覧会ができるまで-海外編 [「イタリアの光景展」を例に海外との共同作業を伴う展覧会運営の実際を紹介] (学芸部長)
- (8) 展覧会ができるまで-現代編 [「風景ルル展」を例に現存作家との共同作業を伴う展覧会運営の実際を紹介] (川谷)
- (9) コレクションの形成と収蔵品展の工夫 [美術館の核となるコレクション形成の考え方とそれを紹介す

る収蔵品展の思想と実践について] (学芸課長)

- (10) ボランティア・地域連携活動 [ボランティア活動・運営の実際と地域との連携にまつわる実際について] (森)
- (11) 静岡の美術館評価活動 [美術館評価活動について当館における歴史と現状] (村上)
- (12) 教育普及活動-学校連携事業・実技系 [学校連携事業や実技系の教育普及活動についてその狙いと実例を紹介] (岡崎)

□実習

- (1) 作品の取扱実習：日本画 (学芸課長・森・福士)、油彩・版画 (南・新田) について作品の物理的特性についての説明と実際の取扱研修

□演習

- (1) 課題発表と課題制作：事前課題の発表とプレゼンの仕方を学習するとともに、事後課題の準備をおこなう (村上)
- (2) 「実習を終えて」総括とグループインタビュー：各人実習で学んだことについてまとめ、美術館をとりまく諸問題について館員とディスカッション (副館長、学芸部長、村上)
- (3) 夏休み子どもワークショップ見学：実際のワークショップを見学するとともに運営補助を実体験 (鈴木)

□見学

- (1) 収蔵庫見学：収蔵庫内の施設や環境について見学 (福士・新田)
- (2) 施設見学：収蔵庫・展示室以外の美術館各部の構造や役割について見学 (古橋)

■カリキュラム

[(1) : 10 : 00-10 : 50、(2) 11 : 00-11 : 50、(3) 13 : 00-13 : 50、(4) 14 : 00-14 : 50、(5) 15 : 00-15 : 50、(6) 16 : 00-16 : 50]

7月28日 (月)

- (1) 静岡県立美術館の特徴 (学芸部長)
- (2) 収蔵庫見学 (福士・新田)
- (3-6) オリエンテーションと課題発表 (村上)

7月29日（火）

- (1) 美術館評価活動概要（村上）
- (2) 施設見学（古橋）
- (3-5) 作品の取扱（学芸課長・森・福士・南・新田）
- (6) 課題制作、実習ノート整理

7月30日（水）

- (1) 作品の管理・保全（新田）
- (2) 県立美術館の経営方針（館長）
- (3) 展覧会ができるまで-国内編（村上）
- (4) 教育普及活動-講座系（堀切）
- (5-6) 課題制作、実習ノート整理

7月31日（木）

- (1) 展覧会ができるまで-海外編（学芸部長）
- (2) 展覧会ができるまで-現代編（川谷）
- (3) コレクションの形成と収蔵品展の工夫（学芸課長）
- (4) ボランティア・地域連携活動（森）
- (5) 静岡の美術館評価活動（村上）
- (6) 課題制作、実習ノート整理

8月1日（金）

- (1) 教育普及活動-学校連携事業・実技系（岡崎）
- (2-4) 夏休み子どもワークショップ見学（鈴木）
- (5-6) 「実習を終えて」総括とグループインタビュー（副館長、学芸部長、村上）

8月2日（土）

- (1-2) 課題制作・実習ノート整理

収蔵品展

新収蔵品展を含め、当館の収蔵品を幅広くご覧いただくため、現代美術や日本画、日本洋画、西洋絵画等、ジャンルごとにテーマを設定して展示を構成した。

本館1階にあるエントランスの名品コーナーでは、常時3点の作品を無料でご覧いただいている。そのうち1点は、富士山を描いた絵画を展示することとしている。

ロダン館1階の第2展示室では、ロダンと関連するテーマ展示を年4回行った。

本年度の収蔵品展のラインナップはつぎの通りである。

■本館（* = 同時開催）

4月1日（火）～4月27日（日）

新収蔵品展

4月29日（火・祝）～5月25日（日）

若冲から狩野派まで－百花繚乱の18世紀－

7月12日（土）～9月7日（日）

富士山の絵画

9月9日（火）～10月26日（日）

イギリスゆかりの日本洋画

10月28日（火）～12月26日（金）

Resonance（リゾナンス）－共振する感覚

1月2日（金）～2月12日（木）

*ヨーロッパ絵画 バロックから近代へ

1月2日（金）～2月12日（木）

*屏風絵の世界

2月17日（火）～3月29日（日）

余白の美 李禹煥、尹熙倉、イ・ブル

■ロダン館

7月15日（火）～9月7日（日）

彫刻の伝統

9月9日（火）～10月26日（日）

立つこと／あること－彫刻と版画でみる

10月28日（火）～12月26日（金）

古きフランスの旅

■出品目録

p.115～p.118参照

移動美術展

富士宮東高校 移動美術展

主催：静岡県立美術館、静岡県立富士宮東高等学校

会期：平成20年11月4日（火）～10日（月）
* 9日（日）は休校

開場時間：午前10時～午後4時
* ただし4日（火）は正午から

会場：富士宮東高校 会議室館

観覧者数：1,027人

関連イベント：

- ・ギャラリートーク
11月8日（土）午後1時～、2時～、3時～（各20分間） 県美学芸員と生徒によるギャラリートーク
- ・生徒との共同作業
生徒によるポスター、チラシのデザイン作成
生徒によるギャラリートーク



・生徒デザインによるポスター（富士宮東高校）

気賀高校 移動美術展

主催：静岡県立美術館、静岡県立気賀高等学校

会期：平成20年11月25日（火）～27日（木）
一般公開日は、11月26日（水）

会場：気賀高校 小会議室

観覧者数：480人

関連事業：

関連イベント

- ・学芸員による出張美術講座
11月20日（木） 10：50～11：40
11月26日（水） 10：50～11：40
- ・生徒との共同作業
生徒による会場ディスプレイ

当館では、収集方針に基づき館蔵品の充実をはかるとともに、その鑑賞の機会を提供するよう努めている。当館まで距離的に遠い地域においても、より身近に館蔵品に親んでもらうために、昭和63年度から、県の東部、西部地域において毎年、移動美術展を開催してきた。本年は高校を会場に、生徒、職員に観覧いただき、また学校開放日に合わせることで、地域住民にも観覧いただけるようにした。生徒との共同作業は、生徒のより主体的な取り組みを引き出し、教育普及活動、学校連携の契機ともなった。

■出品目録

p.119を参照



・生徒による会場ディスプレイ（気賀高校）

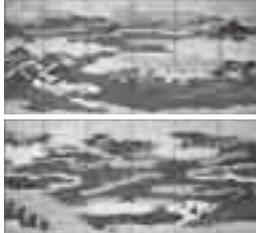
平成20年度 新収蔵品

当館は、以下に挙げる5項目を収集方針としている。

- ①17世紀以降、日本と西欧で制作された風景画の収集に努める。
- ②ロダンを中心とした内外の近代以降の彫刻作品の収集に努める。
- ③20世紀以降の美術の動向を示す美術作品の収集に努める。
- ④静岡県ゆかりの作家、作品の収集に努める。
- ⑤富士山をモチーフにした作品の収集に努める。

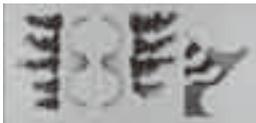
平成20年度には、下表のとおり、購入3件、ご寄贈32件、計35件が新たに収蔵された。

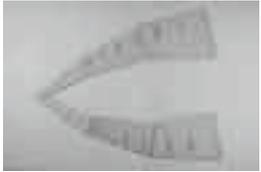
ジャンル別の内訳は、日本画4件、油彩(日本)6件、水彩・素描4件、版画5件、写真1件、彫刻1件、ミクスト・メディア14件である。

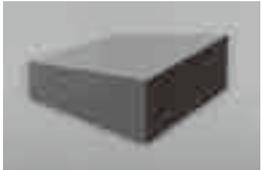
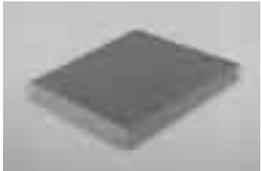
No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
1	日本画	狩野探信守道	井出玉川・大堰川図屏風	1825 (文政8) -1835 (天保6)	紙本着色 六曲一双屏風	各166.0× 358.8	購入
							探幽作品を踏襲しつつ、装飾性を加味したやまと絵屏風。守道の代表作に数えられる。
							
2	日本画	中村岳陵	牡鹿啼く	1930 (昭和5)	紙本着色 二曲一双屏風	各163.6× 162.1	望月正子氏 寄贈
							昭和初期における丘陵の代表作のひとつ。古典文学主題に琳派学習成果を發揮する。
							
3	日本画	平山郁夫	楼蘭遺跡全景	1989 (平成元)	紙本着色 額装	48.0×557.9	井口賢明氏 寄贈
							巻子を思わせる横長の画面に、遺跡の全容を描きだす。臨場感が魅力の一点。
							
4	日本画	小林古径	梅にうそ	1930頃 (昭和初期)	絹本着色 掛幅装：一幅	118.2×36.7	望月弘子氏 寄贈
							写生を生かしながら、線・色彩・構図を純化させた古径ならではの佳品。
							

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
5	油彩 (日本)	都鳥英喜	モンテニエ の秋	1920 (大正9)	キャンヴァス、 油彩	80.2×115.2	購入 日本画家もよく訪れたパリ近郊モンテニエの小村を堅固な構図ながらみずみずしい色彩が、生気を感じさせる。
6	油彩 (日本)	曾宮一念	自画像	1914 (大正3)	キャンヴァス、 油彩	45.8×33.6	肥後伸吉氏・美代子氏寄贈 静岡県ゆかりの洋画家の初期自画像。美大在学中の作品。
7	油彩 (日本)	野田好子	海辺	1953 (昭和28)	キャンヴァス、 油彩	91.0×72.7	作者寄贈 静岡県出身作家。大自然や宇宙の無限のイメージを幻想的に描く。
8	油彩 (日本)	野田好子	蛇使い座	1959 (昭和34)	キャンヴァス、 油彩	112.0×145.5	作者寄贈 静岡県出身作家。大自然や宇宙の無限のイメージを幻想的に描く。
9	油彩 (日本)	野田好子	天と地	1960 (昭和35)	キャンヴァス、 油彩	80.3×100.0	作者寄贈 静岡県出身作家。大自然や宇宙の無限のイメージを幻想的に描く。
10	油彩 (日本)	野田好子	古代文字	1961 (昭和36)	キャンヴァス、 油彩	130.0×162.0	作者寄贈 静岡県出身作家。大自然や宇宙の無限のイメージを幻想的に描く。
11	水彩 ・ 素描	武内鶴之助	伊豆福浦海岸	不詳	紙、パステル	52.0×72.0	名古屋画廊・中山真一氏寄贈 日本のパステル画界の重鎮、武内の作品。油彩と見まごうような鮮やかで濃密な色彩表現が魅力的である。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
12	水彩・素描	辰野登恵子	Black-85M-1	1985 (昭和60)	紙、ドローイング	113.0×130.0	太田正樹氏寄贈 木炭による線と陰影によって、真空の中で浮遊しているかのような動勢や揺らぎを描き出している。
13	水彩・素描	辰野登恵子	Black-85M-2	1985 (昭和60)	紙、ドローイング	113.0×130.0	太田正樹氏寄贈 本作に現れる、雫のようにも、長細い楕円のようにも見える形体は、1986年製作の油彩画にも表れている。
14	水彩・素描	野田好子	富士山のスケッチ (16枚)	1984 (昭和59) -2000 (平成12)	紙、水彩	51.0×36.0	作者寄贈 富士に生まれた作家が、日々富士山と向かい合った記録。
15	版画	エリック・デマ ジエール	想像の街 II	1999	紙、エッチング、 アクアチント、 手彩色	17.8×47.2	購入 幻想的な作風をもつ版画家による、緻密な構成と丹念な描写で製作した空想の都市。
16	版画	フランク・ステラ	Swan Engraving V	1985	ディープエッチング、 エングレーヴィング	151.1×126.4	太田正樹氏寄贈 金属レリーフ・ペインティングの「サーキット・シリーズ」を製作する過程で出た金属スクラップを版として使用している。
17	版画	リチャード・セラ	Du Conmo	1972	紙、リトグラフ	130.0×103.0	太田正樹氏寄贈 粘性の高いペイントスティックによるプリントを通常のインクで刷られたプリントの上に層状に重ね、特有のマチエールを生み出している。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
18	版画	ドナルド・ジャッド	無題	1974	紙、エッチング	79.5×107.2	太田正樹氏寄贈 ジャッドのエッチングとしては最初期にあたり、6点組の1点として刷られたもの。 
19	版画	菅井汲	space-the front	1984 (昭和59)	紙、リトグラフ	125.0×249.0	内山博之氏寄贈 1980年代半ばに製作された「空間」シリーズの内の一点。横長の画面の中に複数の造形的要素が組み合わされている。 
20	写真	小谷元彦	胸いっぱい の愛を (Single/girl)	2005 (平成17)	デジタルプリント、 ウッドフレーム	172.7×122.5	太田正樹氏寄贈 人気アニメーションからインスピレーションを受けて制作された作品。地面に転がる骸骨は、石膏でかたどりをしている。 
21	彫刻	小池一誠	石	1970 (昭和45)	石	展示した状態で 40.0×190.0 ×39.0	小池明子氏寄贈 グループ幻触作家の一人。物質をそのまま扱う方向性を示した作品で、同時代のもの派や評論家石子順造との関連を示す。 
22	ミクスト・ メディア	飯田昭二	Half and Half	1969 (昭和44)	鳥かご、ピン ポン球、鏡	19.3×20.0× 20.1	作者寄贈 かごの中の物体は見る角度によって色が変わって見える。鏡像と実像の錯覚を利用した作品で、グループ幻触のトリッキーな性格をよく示す。 
23	ミクスト・ メディア	飯田昭二	Half and Half	1969 (昭和44)	鳥かご、木、 鏡	19.4×20.0× 20.2	作者寄贈 かごの中の物体は見る角度によって色が変わって見える。鏡像と実像の錯覚を利用した作品で、グループ幻触のトリッキーな性格をよく示す。 

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
24	ミクスト・メディア	鈴木慶則	〈内乱のきざし〉の相貌をおびた非在のタブロー	1967 (昭和42)	木、キャンヴァス、油彩	130.6×130.6	作者寄贈 名画のイメージを利用して「見ること」を再検証する非在のタブローシリーズの代表作。 
25	ミクスト・メディア	鈴木慶則	非在のタブロー—空	1967 (昭和42)	木、キャンヴァス、油彩	130.7×162.2	作者寄贈 キャンバスの木枠ややぶれなどを描き、タブローという形式そのものを問い直すシリーズのひとつ。 
26	ミクスト・メディア	丹羽勝次	NO HOOKS	1968 (昭和43)	合板、ラッカー、綿ロープ	123.0×138.0	作者寄贈 二次元のイメージを三次元の立体に見せかけた作品。グループ幻触の動向をよく示す。 
27	ミクスト・メディア	前田守一	遠近のものさし	1967 (昭和42)	木、塗料	35.0×78.5×1.0cm×4枚	前田秀子氏寄贈 計測の基準となるものさしや、絵画表現の基準となる線遠近法を、イメージや観念との関係で再検証するシリーズ。 
28	ミクスト・メディア	前田守一	遠近のものさし	1967 (昭和42)	木、塗料	伸ばした状態で65.8×499.7×4.3	前田秀子氏寄贈 計測の基準となるものさしや、絵画表現の基準となる線遠近法を、イメージや観念との関係で再検証するシリーズ。 
29	ミクスト・メディア	前田守一	遠近のものさし	1967 (昭和42)	木、塗装	91.9×178.5	前田秀子氏寄贈 計測の基準となるものさしや、絵画表現の基準となる線遠近法を、イメージや観念との関係で再検証するシリーズ。 

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
30	ミクスト・メディア	前田守一	遠近のものさし	1967 (昭和42)	木、塗装	90.0×166.0	前田秀子氏寄贈 計測の基準となるものさしや、絵画表現の基準となる線遠近法を、イメージや観念との関係で再検証するシリーズ。 
31	ミクスト・メディア	前田守一	作品(黄)	1967 (昭和42)	木、塗装	160.0×91.2	前田秀子氏寄贈 計測の基準となるものさしや、絵画表現の基準となる線遠近法を、イメージや観念との関係で再検証するシリーズ。 
32	ミクスト・メディア	前田守一	作品(青)	1967 (昭和42)	木、塗装	91.0×160.5	前田秀子氏寄贈 計測の基準となるものさしや、絵画表現の基準となる線遠近法を、イメージや観念との関係で再検証するシリーズ。 
33	ミクスト・メディア	前田守一	作品(赤)	1967 (昭和42)	木、塗装	99.5×167.0	前田秀子氏寄贈 計測の基準となるものさしや、絵画表現の基準となる線遠近法を、イメージや観念との関係で再検証するシリーズ。 
34	ミクスト・メディア	前田守一	バサッ	1969 (昭和44)	木、塗装	157.3×45.7 ×9.5×2個	前田秀子氏寄贈 文字と絵、意味するものとされるものとの異同をテーマにしたコンセプチュアルな作品。 
35	ミクスト・メディア	前田守一	剥された言葉	1971 (昭和46)	黒板、塗料、 チョーク、黒 板消し	左：74.5× 92.0×8.2 右：73.3× 91.1×4.7	前田秀子氏寄贈 文字と絵、意味するものとされるものとの異同をテーマにしたコンセプチュアルな作品。 

■収蔵点数一覧

購入作品数

(百万円)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計		
											点数	金額	
55						5					5	74	
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287	
57	9	5	3		3	2					22	563	
58	10	6	2	1	60		1				80	483	
59	3	10			27		2				42	597	
60	7	10	2		5		11				35	669	
61	4	4	1		16		2				27	240	
62	3	6			85		2				96	242	
63	5	3			1		7				16	499	
元	5	2			3		3		33		46	392	
2	2	1		3	43		5		13		67	598	
3	1	8	2		268		9				288	675	
4	3	4			4		12				23	768	
5	5	3	2		68		13			3	94	557	
6	8	8	1		27		1			4	49	395	
7	4	8	1	1	152						166	397	
8	3	2	4							4	13	137	
9	5	4	1		2						12	146	
10	5	4	1		52						62	120	
11	4	3	2		37						46	88	
12	1	3	2							1	7	46	
13	2	1	1		9		1				14	39	
14	3	4	1		9						17	45	
15	7	2									9	52	
16	3	2			60		1				66	56	
17	2				22					7	31	41	
18			2				2				4	6	
19		1								1	2	30	
20	1	1			1						3	13	
合計	点数	119	119	32	12	1,012	7	75	1	46	20	1,443	8,255
	金額	1,652	2,824	311	68	356	80	2,811	3	8	142		

図書資料の収集・整理

■収集

平成19年度の新たな受入により、当館蔵書は78,676冊となった。その累計内訳は、刊行図書36,156冊、美術雑誌19,875冊、美術館等刊行物22,645冊である（データのデジタル化による冊数表記の改定については、平成18年度年報を参照されたい）。

また、各地の美術館等との図書交換（海外含む）により、展覧会図録の収集も継続して進んでいる。

■分類・整理

平成19年度に行なった作業は、以下のとおりである。

①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、コンピューターに入力、配架した。

②分類表の改定

必要に応じて分類表の部分改定を行なった。

③誤分類の訂正

分類に誤りのあった受入図書に関しては、データを訂正し、配架場所を改めた。

④定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、コンピューターに入力後、配架した。

■閲覧

当館には、来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を開架して、自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。平成18年度より、閲覧室に2台のパソコンを設置し、デジタル図書データを用いた図書検索ができるようになった。利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧可能である。

平成20年度の利用者は5,073人で、昨年度より507人減少した。これは、5月26日から7月11日まで、工事休館で閉室したためである。

館蔵品の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
1	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家	埼玉県立近代美術館、北九州市立美術館、ひろしま美術館、山梨県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「ミレー《落穂拾い・モネ《積み藁》を中心にー光と大地の協奏》展	ひろしま美術館 (2/23-4/6)	2/13-6/11
2	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家	埼玉県立近代美術館、北九州市立美術館、ひろしま美術館、山梨県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「ミレー《落穂拾い・モネ《積み藁》を中心にー光と大地の協奏》展	山梨県立美術館 (4/19-6/1)	2/13-6/11
3	岡鹿之助	観測所	ブリヂストン美術館	「岡鹿之助展」	ブリヂストン美術館 (4/26-7/6)	4/16-7/16
4	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	北海道立近代美術館、ほか	「レオナルド・フジタ」展	北海道立近代美術館 (7/12-9/4)	6/28-09/2/1
5	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	北海道立近代美術館、ほか	「レオナルド・フジタ」展	宇都宮美術館 (9/14-11/9)	6/28-09/2/1
6	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	北海道立近代美術館、ほか	「レオナルド・フジタ」展	上野の森美術館	6/28-09/2/1
7	浦上春琴	競秀争流図	兵庫県立美術館	「南画って何だ？近代の南画ー日本のこころと美」展	兵庫県立美術館 (4/22-6/8)	4/12-6/18
8	谷文晁	連山春色図	兵庫県立美術館	「南画って何だ？近代の南画ー日本のこころと美」展	兵庫県立美術館 (4/22-6/8)	4/12-6/18
9	児島善三郎	箱根	兵庫県立美術館	「南画って何だ？近代の南画ー日本のこころと美」展	兵庫県立美術館 (4/22-6/8)	4/12-6/18
10	モーリス・ルイス	バス・アイン	川村記念美術館	「モーリス・ルイス」展	川村記念美術館 (9/13-11/30)	2/12-4/6
11	モーリス・ルイス	アセンディング	川村記念美術館	「モーリス・ルイス」展	川村記念美術館 (9/13-11/30)	2/12-4/6
12		天平勝宝四年東大寺写経所請経文	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
13		天平四年山背国愛宕郡計帳断簡（第一断簡）	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
14		天平四年山背国愛宕郡計帳断簡（第二断簡）	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
15		後嵯峨天皇幸西園寺詠諧和歌	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
16	藤原師時	長秋記断簡	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
17	藤原定家	明月記断簡	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
18	屋代弘賢	和歌短冊（春のよの）	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
19	柴野栗山	二行書（白玉階前）	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
20	池辺真椽	和歌短冊（初秋の）	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
21	永井精古	和歌詠草	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
22	小中村清矩	和歌短冊	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
23	三好長治	和歌短冊	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
24	鈴木芙蓉	早春山水図	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
25	三木恒山	阿波国轟瀧図	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
26	浜口南涯	塩浜図	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
27	守住貫魚	朝顔図	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
28	渡辺広輝	六歌仙図	徳島県立博物館	「郷土の発見ー小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31

No	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
29	柴秋邨	富士山図／詩懐紙	徳島県立博物館	「郷土の発見－小杉と郷土史研究の曙」展	徳島県立博物館 (4/26-5/25)	4/20-5/31
30	佐伯祐三	ラ・クロッシュ	大阪市立美術館、大阪市立近代美術館建設準備室、産経新聞社	「没後80年記念 佐伯祐三」展	大阪市立美術館 (9/9-10/19)	8/30-12/17
31	佐伯祐三	ラ・クロッシュ	高松市美術館、産経新聞社、岡山放送	「没後80年記念 佐伯祐三」展	大阪市立美術館 (9/9-10/19)	8/30-12/17
32	森田安次	風の又三郎	駿府博物館	「近代詩文書の先駆者・森田安次と静岡の書家」展	駿府博物館 (4/4-5/11)	3/25-5/16
33	森田安次	水	駿府博物館	「近代詩文書の先駆者・森田安次と静岡の書家」展	駿府博物館 (4/4-5/11)	3/25-5/16
34	平岡朴斎	臨 清娛墓誌銘	駿府博物館	「近代詩文書の先駆者・森田安次と静岡の書家」展	駿府博物館 (4/4-5/11)	3/25-5/16
35	藤波仁卿	臨 松居遊見 碑稿	駿府博物館	「近代詩文書の先駆者・森田安次と静岡の書家」展	駿府博物館 (4/4-5/11)	3/25-5/16
36	柿下木冠	隠	駿府博物館	「近代詩文書の先駆者・森田安次と静岡の書家」展	駿府博物館 (4/4-5/11)	3/25-5/16
37	酒井抱一	月夜楓図	東京国立博物館、ほか	「大琳派店－継承と変奏」	東京国立博物館 (10/7-11/16)	9/23-11/30
38	中村岳陵	爽秋	横須賀美術館	「中村岳陵展」	横須賀美術館 (4/1-5/11)	3/22-5/21
39	中村岳陵	残照	横須賀美術館	「中村岳陵展」	横須賀美術館 (4/1-5/11)	3/22-5/21
40	中村岳陵	磯	横須賀美術館	「中村岳陵展」	横須賀美術館 (4/1-5/11)	3/22-5/21
41	中村岳陵	牝鹿鳴く	横須賀美術館	「中村岳陵展」	横須賀美術館 (4/1-5/11)	3/22-5/21
42	オーギュスト・ロダン	カレーの市民 第一試作	香川県歴史博物館	「静かなる情熱－藤川勇三とロダンの美」	香川県歴史博物館 (4/5-5/18)	3/26-5/28
43	秋野不矩	天竜川	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	京都国立近代美術館 (4/8-5/11)	3/29-5/21
44	秋野不矩	ガンガー	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	京都国立近代美術館 (4/8-5/11)	3/29-5/21
45	秋野不矩	ブラーミンの家	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	京都国立近代美術館 (4/8-5/11)	3/29-5/21
46	秋野不矩	廻廊	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	京都国立近代美術館 (4/8-5/11)	3/29-5/21
47	秋野不矩	ウダヤギリⅡ	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	京都国立近代美術館 (4/8-5/11)	3/29-5/21
48	秋野不矩	たむろするクーリー	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	京都国立近代美術館 (4/8-5/11)	3/29-5/21
49	秋野不矩	天竜川	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	浜松市秋野不矩美術館 (6/7-7/27)	5/28-8/6
50	秋野不矩	ガンガー	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	浜松市秋野不矩美術館 (6/7-7/27)	5/28-8/6
51	秋野不矩	ブラーミンの家	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	浜松市秋野不矩美術館 (6/7-7/27)	5/28-8/6
52	秋野不矩	廻廊	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	浜松市秋野不矩美術館 (6/7-7/27)	5/28-8/6

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
53	秋野不矩	ウダヤギリⅡ	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	秋野不 浜松市秋野不矩美術館 (6/7-7/27)	5/28-8/6
54	秋野不矩	たむろするクーリー	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	秋野不 浜松市秋野不矩美術館 (6/7-7/27)	5/28-8/6
55	秋野不矩	天竜川	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	秋野不 神奈川県立近代美術館 (8/9-10/5)	7/30-10/15
56	秋野不矩	ガンガー	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	秋野不 神奈川県立近代美術館 (8/9-10/5)	7/30-10/15
57	秋野不矩	ブラーミンの家	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	秋野不 神奈川県立近代美術館 (8/9-10/5)	7/30-10/15
58	秋野不矩	廻廊	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	秋野不 神奈川県立近代美術館 (8/9-10/5)	7/30-10/15
59	秋野不矩	ウダヤギリⅡ	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	秋野不 神奈川県立近代美術館 (8/9-10/5)	7/30-10/15
60	秋野不矩	たむろするクーリー	京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館、神奈川県立近代美術館、毎日新聞社	「生誕100年記念 秋野不矩展」	秋野不 神奈川県立近代美術館 (8/9-10/5)	7/30-10/15
61	チャールズ・ワグマン	富士遠望図	栃木県立美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館	「十二の旅」展	栃木県立美術館 (4/27-6/22)	4/17-09/3/11
62	チャールズ・ワグマン	富士遠望図	栃木県立美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館	「十二の旅」展	富山県立近代美術館	4/17-09/3/11
63	チャールズ・ワグマン	富士遠望図	栃木県立美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館	「十二の旅」展	世田谷美術館 (1/10-3/1)	4/17-09/3/11
64	ヘンリー・ムア	横たわる人体	栃木県立美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館	「十二の旅」展	栃木県立美術館 (4/27-6/22)	4/17-09/3/11
65	ヘンリー・ムア	横たわる人体	栃木県立美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館	「十二の旅」展	富山県立近代美術館 (11/2-12/23)	4/17-09/3/11
66	ヘンリー・ムア	横たわる人体	栃木県立美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館	「十二の旅」展	世田谷美術館 (1/10-3/1)	4/17-09/3/11
67	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、日没	栃木県立美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館	「十二の旅」展	富山県立近代美術館 (11/2-12/23)	10/27-09/3/11
68	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、日没	栃木県立美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館	「十二の旅」展	世田谷美術館 (1/10-3/1)	10/27-09/3/11
69	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パツランツァ、マツジョーレ湖	栃木県立美術館、富山県立近代美術館、世田谷美術館	「十二の旅」展	富山県立近代美術館 (11/2-12/23)	10/27-09/1/2
70	須田国太郎	筆石村	松伯美術館	「革新者たちの挑戦ーよき人よき友 松篁の見つめた人々」	松伯美術館 (10/12-11/30)	10/2-12/10
71	速水御舟	鍋島の皿に石榴	平塚市美術館	「近代日本画の巨匠 速水御舟」展	平塚市美術館 (10/4-11/9)	9/24-11/19
72	速水御舟	芍薬図	平塚市美術館	「近代日本画の巨匠 速水御舟」展	平塚市美術館 (10/4-11/9)	9/24-11/19
73	レンブラン・ファン・レイン	三本の木	石川県七尾美術館、キュレイターズ	「オランダの版画とデザイン」展	石川県七尾美術館 (8/2-9/15)	7/23-9/25
74	歌川広重	東海道五拾三次 (保永堂版) より「原朝之富士」	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
75	歌川広重	東海道五拾三次 (保永堂版) より「由井 薩 嶺」	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
76	歌川広重	東海道五拾三次（隸書）より「沼津」	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
77	歌川広重	東海道五拾三次（隸書）より「興津」	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
78	大久保一丘	富嶽明暁図	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
79	狩野永岳	富士山登龍図	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
80	横山大観	群青富士	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
81	和田英作	写生帖(三保の富士)	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
82	和田英作	写生帖(天女)	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
83	和田英作	写生帖(富士、佐野)	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
84	和田英作	写生(富士)	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
85	横山大観	日出処日本	山梨県立美術館	「富士山展」	山梨県立美術館 (6/7-7/21)	5/28-7/31
86	山内多門	溪峡秋色図	都城市教育委員会都城市立美術館、宮崎日日新聞社、南日本新聞社	「山内多門 生誕130年展」	都城市立美術館 (10/18-11/30)	10/8-12/10
87	山内多門	溪山春晴図	都城市教育委員会都城市立美術館、宮崎日日新聞社、南日本新聞社	「山内多門 生誕130年展」	都城市立美術館 (10/18-11/30)	10/8-12/10
88	山内多門	山下秋色図	都城市教育委員会都城市立美術館、宮崎日日新聞社、南日本新聞社	「山内多門 生誕130年展」	都城市立美術館 (10/18-11/30)	10/8-12/10
89		源氏物語図屏風	静岡県立中央図書館、静岡県立美術館、国学院大学院友会静岡県中央支部	「徳川家康と静岡」展	静岡県立美術館県民ギャラリー (9/23-9/28)	9/13-10/8
90	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	ローマおよびカンポ・マルツィオの地図	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
91	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	ピラネージ作品のカタログ	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
92	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	納骨堂	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
93	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(扉絵)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
94	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(Ⅱ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
95	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(Ⅲ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
96	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(Ⅳ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
97	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(Ⅴ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
98	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(Ⅵ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
99	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(Ⅶ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
100	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(Ⅷ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
101	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(Ⅸ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
102	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(X)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
103	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(XⅠ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
104	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(XⅡ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
105	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(XⅢ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
106	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(XⅣ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
107	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(XⅤ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
108	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	「牢獄」第2版(XⅥ)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
109	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》扉絵(1)	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
110	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》第二扉絵	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
111	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》サン・ピエトロ大聖堂、広場と柱廊	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
112	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》サン・ピエトロ大聖堂、サグレスティア広場から望む	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
113	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ聖堂	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
114	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ聖堂	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
115	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》サンタ・マリア・マッジョーレ聖堂	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
116	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》クイリナーレ広場	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
117	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》ナヴォナ広場	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
118	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》ロトンダ広場	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
119	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》スペイン広場	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
120	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》船着場リベッタ	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
121	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》サンタンジェロ橋とカステル・サンタンジェロ	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
122	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》マルケルス劇場	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
123	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》カイウス・ケステイウスのピラミッドとサン・パオロ門	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
124	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》サンタ・コスタンツァ廟	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
125	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》カンピドーリオ広場とサンタ・マリア・ダラコエリ聖堂	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
126	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》フォロ・ロマーノ、カンピドーリオから望む	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
127	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》フォロ・ロマーノの一角	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
128	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》サンティ・ジョヴァンニ・エ・パオロ聖堂のクラウディウス神殿遺構	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
129	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》 コンスタンティヌスのバジリカ	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
130	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》 通称フォルトーナ・ウイリリスの神殿	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
131	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》 アントニウスとファウステイーナの神殿	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
132	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》 ウェヌスとローマの神殿	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
133	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》 トラヤヌス記念柱	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
134	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》 マルクス・アウレリウスの記念柱	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
135	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》 サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ広場のオペリスク	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
136	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》 セプティミウス・セウェルス凱旋門	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
137	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》 コンスタンティヌス凱旋門とコロッセウム	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
138	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》 オクタウィアのポーチコ、外観	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
139	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カプリッチ》腰を降ろし壺に肘をつく若者	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
140	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カプリッチ》3人の兵士と寝そべる少年	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
141	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カプリッチ》兵士と二人の女	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
142	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カプリッチ》壺に手をのせた女	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
143	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カプリッチ》ニンフと小さなサテュロス	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
144	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カプリッチ》大きな書物を抱えて立つ哲学者	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
145	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カプリッチ》腕を鎖でしばられた若者と4人の人物	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
146	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カプリッチ》死の引見	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
147	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カプリッチ》占星術者と若き兵士	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
148	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カプリッチ》馬の傍に立つ兵士	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
149	マルコ・リッチ	神殿とゴシック教会のある廃墟の眺め	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
150	パウラントニオ・パオーリ	『ボシドニアと呼ばれるバエストウムの街に残る遺跡』	町田市立国際版画美術館	「ピラネージ版画展」	町田市立国際版画美術館 (10/4-11/24)	9/24-12/4
151	石田徹也	ピアガーデン発	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
152	石田徹也	居酒屋発	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
153	石田徹也	SLになった人	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
154	石田徹也	(無題1)	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
155	石田徹也	飛べなくなった人	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
156	石田徹也	社長の傘の下	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
157	石田徹也	燃料補給のような食事	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
158	石田徹也	トイレへ逃げこむ人	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
159	石田徹也	兵士	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
160	石田徹也	引き出し	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
161	石田徹也	クラゲの夢	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
162	石田徹也	(無題2)	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
163	石田徹也	めばえ	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
164	石田徹也	市場	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
165	石田徹也	彼方	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
166	石田徹也	(無題3)	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7

No	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
167	石田徹也	(無題4)	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
168	石田徹也	(無題5)	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
169	石田徹也	(無題6)	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
170	石田徹也	(無題7)	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
171	石田徹也	(無題8)	練馬区立美術館	「石田徹也展」	練馬区立美術館 (11/9-12/28)	10/31-09/1/7
172	李禹煥	線より	福井市美術館	「福井と日本と韓国の美の系譜展」	福井市美術館 (10/11-11/20)	10/1-11/19
173	鄭相和	無題73-1-14	福井市美術館	「福井と日本と韓国の美の系譜展」	福井市美術館 (10/11-11/20)	10/1-11/19
174		源氏物語図屏風	大阪市立美術館、毎日新聞社、NHK大阪放送局、NHK きんきメディアプラン	「国宝 三井寺展」	大阪市立美術館 (11/1-12/14)	10/22-12/24
175		源氏物語図屏風	サントリー美術館、毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション	「国宝 三井寺展」	大阪市立美術館 (09/2/7-3/15)	09/1/27-3/25
176	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風	栃木県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「朝鮮王朝の絵画 宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」	栃木県立美術館 (11/2-12/14)	10/23-09/7/22
177	狩野栄信	月夜葡萄図屏風	栃木県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「朝鮮王朝の絵画 宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」	栃木県立美術館 (11/2-12/14)	10/23-09/7/22
178	伊藤若冲	白象群獣図	栃木県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「朝鮮王朝の絵画 宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」	栃木県立美術館 (11/2-12/14)	10/23-09/7/22
179	ファン・グリス	果物皿と新聞	横浜美術館、北海道立近代美術館、日本テレビ放送網株式会社、札幌テレビ放送株式会社	「セザンヌ主義-父と呼ばれた画家への礼賛」展	横浜美術館 (11/15-09/1/25)	11/5-09/4/22
180	ファン・グリス	果物皿と新聞	横浜美術館、北海道立近代美術館、日本テレビ放送網株式会社、札幌テレビ放送株式会社	「セザンヌ主義-父と呼ばれた画家への礼賛」展	北海道立近代美術館 (09/2/7-4/12)	11/5-09/4/22
181	ポール・セザンヌ	ジャ・ド・ブーファンの大樹	横浜美術館、北海道立近代美術館、日本テレビ放送網株式会社、札幌テレビ放送株式会社	「セザンヌ主義-父と呼ばれた画家への礼賛」展	北海道立近代美術館 (09/2/7-4/12)	09/1/28-4/22
182	狩野山雪	富士三保松原図	府中市美術館	「山水に遊ぶ-江戸絵画の風景250年」展	府中市美術館 (09/3/20-5/10)	09/3/10-5/20
183	山本探川	宇津の山図	府中市美術館	「山水に遊ぶ-江戸絵画の風景250年」展	府中市美術館 (09/3/20-5/10)	09/3/10-5/20
184	原在冲	富士三保松原図	府中市美術館	「山水に遊ぶ-江戸絵画の風景250年」展	府中市美術館 (09/3/20-5/10)	09/3/10-5/20
185	岸駒	芙蓉峰図	府中市美術館	「山水に遊ぶ-江戸絵画の風景250年」展	府中市美術館 (09/3/20-5/10)	09/3/10-5/20
186	中林竹洞	神洲奇観	府中市美術館	「山水に遊ぶ-江戸絵画の風景250年」展	府中市美術館 (09/3/20-5/10)	09/3/10-5/20
187	アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼いの	島根県立美術館、横浜美術館、日本経済新聞社	「フランス絵画の19世紀 美をめぐる100年のドラマ」展	島根県立美術館 (09/3/6-5/31)	09/2/24-9/10

美術作品の補修

平成20年度の修復作品

- ・狩野栄信《桐松鳳凰図・月夜葡萄図屏風》下地調整、再屏風装
- ・中村岳陵《残照》額装調整
- ・秋野不矩《たむろするクーリー》装丁調整、額装新調
- ・秋野不矩《ガンガー》装丁調整、額装新調
- ・ポール・ゴーギャン《家畜番の少女》基底材張替え、画面調整
- ・エリック・デマジエール《想像の町Ⅱ》
- ・ポール・ゴーギャン《オヴィリ》ひび補修、補強

彫刻作品の保守点検業務

- 1 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品すべてについて、点検と洗浄を実施した。また、ロダン館およびブリッジギャラリーの彫刻作品について、乾拭きを行なった。
- 2 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品のうち、柳原義達《道標・鳩》、佐藤忠良《みどり》、船越保武《杏》の洗浄（陰イオン系洗剤使用）とワックス塗布を行なった。この作業は、現在の色調と撥水性を維持し、着色層の劣化と発錆を防止することを目的とする。なお、掛井五郎《蝶》は、作品の特性上陰イオン系洗剤による洗浄のみを実施した。
- 3 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品の内ジョージ・リッキー作《四つの旋回する斜線 菱形Ⅱ》は、グリスを交換した。
- 4 昨年度修復直後に破損された、屋外彫刻《アマリス》については、再修復か否かも含め、当館現代美術ジャンルで未だ検討中である。

保存活動

美術作品を保存し、後世に伝えていくことは、美術館の持つ重要な機能の一つである。美術館は単に作品を公開するだけでなく、人類の文化遺産である文化財を、適切な形で管理していかななくてはならない。

当館ではIPM（Integrated Pest Management、総合的有害生物管理）と呼ばれる考え方に基づく環境保全の試みを、推進していく方針である。大規模な燻蒸に頼る従来の方法を改め、環境を改善することで有害生物を施設内に入れず、カビ等の発生を防ごうとするこの方法は、当館のような環境では、困難な側面を持つ。これは当館が周囲を緑に囲まれており、気候が温暖で、人間にとってのみならず、文化財害虫や菌類にとっても非常に住み心地の良い環境にあるからである。

とはいえ、人間を含む生物全般への影響を勘案すれば、薬剤の使用は少ないのが望ましい。作品への影響も、当然のことながら考えられる。

基本方針としてIPMの考え方を、欧米の美術館とは異なる温暖湿潤な環境の美術館にどのようにして導入していくのかを探っているのが、当館の現状である。

展示室等殺虫

当館では収蔵庫の臭化メチル・酸化エチレン製剤による殺虫・殺菌処理をとりやめている。年間を通じての環境調査の結果、収蔵庫内での虫菌害は確認されていない。

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤による殺虫処理は引き続き行なった。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

収蔵庫等に大規模な虫菌害が発生した場合に備えての燻蒸用薬剤についての調査は、殺菌仕様、殺虫・殺卵仕様それぞれの場合に合わせ、今後とも継続する予定である。

環境調査

静岡は温暖湿潤であり、その文化財は虫菌害を受けやすい。この環境の中で先述のIPMを導入するためには、環境の調査が非常に重要になると考えられる。

当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者に

よる施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。今年度は、昨年度に設置したシャッターブラシの効果を確認出来る最初の年度に当たるため、作品等の搬入口シャッター計5箇所状況に通年留意した。現状、歩行性害虫の侵入は減少し、風による塵の侵入も減少している。

環境改善

前年度からの課題として、

- ①当館収蔵庫内空気環境のPh改善
- ②ロダン館の体感的な空気環境改善
- ③ロダン館へのハエの侵入

①について、酸性物質を幾つか特定し、その濃度を計測しているが、それらが各作品に対してどの程度影響を及ぼすものか、確実なものがいまだ判明していない。

推定される原因物質の除去方法も未開発であるが、それらを除去するのか、封鎖するのかという選択肢もある。

②について、東京文化財研究所の犬塚将英氏にご協力いただいて実施してきた本館、ロダン館の温熱環境測定を一区切り付けた。清水建設のご協力によって構築したロダン館の温熱環境シミュレーションモデルは、後日何らかの形で公開予定である。体感的な温湿度環境改善の試みとして、天井及び作品を照らしているランプの照射時間を調整した。これは客観的な温湿度分布検討の際、輻射熱による体感の変化が大ではないかと推測されたためである。

③についてであるが、ロダン館でハエを見かけるという指摘が、主に冬季に来館者およびミュージズスタッフからあった。このため、地下の誘水槽と天井内側の排風機付近、壁面上部のキャットウォーク付近、壁面裏側、屋外屋根下部付近等を調査した。その結果、ロダン館キャットウォーク東西それぞれに設けられた排風機の開口部から、ハエが侵入していることが判明した。冬季になると煙突効果により、暖められた空気が屋外に漏れ出し、これがハエを誘引していたものと推測される。

対策として、開口部に細かいメッシュをかけ、ハエのみならず他の昆虫の侵入防御も試みた。またこれと並行し、紫外線によるライトトラップも設置した。

普及活動

大規模燻蒸によらない保存環境保全のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェッ

クする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。当館ボランティアや、展示室で監視業務に就くミュージズスタッフへの研修は昨年度に引き続き実施されている。また博物館実習の中に「作品の保全について／IPMの試み」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部に理解を求める試みも行なわれている。

収蔵庫清掃

収蔵品が増加するにつれ、収蔵庫のスペースは少なくなり、環境の維持は難しくなりつつある。虫菌害点検の意味も含めて、今年度は、主に屏風、軸装作品が収蔵されている本館第3収蔵庫の清掃を行なった。具体的には、棚毎に作品を全て撤去した後、掃除機で大まかにゴミを除去、さらに固く絞った雑巾で、汚れがつかなくなるまで念入りに拭き掃除を行なった。作業前、中、後の温湿度を計測し、温湿度環境が作業前程度になったことを確認後、作品を棚に戻した。作品収蔵の状況を確認することが出来、今後の観察にとっても非常に有益な作業であった。

主な保存活動の経過

5月30日（金）～31日（土）

ブンガノン燻蒸（ロダン館荷解室、県民ギャラリー、本館荷解室、本館展示室）

8月～3月

収蔵庫・展示室等生物環境調査（2回）

1月～2月

ロダン館害虫侵入状況調査、改善

3月2日（月）～3月3日（火）

プロムナード彫刻メンテナンス

3月9日（月）～3月17日（火）

外部業者環境調査第2回目

3月17日（火）～3月19日（木）

本館収蔵庫清掃

(一般向け)

ギャラリートーク

ギャラリートークは、有志のボランティアによる展示作品の解説活動である。本年は20名が登録し、活動した。収蔵品展については、原則、毎月第2、第4土曜日に一日2回開催し、2つの企画展についても随時、開催した。さらに、1月、静岡県主催「こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業」により来館した中学生の団体への解説と、県助成制度「県民バス」や、学校団体などへの解説も行った。

ギャラリートークのための研修は、以下のように行われる。

- ・自己研修：ボランティア各自による自己学習。またテーマ、分野が同じメンバーによる勉強会。
- ・月例研修会：毎月第1木曜日PMに全員が集まり、各月のギャラリートークや勉強会の報告、意見交換、連絡などを行う。また次回のリハーサルを展示会場内で行う。

以上二つの研修では、必要に応じて展示の担当学芸員と打ち合わせを行った。また学芸員を講師にした風景画についての購読会なども随時、開催した。

■収蔵品展

原則として、毎月第2、第4土曜日。第1回目14：00

－14：20、第2回目15：00－15：20

のべ44回開催。のべ参加者数443人

■企画展

「シャガール」展、「鑑真」展、「十二の旅」展、「朝鮮王朝の絵画」展の会期中に随時開催。

のべ55回開催。のべ参加者数1,090人

■小中学校団体の来館への対応

のべ38回、のべ参加者数3,899名。(p.67-68参照)

■こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業の中学団体への対応

9日間、40校、来館中学生数5,000人。

■県助成制度「県民バス」対応

のべ5回、のべ143人。

実技・鑑賞講座

■実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることをめざし、展覧会に合わせ実施している。

〈若冲から狩野派まで〉展(GW若冲特別展示)普及事業 「若冲を塗ろう(塗り絵)」

平成20年3月に発行されたばかりの「若冲を塗ろう」(著・発行：静岡新聞社)をテキストとし江戸の枡目画を水彩色鉛筆で再現する内容であった。

本展覧会出品作品の伊藤若冲作《樹花鳥獸図屏風》を題材に、細密で色彩の豊かな枡目描きによる魅力に迫った講座であった。

日 時：5月1日(木) 2日(金)

講 師：原木光子氏、福士雄也(当館学芸員)

場 所：当館実技室・展示室

参加者：26名

〈12の旅〉展普及事業

「石こう実技講座 ーあなたの場所をきりとるー」

この展覧会は、ターナーやコンスタブル、ゴールズワージー、ホックニーなど12人のイギリスの画家の仕事それぞれの「旅」として、彼らの感性や経験を追体験するものであった。

初日は、まず参加者が個々に自分のお気に入りの場所を見つけ、地面に粘土を押し当てて雌型をとって、そこに石こうを流し込む。落ち葉や枝は、場所と時間の記憶としてそのまま取り込んだ。

2日目は固まった石こうに着色した後、完成した作品を型取りした場所に置いて撮影。写真という手段で、各自の場所を切り取る作業を行った。

本講座を通して「空間や時間を包含した場所＝自分」を発見する楽しさとともに、作るだけでは終わらない連続する創作の喜びも味わえたようである。

日 時：10月11日(土) 12日(日)

場 所：プロムナード、当館実技室、展示室

講 師：原田さやか氏(写真家・(株)クレスコ)

鈴木雅道(当館学芸課主任)

参加者：20名



〈風景ルルル〉展普及事業

「オープンスタジオ(コラージュ作品の公開制作)」

日 時：11月7日(金)

講 師：ブライアン・アルフレッド氏(出展作家)

場 所：当館実技室

参加者：38名

「谷田風景散策」

日 時：11月24日(月・祝) 12月7日(日)

講 師：鈴木理策氏(出展作家)

場 所：当館講座室・展示室・美術館周辺

参加者：23名

「風景の中のわたし in旧マッケンジー邸」

日 時：12月13日(土) 14日(日)

講 師：佐々木加奈子氏(出展作家)

場 所：旧マッケンジー邸

参加者：31名

〈朝鮮王朝の絵画と日本〉展普及事業

「李京玉先生のポジャギ教室」

日 時：2月28日(土)、3月21日(土)

場 所：当館講座室

講 師：李京玉氏

参加者：30名

「朝鮮時代の絵画とその周辺」公開ワークショップ

日 時：3月1日（日）

場 所：当館講座室

講 師：六反田豊氏、須川英徳氏、長森美信氏、
森平雅彦氏

■創作週間

創作週間は高校生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、油彩画といった制作活動を利用者同士アドバイスし合って取り組んだりしていた。

美術館スタッフの利用者へのこちらからの関わりについては、制作の主体を利用者におき、相談、助言に重点をおいた。

利用者数は微減傾向にある一方、取り組み分野種数は増加傾向にあり「共同のアトリエ」としての設備と機能に改良を加えていくことが必要である。

開室日数：88日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下 文氏（日本画家）
藤田 泉氏（木版画家）
柳本一英氏（銅版画家）

利用者数：819名



■創作週間スペシャル

創作週間の利用者の促進、日本画を始めたいが道具や描法がよくわからない方、日本画経験者の中で史的側面から日本画を体験したい方のために実施したのが創作週間スペシャルである。



「模写」

当館収蔵品の中から、日下氏と当館実技室担当で形態が明確に表現されている作品数点を選び、上げ写しという伝統的な技法で模写を行った。

日 時：7月19日（土）20日（日）、3月19日（木）
20日（金・祝）

講 師：日下 文氏（日本画家・創作週間インストラクター）

場 所：当館実技室

参加者：51名

「杉板に描く～思い出の品・愛しきものたち」

参加者持参の物や写真をモチーフにして、和紙や絹ではなく、杉板に日本画を描くという新鮮な内容で講座を行った。

日 時：10月22日（水）23日（木）

講 師：日下 文氏（日本画家・創作週間インストラクター）

場 所：当館実技室

参加者：22名

■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描く機会として、毎月2日間、金・土曜日に実施している。デッサンすることで、普段の鑑賞では気づかなかったロダン彫刻の造形的な魅力を発見し、作品を身近に感じることができる活動として定着している。また本年度は、「ロダン館デッサン会スペシャル」として、素描や鑑賞からレリーフ作品の塑造や石こう取りを行う発展的な講座も開催した。

実施日数：24日

実施時間：10：00～15：30

インストラクター：岡村あさ乃（当館実技室担当）

参加者数：532名



■ロダン館デッサン会スペシャル

本年度は、「ロダン館デッサン会」の発展形として、素描や鑑賞からレリーフ作品の塑造や石こう取りを行う講座を2回開催した。

日時：6月8日（日）15日（日）22日（日）、1月10日（土）11日（日）12日（月・祝）24日（土）

インストラクター：岡村あさ乃（当館実技室担当）

参加者数：73名

■版画入門

版画入門は、版画制作に興味を持つ高校生以上の個人を対象に実施している講座である。

版画の基本的な4版種である凹・凸・孔・平を扱い、作品制作の手順、技法、材料や使い方について作家の指導をおおぎながら制作した。

日時：シルクスクリーン 5月5日（月・祝）6日（火・祝）

木版画 9月14日（日）15日（月・祝）

銅版画 11月1日（土）～3日（月・祝）

リトグラフ 2月7日（土）8日（日）

講師：北川 純氏（Tシャツ・アーティスト）

安富 忍氏（木版画家）

柳本一英氏（版画家）当館普及スタッフ

場所：当館講座室・展示室

参加者：130名（通算）



■色彩アトリエ

色彩アトリエは、絵の具開放日の延長線上に位置づけられるプログラムで、色彩の持つ魅力を、さまざまな技法を体験していく中で発見していこうというものである。

対象は土曜工作室と同様、大人から子どもとし、親子を中心とした参加者が多く見られた。

午前、午後同じ内容を実施したにもかかわらず、違った参加者の反応が見られたり、作品にもそれが表れたり、参加者は勿論、美術館スタッフもインストラクターも新しい発見があるものになっている。

実施日数：10日（午前・午後で20回）

実施時間：午前の部 10：15～12：15

午後の部 13：30～15：30

インストラクター：持塚三樹氏（画家）

助手：志村将史氏

場所：当館実技室及び美術館周辺

参加者数：339名

実施日	内 容	参加者数	
		午前	午後
4 / 5	スパッタリング	21	22
6 / 14	虹のドローイング	33	24
7 / 12	透明絵画	32	28
8 / 9	色彩アトリエ中学生バージョン開催！	17	
9 / 6	スクラッチぐ〜	15	36
10 / 4	虹をつくろう！	20	24
11 / 15	ヒカリDEアート	7	8
12 / 6	ツリー on ツリー	21	34
1 / 17	浮き出る絵画	15	15
3 / 7	コロコロスタンプ	15	18
計	年間10日（20回）：339名		



■鑑賞講座

鑑賞講座は、子ども鑑賞講座、親子鑑賞講座、鑑賞講座に分かれ、それぞれ子ども、親子、大人を対象とし、展覧会担当の学芸員と展示室での対話を通して作品鑑賞を行っていくプログラムとして開催している。

本年度は〈国宝 鑑真和上展〉に絡めて開催した。

「ファミリー鑑賞会スペシャル」

〈国宝 鑑真和上展〉に絡めた夏休み子どもワークショップの中で開催家族二世帯・三世帯のために考案した鑑賞プログラムとして設定。最初に世代別（祖父母、父母、子）に分かれ、感想等を専用シートに記入しながら鑑賞を行い、その後机上でそのシートを家族で見せ合った。シートには作品写真が貼ってあり、3枚合わせて初めて一つの作品の姿になるというもので、世代別の見方・感じ方の違いを実感できるように工夫した。

夜間開館時間をフルに使い、食事もワークショップの一部にしてしまったこの企画では、終始、家族の楽しい笑い声と、子供の鋭い発見や感想に感心する大人達の姿が見られた。最後に家族単位で観覧した際は、子供に案内してもらった祖父母の姿あり、父母が『鑑真和上像』をみて詠んだ句を一家で味わう姿あり、というようにそれぞれの家族で味わい方を発見し展覧会を楽しんでいる様子が見られた。

何と言っても、この日のスペシャルたる由縁は、〈十七夜山 普茶堂〉による普茶料理（中国風精進料理）が特別に食べられるということ。実際に、唐招提寺でも調理し、グライ・ラマ氏にもふるまったという普茶堂の料理は、「目でも味わいたいから部屋を明るくして欲しい。」と要望が出るほど、見た目も味も存在感のあるもので、満足していただけた様子だった。

日 時：8月2日（土）

インストラクター：鈴木雅道（当館学芸課主任）

森 充代（当館学芸員）

場 所：当館実技室、講座室、展示室

参加者数：31名

「びったんこガンジン！」

〈国宝 鑑真和上展〉出展作品について、子供が考えたクイズに親がテレビ番組の解答者に扮して答えるという鑑賞ワークショップを開催した。午前中、子供達が展覧会場で作品を見ながら様々な発見をしクイズに、その間、親達は学芸員から、どんなクイズが出されても解答できるよう詳細なレクチャーを受け、回答者と

して準備を行った。

午後、子供達は如来、菩薩、明王の格好をして登場し、クイズを読み上げる。親達はレクチャーを書きとめたメモを見て、時には苦渋の表情を浮かべ、時には笑顔で、解答した。全員がクイズを出した後は家族で再度観覧。子供達は、感じたことや発見したことをうれしそうに説明していた。

日 時：8月3日（日）

インストラクター：鈴木雅道（当館学芸課主任）
森 充代（当館学芸員）

場 所：当館実技室、展示室、エントランス

参加者数：7名

「ファミリー鑑賞会」

〈国宝 鑑真和上展〉に絡めた夏休み子どもワークショップの中で開催家族二世・三世のために考案した鑑賞プログラムとして設定。「ファミリー鑑賞会スペシャル」との違いは、夕食が普茶料理ではなく館内レストランでのコース料理になること、またスペシャルでは行った鑑賞の感想会をなくした、ということであった。

日 時：8月9日（土）、16日（土）

インストラクター：鈴木雅道（当館学芸課主任）
森 充代（当館学芸員）

場 所：当館実技室、展示室、エスタ

参加者数：54名



実技・体験

■粘土開放日

粘土開放日は、実技室と実技室にある1tを越える粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらうプログラムである。

親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするため、こちらで細かい指示は出さず、会話も含めて楽しんでもらうことに重点をおいている。

後に記載する美術館教室の粘土あそび、粘土ワークショップで来館した園児・児童が、今度は親子で参加しているというケースも多く、美術館教室とこのプログラムに繋がりができてきた。

参加者はリピーターも多いが、毎回新規の方もあり、口づてで来られた方、HP、チラシを見て来られた方、また、雑誌の掲載記事を見られて来られた方など、広く周知されるようになってきたことが伺える。

今年度は各回150名の定員を設け、これまで以上にのびのびと活動できるようにした。

実施日数：10日（午前・午後で20回）

実施時間：午前の部 10：15～12：00

午後の部 13：30～15：15

インストラクター：内海健夫（美術作家）

助手：増田阿希子氏、吉村友利氏

場所：当館実技室

参加者数：2637名



室内のプログラムは吊したビニールクロスに絵を描いてもらうようにし、顔をくっつけて輪郭、目、鼻、口を親子で描きあったり、高い所は親に持ち上げてもらって描いたり、描くことは勿論、コミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

屋外のプログラムは広い石畳にハケを使い、体を思い切り動かしながらの制作で、やっているうちに足の裏に絵の具が付き、それがスタンプ遊びになり、さらにはボディペインティングへと発展していった。

こちらも美術館教室で来館した子どもの親子連れ、リピーター、新規参加者の内訳等、粘土開放日と同様、長年行ってきた粘土開放日と肩を並べるようなプログラムになってきている。

また粘土開放日と同様、より広々としたスペースで楽しんでもらうこと、安全面等を考え、室内の場合は各回80名程度、屋外の場合は各回150名程度の定員を設けた。

実施日数：10日（午前・午後で20回）

実施時間：午前の部 10：15～12：00

午後の部 13：30～15：15

インストラクター：志村将史氏

助手：増田阿希子氏、吉村友利氏

場所：当館実技室、屋外展示テラス

参加者数：2058名



■絵の具開放日

絵の具開放日も粘土開放日と同様、親子で自由に楽しく絵を描いてもらうプログラムで、今年で3年目を迎えた。

室内で行うものと屋外で行うプログラムがあり、今年度は室内で4日（8回）、屋外で6日（12回）実施した。



■土曜工作室

土曜工作室は、粘土開放日の延長線上に位置づけられるプログラムで、粘土だけでなく、木材、ダンボール、石膏などさまざまな素材を用い、彫刻、立体造形の面白さを発見、体験するもので、一昨年度から実施している。

対象は大人から子どもとし、親子を中心とした参加者が多く見られた。

午前、午後を通した一日のプログラムで、インストラクターは、毎回子どもたちと作業内容や進め方を話し合いで決めていくため、子どもたちに「自分が主役」という意識が生まれ、充実感を味わうことのできるものとなっている。

実施日数：12日

実施時間：10：15～15：30

インストラクター：石上和弘氏（彫刻家）

助 手：吉村友利氏

場 所：当館実技室及び美術館周辺

参加者数：187名

実施日	内 容	参加者数
4/26	粘土のすべり台	22
5/24	角材で家を作る！	24
6/28	ロダン館で工作室	22
7/26	島を作る	26
8/23	ダンボールで大工作	17
9/27	彫刻を浮かせてみよう	10
10/18	鉛筆彫刻	13
11/29	粘土で旅行！	9
12/20	落ち葉で遊ぶ	9
1/24	石こう色遊び	17
2/21	動物園に変えてみよう！	14
3/28	角材で家を作る！	19
計	年間12日	187名

夏休み子どもワークショップ

夏休み子どもワークショップは、美術館に足を運ぶことの難しい小学生を対象に、夏休みという比較的来館しやすい時期を選び、作品や作家との関わりの中で創造・鑑賞の喜びを感じてもらうためのプログラムで、当館では夏休みに開催される展覧会与絡めて実施している。

今年は〈国宝 鑑真和上展〉の内容を取り入れた3種類のワークショップを開催した。「君だけの仏像くヒーロー>あらわる！」では、仏像の木型に紙を貼って作る仏像型の張り子を製作した。静岡大学教育学部美術科の学生の皆さんの協力で20個の仏像木型を用意。また張り子に使う材料と製作工程等は「浜松張り子工房」二橋加代子氏に指導をおおいだ。

「君だけの仏像くヒーロー>あらわる！」

7月29日～30日、7月31日～8月1日の2回実施したこのワークショップでは、張り子製作はもちろん、乾燥させている時間を使って学芸員によるフロアレクチャーやプロジェクターによる仏像紹介、塗り絵、仏像の格好をして写真撮影、寄木造りを模した立体パズル（協力：東京国立博物館）と盛り沢山の内容だった。学芸員の話に聞き入る子供達の真剣な眼差しと、集中して張り子を作る緊張感溢れる表情が印象的だった。

日 時：①7月29日（火） 30日（水）

②7月31日（木） 8月1日（金）

インストラクター：鈴木雅道（当館学芸課主任）

森 充代（当館学芸員）

場 所：当館実技室、展示室

参加者数：54名



「ファミリー鑑賞会スペシャル」

普茶料理、鑑賞用のワークシートと鑑賞をパック化し、さらに二世帯、三世帯での鑑賞をねらいとした鑑賞講座であった。

日 時：8月2日（土）

インストラクター：鈴木雅道（当館学芸課主任）

森 充代（当館学芸員）

場 所：当館実技室、展示室

参加者数：31名



「ぴったんこガンジン！」

親子鑑賞講座の形態で実施。展覧会の内容にそって子供が作成したクイズを、親が回答するという内容で行った。

日 時：8月3日（日）

インストラクター：鈴木雅道（当館学芸課主任）

森 充代（当館学芸員）

場 所：当館実技室、展示室、エントランス

参加者数：7名



学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムで、実技や鑑賞、職場体験、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、学芸員やエデュケーショナルスタッフがお手伝いするものである。

粘土ワークショップ、粘土あそび、絵の具ワークショップは、県内の保育園、幼稚園、学校に周知されるようになり、年々参加希望団体が増加している。そのため今年度はできるかぎり多くの団体に参加していただくため、合同実施での開催とし、各団体に協力を求めた。

また、今後の取組として、出張授業等、美術館から学校へ出掛けて実施する内容を充実させていくことも考えている。

■粘土ワークショップ

粘土ワークショップは、小学生以上の児童、生徒を対象に、水粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へと繋げていくプログラムである。

なお、本年度は、夏休みに実施する児童クラブ向けの美術館教室を全て粘土ワークショップで行った。

インストラクター：石上和弘氏（彫刻家）

助 手：増田阿希子氏、吉村友利氏

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）

助 手：増田阿希子氏、吉村友利氏

場 所：当館実技室



月日	団 体 名	参加者
5/20	静岡市立船越小学校：小3	37
5/22	静岡市立船越小学校：小3	73
8/5	足久保村塾（合同）	32
8/5	服織児童クラブ（合同）	30
8/5	浜田児童クラブ（合同）	38
8/5	興津児童クラブ（合同）	62
8/6	西奈児童クラブ	71
8/6	中島第一児童クラブ	36
8/7	長田西児童クラブ	70
8/8	三保第二児童クラブ（合同）	27
8/8	飯田児童クラブ（合同）	38
8/8	長田北児童クラブ（合同）	46
8/8	宮竹児童クラブ（合同）	37
8/19	川原児童クラブ（合同）	44
8/19	袖師児童クラブ（合同）	41
8/19	新川児童クラブ（合同）	35
8/19	田町児童クラブ（合同）	32
8/20	蒲原東児童クラブ	34
8/20	城北児童クラブ	79
8/21	飯田東児童クラブ	37
8/21	西奈南児童クラブ	70
8/22	瀬名児童クラブ（合同）	29
8/22	東源台第2児童クラブ（合同）	32
8/22	新通児童クラブ（合同）	35
8/22	豊田児童クラブ（合同）	26
8/26	森下児童クラブ（合同）	23
8/26	有度第2児童クラブ（合同）	70
8/26	南部児童クラブ（合同）	40
8/26	中島第一児童クラブ（合同）	27
8/27	入江児童クラブ	62
8/27	井宮児童クラブ（合同）	42
8/27	船越児童クラブ（合同）	58
8/28	大谷児童クラブ	34
8/28	番町児童クラブ（合同）	53
8/28	井宮北児童クラブ（合同）	37
9/24	東源台小学校：小2	74
9/25	船越小学校：小5	69
10/1	南部小学校：小5	75
10/2	南部小学校：小4	75
10/3	蒲原東小学校	49
10/8	静岡北特別支援学校：中学部	17
10/9	静岡中央特別支援学校：小5	15
10/9	森下小学校：特支	16

10/9	長田北小学校：特支	5
10/9	西豊田小学校：小5	73
10/15	伊久美小学校：全校	27
10/16	藤枝稲葉小学校：小1	22
10/17	籠上中学校：特支	8
10/17	大里中学校：特支	10
10/17	西奈中学校：特支	7
10/17	賤機中学校：特支	5
10/17	静岡中央特別支援学校：小4	12
10/17	西豊田小学校：小5	47
11/13	森下小学校：小1	52
11/13	清沢小学校：小1・2	18
11/13	西豊田小学校：小5	75
11/18	東源台小学校：小5	90
11/27	南部特別支援学校	32
11/27	富士見小学校：小2	54
11/28	葵小学校：特支	27
11/28	安倍口小学校：特支	11
11/28	富士見小学校：小2	54
12/2	中藁科小学校：小3	16
12/3	中田小学校：小2	76
12/4	中田小学校：小2	40
12/9	東源台小学校：小2	38
2/19	竜南小学校：小1	71
2/20	船越小学校：小6	67
2/24	清水岡小学校：小2	65
2/26	竜南小学校：小1	65
2/26	清水岡小学校：小2	66
2/27	大仁東小学校：全校	64
2/27	東源台小学校：小1	95
3/3	入江小学校：小3	59
3/3	入江小学校：小3	59
3/5	南部小学校：小1	64
3/5	賤機中小学校：小1～3	41
3/6	浜田小学校：小1・2	81
参加団体数：78		3523

■粘土あそび

粘土あそびは保育園・幼稚園児対象に、水粘土を使用し、体全体で粘土に触れ、粘土あそびを通してインストラクターや助手、友だちとの関わりを重視していくプログラムである。

インストラクター：石上和弘氏（彫刻家）

助手：増田阿希子氏、吉村友利氏

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）

助手：増田阿希子氏、吉村友利氏

場所：当館実技室



月日	団体名	参加者
5/13	日本平幼稚園：年中	112
5/13	矢部保育園：年長	27
5/15	小百合キンダーホーム：全園	43
5/15	田町幼稚園：年中	51
5/15	ふじみ幼稚園：年長	71
5/16	田町幼稚園：年中・長	53
5/16	城東保育園：年長	34
5/16	あゆみ第2保育園：年長	41
5/20	月影保育園：全園	40
5/22	たんぽぽ保育園：全園	63
5/23	パプテスト幼稚園：全園	56
5/23	竜南保育園：年中	34
8/7	江尻保育園：年中・長	40
9/10	麻機幼稚園：年長	100
9/10	リリー幼稚園：年中・長	82
9/24	北安東保育園：年中・長	45
9/24	庵原保育園：年中・長	47
9/25	こまどり幼稚園：年中	44
9/25	静岡聖母幼稚園：年長	51
10/1	杉の子幼稚園：年長	42
10/1	下川原保育園：年長	51
10/2	杉の子幼稚園：年少	50
10/2	若竹幼稚園：年中	33
10/3	杉の子幼稚園：年中	38
10/3	清水隣保館保育園：年中・長	37

10/8	田町保育園：全園	148
10/15	隣人会保育園：年中・長	70
10/16	有度東保育園：年長	17
10/16	若竹幼稚園：年長	45
11/12	若竹幼稚園：年中	34
11/12	ゆりかご保育園：年中	16
11/12	久能幼稚園：年中・長	22
11/14	船原幼稚園：年長	63
11/14	あけぼの保育園：年長	56
11/14	中村町保育園：年長	46
11/18	さくら幼稚園：年長	75
11/20	藁科幼稚園：年中・長	24
11/20	曙保育園：全園	55
11/20	日吉町保育園：年長	24
11/21	若草保育園：年少	30
11/21	瀬名川保育園：年長	45
11/21	折戸保育園：年長	26
11/21	駒越保育園：年長	23
12/2	アソカ幼稚園：年長	10
12/2	興津北保育園：年長	34
12/3	麻機幼稚園：年中	80
12/4	わらべ幼稚園：年長	29
12/9	丸子幼稚園：年中・長	55
12/10	丸子幼稚園：年少	38
12/10	リリー幼稚園：年中・長	73
1/29	小黒保育園：全園	52
1/29	長沼保育園：年長	39
2/18	東新田保育園：年長	48
2/18	用宗保育園：年長	18
2/18	東豊田保育園：年長	49
2/19	かえで幼稚園：全園	64
2/20	水落保育園：年中・長	17
2/20	中藁科保育園：年中・長	30
2/20	大川保育園：年長	6
2/24	MEKイングリッシュプリスクール：年長	48
2/25	MEKイングリッシュプリスクール：年少・中	53
2/25	リリー幼稚園：年少	39
3/6	藤枝幼稚園：年長	27
参加団体数：63		2913

■絵の具ワークショップ

絵の具ワークショップは幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心に、学年が上がるにつれ少しずつ難易度をつけているが、全身を使い、楽しく描くことを重視している。

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）
 助手：増田阿希子氏、吉村友利氏
 場所：当館実技室、屋外展示テラス



・絵具ワークショップ（屋外）

月日	団体名	参加者
4/24	日本平幼稚園：年長	64
4/24	大里西小学校：特支	11
5/14	ふたば保育園：年中・長	71
5/14	リリー幼稚園：年中・長	83
9/26	静岡大学付属特別支援学校：小学部	22

9/26	田町小学校：特支	7
9/26	清水小島小学校：小2	29
9/30	若草保育園：年中・長	66
9/30	浜田小学校：小5	47
10/10	静岡中央特別支援学校：中学部	7
10/10	あけぼの保育園：年長	53
11/11	森下小学校：小4	71
11/11	城東保育園：年長	35
11/19	中田保育園：年長	42
11/19	月影保育園：年中・長	22
11/19	浜田小学校：小3	91
11/26	駒形小学校：小1	41
11/26	リリー幼稚園：年中・長	90
12/5	森下小学校：小2	44
12/5	服織小学校：特支	20
12/11	丸子幼稚園：年中・長	58
12/11	静岡中央特別支援学校：中学部	26
2/17	丸子幼稚園：年少	39
2/17	中原幼稚園：年少	38
2/17	サレジオ幼稚園：年中	66
3/4	静岡大学附属静岡小学校：小1	41
3/4	ジョイベルインターナショナル	4
参加団体数：27		1188

・絵具ワークショップ（室内）

月日	団体名	参加者
4/22	あゆみ第2保育園：年長	42
4/22	折戸保育園：年長	24
4/22	ふじみ幼稚園：年中	69
4/23	ゆりかご保育園：年長	14
4/23	日本平幼稚園：年長	35
4/23	こぐま保育園：年長	24
4/25	足久保保育園：年長	21
4/25	西奈幼稚園：年長	36
4/25	籠上中学校・賤機中学校：特支	9
5/21	静岡南幼稚園：年長	115
5/21	一番町保育園：年中・長	27
9/9	かえで幼稚園：全園	37
9/9	矢部保育園：年中・長	48
9/9	静岡大学付属静岡小学校：小4	37
9/11	こまどり幼稚園：年長	44
9/11	船越小学校：小3	66
9/12	静岡南幼稚園：年長	92
9/12	船越小学校：小3	61

10/7	麻機幼稚園：年長	98
10/7	中藁科小学校：小6	16
参加団体数20		915

■音のかけらワークショップ

音のかけらワークショップは、当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

今年度は特に特別支援学級、特別支援学校の利用団体が多く、児童、生徒は夢中になって音を出し、楽しむ様子が見られた。



月日	団体名	参加者
5/2	静岡県立中央特別支援学校：高等部	45
9/26	清水小島小学校：小2	29
11/11	静岡中央特別支援学校：小3	22
12/11	静岡中央特別支援学校：中等部	26
1/21	長田南小学校：特支	10
1/23	静岡中央特別支援学校：中等部	11
参加団体数：6		143

■ロダン館ななふしぎ

ロダン館ななふしぎは、7枚のカードに書かれたクイズを解き、最後に答え合わせをしながら鑑賞を深めるプログラムである。

クイズは作品のシルエットやキャプションがヒントになっているため、じっくりと鑑賞することが必要になる。

答え合わせでは、単にそれだけを行うのではなく、鑄造の手法、作品のエピソードなどにも触れている。



月 日	団 体 名	参加者
4/18	島田実業高等専修学校	13
4/25	高部東小学校：小 6	134
4/29	富士宮市立富士根南中学校：美術部	26
5/2	静岡県立中央特別支援学校：高等部	45
5/9	静岡市立大谷小学校：小 4	52
5/21	静岡市立東源台小学校：小 3	114
5/21	静岡市立観山中学校：中 2	6
7/29,30	雙葉学園中学校：中 3	4
7/31	静岡市立大里中学校：美術部	14
8/5,6	雙葉学園中学校：中 3	3
8/7,8	雙葉学園中学校：中 3	3
8/8	三保第二児童クラブ	27
8/8	飯田児童クラブ	38
8/26~28	静岡市立東中学校：中 2	5
8/28	星槎国際高校	9
9/17	インターナショナルチャーチスクール	8
9/26	清水小島小学校：小 2	29
9/30	浜田小学校：小 5	47
10/3	蒲原東小学校：小 4	49
10/8	田町保育園：全園	66
10/16	藤枝稲葉小学校：小 1	22
10/16	沼津静浦中学校：中 1	45
10/23	興津小学校：小 5	152
10/28	井宮北小学校：小 2	88
10/31	伝馬町小学校：小 3	54
11/7	安倍口小学校：小 2	58
11/11	森下小学校：小 4	71
11/14	静大附属静岡小学校：小 1	42
11/14	不二見小学校：小 3	103
12/2	中蘂科小学校：小 3	16

12/3	中田小学校：小 2	76
12/3	森町飯田小学校：小 5	43
12/4	中田小学校：小 2	40
12/11	静岡中央特別支援学校：中等部	22
1/22	井宮小学校：小 2	88
1/23	静岡中央特別支援学校：中等部	11
2/3	島田神座小学校：小 4	22
2/10	本川根小学校：小 6	26
2/20	中川根第一小学校：小 6	13
2/20	船越小学校：小 6	67
2/27	大仁東小学校：全校	64
3/3	入江小学校：小 3	59
3/3	入江小学校：小 3	59
3/5	賤機中小学校：小 1～3	41
参加団体数：44		1974

■美術館の秘密をさぐれ

美術館には多くの来館者が訪れるが、美術館にはそういった方により美術館を楽しんでいただくための工夫や作品を管理、保護するための工夫が随所にみられる。本プログラムはワークシートを使って、美術館を探検し、そうした工夫を見つけ、最後に解説を行っている。



月 日	団 体 名	参加者
4/18	島田実業高等専修学校	13
5/9	掛川市立東中学校：中 2	10
5/13	菊川市立西中学校：中 2	16
5/14	静岡市立清水第五中学校：中 1	25
5/21	静岡市立観山中学校：中 2	6

7/19	静岡市立城内中学校：美術部	12
7/29,30	雙葉学園中学校：中3	4
7/31	静岡市立南中学校：美術部	15
8/5,6	雙葉学園中学校：中3	3
8/7,8	雙葉学園中学校：中3	3
8/26～28	静岡市立東中学校：中2	5
8/28	星槎国際高校	9
1/21	東豊田小学校：小5	4
2/7	常葉中学校：全学年	49
2/10	蒲原中学校：中1	30
参加団体数：15		204

■ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象としたロダン館の彫刻作品をスケッチ、デッサンするもので、これにより作品をじっくり見ることへとつなげている。



月日	団体名	参加者
4/16	加藤学園暁秀高校：高1	13
4/23	誠恵高等学校：高2・3	25
7/31	静岡市立大里中学校：美術部	14
8/2	静岡市立城内中学校：美術部	4
9/17	常葉学園菊川高等学校：高2	43
10/16	沼津静浦中学校：中1	45
11/11	静岡中央特別支援学校：小3	2
12/25	県立沼津西高等学校：高2・3	21
2/7	静岡市立城内中学校：美術部	5
3/7	浜松江之島高等学校：高1・2	28
参加団体数：10		200

■ギャラリートーク

教育普及活動はこれまで実技系を中心に展開してきたが、美術館の財産、すなわち作品を生かしたプログラムの充実も求められている。

そこで本年度、実験的に当館ボランティア・ギャラリー・トークグループに協力を求め、学校からの求めに応じ、鑑賞のお手伝いをさせていただいた。



月日	団体名	参加者
4/16	加藤学園暁秀高校：高1	56
4/18	島田実業高等専修学校	13
4/25	高部東小学校：小6	134
4/29	富士宮市立富士根南中学校：美術部	26
4/30	静岡市立西豊田小学校：小5	186
5/2	静岡県立中央特別支援学校：高等部	45
5/2	静岡県立湖東高等学校：高1	337
5/9	静岡市立大谷小学校：小4	52
5/15	静岡県立聴覚特別支援学校：中等部	9
5/17	御殿場市立西中学校：中2	120
5/21	静岡市立東源台小学校：小3	114
7/17	静岡聴覚特別支援学校：中学部	8
7/25	静岡市立葵小学校：小6	77
7/26	熱海市立多賀中学校：美術部	21
7/31	静岡市立南中学校：美術部	15
7/31	静岡市立大里中学校：美術部	14
8/8	焼津市立焼津中学校：美術部	11
8/8	富士市立富士南中学校：美術部	13
8/21	牧之原市立相良中学校：美術部	19
9/25	船越小学校：小5	69
9/30	浜田小学校：小5	47
10/3	蒲原東小学校：小4	49

10/16	沼津静浦中学校：中1	45
10/23	興津小学校：小5	152
10/24	藁科中学校：全校	92
11/11	森下小学校：小4	71
11/13	森下小学校：小1	52
11/13	清沢小学校：小1・2	18
11/14	静大附属静岡小学校：小1	42
11/18	東源台小学校：小5	90
11/21	大里東幼稚園：年長	76
11/26	駒形小学校：小1	41
11/27	南部特別支援学校	32
11/27	宮竹小学校：小2	114
12/2	中藁科小学校：小3	16
12/3	中田小学校：小2	76
12/3	森町飯田小学校：小5	43
12/4	中田小学校：小2	40
12/11	静岡中央特別支援学校：中等部	26
12/11	静岡中央特別支援学校：中等部	22
1/14	富士常葉大学	29
1/21	長田南小学校：特支	10
1/29	清水町立清水西小学校：小6	99
2/3	島田神座小学校：小4	22
2/7	城内中学校：美術部	5
2/7	常葉中学校：全学年	49
2/10	本川根小学校：小6	26
2/10	蒲原中学校：中1	30
2/17	清水第七中学校：中2	153
2/18	清水第七中学校：中2	111
2/19	清水第七中学校：中2	37
2/20	中川根第一小学校：小6	13
2/20	船越小学校：小6	67
2/24	清水岡小学校：小2	65
2/26	清水岡小学校：小2	66
2/26	三島山田小学校：小6	114
2/27	大仁東小学校：全校	64
2/27	加藤学園暁秀初等学校：小1	56
3/3	入江小学校：小3	59
3/3	入江小学校：小3	59
3/5	賤機中小学校：小1～3	41
3/5	富士市立須津中学校：特支	10
3/13	藤枝明誠中学校：中1	155
3/17	富士川第二小学校：小6	76
参加団体数：64		3899

■職場体験学習

職場体験学習は、今日の少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用形態の多様化、あるいはフリーターやニートといった社会問題に対し、しっかりとした勤労観、職業観を身につけ、将来、社会人、職業人として自立できるようにするキャリア教育の一環として実施されている。

当館でも美術館教室・実技プログラムの開催日を中心に受け入れを行った。

主な活動としては、美術館教室での補助活動、ログ館ななふしぎ、美術館の秘密を探れといったプログラムへの参加、ショップやインフォメーション業務の体験などがある。

こうした体験を通して、美術館は単に絵を鑑賞する場所ということにとどまらず、さまざまな活動が行われていること、そこにはいろいろな仕事をする人がいること、また多くの工夫があることを感じ取ってくれていた。



月 日	団 体 名	参加者
5/21	静岡市立観山中学校：中2	6
5/23	静岡市立清水第三中学校：中1	20
6/14	常葉学園造形学部インターン	1
7/12	常葉学園造形学部インターン	7
7/13	常葉学園造形学部インターン	8
7/21	常葉学園造形学部インターン	5
7/21	常葉学園造形学部インターン	2
7/29,30	雙葉学園中学校：中3	4
8/5,6	雙葉学園中学校：中3	3
8/5	常葉学園造形学部インターン	4
8/7	常葉学園造形学部インターン	3

8/7,8	静岡文芸大学	2
8/7,8	雙葉学園中学校：中3	3
8/9	常葉学園造形学部インターン	4
8/10	常葉学園造形学部インターン	5
8/19	常葉学園造形学部インターン	3
8/22	常葉短大	1
8/26~28	静岡市立東中学校：中2	5
11/13,14	静岡市立清水第一中学校：中2	4
11/19,20	聖光学院中学校：中3	1
11/26~28	中島中学校：中2	2
11/27,28	清水興津中学校：中2	4
参加団体数：22		97

■教員研修

初任者研修、5年・10年目研修の場として教員を受け入れるとともに、自園、自校で粘土ワークショップ等を指導されたい教員に対し、ワークショップへの参加、スタッフとのディスカッションを通して、その方法を研修してもらう場を設けている。

月日	団体名	参加者
4/2	加藤学園暁秀高校職員	2
4/2	大谷小学校職員	2
4/3	高部東小学校職員	5
4/13	静岡県立中央特別支援学校職員	7
8/1	博物館実習学生	14
8/5	袋井市立袋井東小学校	3
8/7	静岡市図画工作・美術夏季研修会	76
8/8~10	静岡県立清水西高等学校	1
8/28	田町保育園	3
11/11	大里東幼稚園	2
参加団体数：10		115

■出張美術講座・こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行ったり、ロダン体操の指導を行った。

また、「こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業」は、本格的な劇場での舞台芸術の鑑賞、本格的なホールでの音楽の鑑賞や県立美術館が所蔵する絵画・彫刻の鑑賞機会等を提供することにより、県内の中学生の豊かな心を育むとともに、文化芸術の素晴らしさや鑑賞マナーを知ってもらうことを目的に県が実施しているもので、「中学生文化芸術鑑賞推進事業」から引き継がれ、本年度で6年目の事業である。

当館ではより意義あるものにしてもらうため、来館する学校に対し、学芸員による「出張美術講座」を実施した。

来館に要する費用、時間を考えると、学校にとって美術館に訪れることはたいへん難しく、今後さまざまな形での「出張美術講座」を考えていく必要がある。



日時	学校名	学年	人数
9/25	静岡市立東中学校	3年	39
11/14	森町立飯田小学校	5年	40
1/9	袋井市立浅羽中学校	1年	200
1/9	富士市立田子浦中学校	2年	142
1/9	浜松市立富塚中学校	2年	170
1/13	掛川市立城東中学校	1年	95
1/13	富士市立吉原第三中学校	1年	83
1/13	浜松市立水窪中学校	全校	64
1/14	浜松市立丸塚中学校	1年	176
1/15	組合立牧之原中学校	1年	22
1/16	富士市立元吉原中学校	1年	91
1/16	浜松市立神久呂中学校	1年	98
1/19	静岡市立観山中学校	2年	272
1/19	浜松市立南部中学校	2年	221
1/19	浜松市立積志中学校	2年	190
1/19	藤枝市立青島中学校	2年	225
1/22	掛川市立桜が丘中学校	1年	142
1/22	浜松市立都田中学校	2年	143
1/22	下田市立下田中学校	1年	115
1/23	焼津市立小川中学校	1年	120
1/24	日本大学三島中学校	1年	62
1/26	興誠中学校	1年	23
1/26	浜松市立舞阪中学校	1年	118

【館長公約 B】 地域や学校教育との連携を深め、質の高い教育・普及活動を展開します。

【重点目標 2】 講座・講演会等を充実します。

講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会等を開催した。とりわけ「鑑真和上展」の連続講演会は好評を博した。

■特別講演会

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
4月20日	シャガール展「形成期の芸術的環境－キュビズム、オルフィスムなど」	八重樫春樹氏（美術史家）	講堂	80人
7月21日	鑑真和上展「共結来縁（ともに来縁を結ばん）」	松浦俊海師 （律宗総本山 唐招提寺長老）	静岡県立大学・大講堂	900人
7月21日	鑑真和上展「鑑真和上と唐招提寺の仏像」	鷲塚泰光氏（展覧会監修、前奈良国立博物館館長）	静岡県立大学・大講堂	900人
7月26日	鑑真和上展「講座 鑑真和上の教え－戒律について」	石田太一師 （律宗総本山 唐招提寺執事）	静岡県立大学・大講堂	930人
8月2日	鑑真和上展「仏像のひみつに近づく」	山本 勉氏（清泉女子大学教授）	静岡県立大学・大講堂	730人
8月16日	鑑真和上展「蓮のイコノロジー」	宮治 昭（当館館長、龍谷大学特任教授）	静岡県立大学・大講堂	472人
9月21日	十二の旅展「イギリス周遊－自然に触発される旅」	潮江宏三氏 （京都市立芸術大学学長）	講堂	112人
10月12日	十二の旅展「イギリスの暮らし－絵になるイングリッシュガーデン」	吉谷桂子氏（英国園芸研究家・ガーデンデザイナー）	講堂	196人
10月18日	十二の旅展「イギリスのティーハウスやウォーキングを楽しむ、滞在型旅のすすめ」	小関由美氏（文筆家・英国アンティーク研究家）	講堂	126人
11月15日	風景ルル展「スペシャルトーク」	照屋勇賢氏（アーティスト）、 森本千絵氏（デザイナー）	静岡県立中央図書館レクチャールーム	150人
2月21日	朝鮮王朝の絵画と日本展「朝鮮王朝の絵画と室町絵画」	橋本慎司氏 （栃木県立美術館特別研究員）	講堂	80人
3月7日	朝鮮王朝の絵画と日本展「朝鮮王朝中期の絵画－明宗の時代を中心に」	板倉聖哲氏 （東京大学東洋文化研究所准教授）	講堂	80人

■講演会シリーズ 「風景」を考える

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
11月8日	現代アートの世界－「風景ルル」展と「風景の中のフウケイ」展<アートプロジェクトSHIZUOKA2008出展作家による公開座談会>	「風景ルル」展、「風景の中のフウケイ」展出品作家	当館エントランスホール	70人

美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館学芸員ほかによる講座を開催した。展示室前で作品を前にした解説や、日本画作品をケースに入れずに状態でじかにご覧いただく試み、子どもや親子を対象をしぼった講座など、ヴァリエーションの拡大に努めた。

■美術講座

スライドなどを交えながらレクチャーを行うもの。

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
5月11日	シャガール展「シャガール美術とノスタルジア」	小針由紀隆（当館学芸部長）	講座室	80人
5月18日	シャガール展「シャガールのヴァイオリン」	小林 旬氏 （静岡音楽館 A O I 学芸員）	講座室	70人
7月26日 8月16日、 26日	鑑真和上展「鑑真大和上宝前法要」	唐招提寺僧侶、森充代 （当館学芸員）	講座室、展示室	93人
11月22日	風景ルル展 アーティストトーク	小西真奈氏（「風景ルル」展出品作家）	講座室	40人
11月23日	風景ルル展 アーティストトーク	柳澤 颯氏（「風景ルル」展出品作家）	講座室	30人
3月15日	朝鮮王朝の絵画と日本展「朝鮮絵画と近世の日本絵画」	福士雄也（当館学芸員）	講座室	60人

■鑑賞講座

鑑真和上展に合わせて、親子向けの鑑賞講座を開催した。クイズやワークシートを用いたり、仏像の仮装をしたりと、楽しみながら鑑賞できることを目指した。

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
8月2日	鑑真和上展 ファミリー鑑賞会 S P	当館普及スタッフ	講座室、展示室、 レストラン	31人
8月3日	鑑真和上展 ぴったんこガンジン	当館普及スタッフ	講座室、展示室	7人
8月9日、 16日	鑑真和上展 ファミリー鑑賞会	当館普及スタッフ	講座室、展示室	54人

■講演会シリーズ 「風景」を考える

当館の作品収集方針の一つが「風景」であることから、「風景」をテーマとした講座を毎年開催している。本年は、「風景ルル」展にあわせて、美術家たちに公開座談会をお願いした。

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
11月8日	現代アートの世界—「風景ルル」展と「風景の中のフウケイ」展<アートプロジェクトSHIZUOKA2008出展作家による公開座談会>	「風景ルル」展、「風景の中のフウケイ」展出品作家	エントランスホール	70人

■フロア・レクチャー 展示室

展示室で展覧会の見どころや代表作品について解説するもの。申込不要。

開催日	講座名	講師	参加者数
4月26日	「シャガール」展	小針由紀隆（当館学芸部長）	50人
8月3日	「富士山の絵画」展	飯田 真（当館学芸課長）	30人
9月28日、10月4日、 10月25日	「十二の旅」展	南 美幸（当館主任学芸員）	59人
11月3日	「風景ルルル」展 出品作家によるギャラリートーク	「風景ルルル」展出品作家	85人
11月29日、30日	「風景ルルル」展 アートとお茶で感じる静岡の風景	川谷承子（当館学芸員）	65人
12月20日	収蔵品「リゾナンス」展	堀切正人（当館主任学芸員） 森 充代（当館学芸員）	21人
2月22日	収蔵品「余白の美」展	川谷承子（当館学芸員）	20人
3月8日、22日	「朝鮮王朝の絵画と日本」展	福士雄也（当館学芸員）	40人

■技法セミナー

作家や技術者を招いて、制作技法についての講演や実演をいただくもの。今年度は「風景ルルル」展関連イベントとして、出展作家のブライアン・アルフレッド氏に講演、実演いただき、その切り紙を用いた独特の技法を紹介いただいた。

開催日	講座名	講師	参加者
11月9日	「風景ルルル」展 自作について語る	ブライアン・アルフレッド氏(出展作家)	40人

■日本画をじかに見る

当館所蔵の日本画作品を、ケースに入れず、直接鑑賞していただくもの。要申込。

開催日	講座名	講師	参加者
12月14日	高校生ギャラリートーカー研修会 〈集う・見る〉	当館普及スタッフ	7人
3月20日	特別企画 '09春 日本画をじかに見る	当館日本画担当学芸員	49人

■移動美術展のギャラリートーク

移動美術展会場にて作品を解説するもの。申込不要。

開催日	内 容	講師	参加者
11月8日	富士宮東高校 移動美術展	富士宮東高校 生徒2名 堀切正人（当館主任学芸員）	73人
11月26日	気賀高校 移動美術展	堀切正人（当館主任学芸員）	46人

■出張美術講座

美術館職員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業を行ったり、ロダン体操の指導を行うなどした。また、中学生文化芸術鑑賞推進事業（静岡県主催）の事前学習のため、学芸員が中学校に赴き、美術講座を実施。年間30回、3,211人。

対外活動

館職員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

<講演会>

- 飯田 真：「文人画鑑賞入門」【島田市博物館】
3月1日
- 堀切 正人：「焼津の画家 石田徹也の作品を語る」
【焼津公民館】4月25日
「彫刻鑑賞講座」【香川県立ミュージアム】
5月3日
「ギャラリーアートin Fujinomiya」
【富士宮市役所】12月26日
武蔵野美術大学特別講師【武蔵野美術大学】
10月3日
「ロダンとダンス」シンポジウム講演【県
芸術祭／静岡県立美術館】10月21日

<講座等>

- 小針由紀隆：静岡大学新入生セミナー【県立美術館】
6月1日
県立美術館・県立大学連携授業「ヴェネ
ツィア派絵画の魅力について」【県立美
術館】7月2日
常葉学園教職員夏季研修会【県立美術
館】8月2日
西洋美術史授業【静岡文化芸術大学】
12月13日
こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業・出
張美術講座（以下、文化芸術鑑賞・出張
美術講座）
【浜松市立都田中学校】1月22日
- 飯田 真：文化財ボランティア入門講座【NPO文化
財を守る会／県立美術館】10月19日
事例発表「静岡県博物館協会における災
害対策への取組み」【博物館フォーラム
「文化財保護の現在と未来－静岡県内の
取り組みから」／静岡大学生涯学習教育
研究センター・あざれあ】
文化芸術鑑賞・出張美術講座
【静岡市立観山中学校】1月19日
【焼津市立小川中学校】1月23日
- 南 美幸：文化芸術鑑賞・出張美術講座
【富士市立元吉原中学校】1月16日
【藤枝市立青島中学校】1月19日
- 岡崎 隆司：文化芸術鑑賞・出張美術講座

- 【富士市立吉原第三中学校】1月13日
【牧之原市立牧之原中学校】1月15日
- 堀切 正人：「静岡県美術工芸教育研究会研修」
【静岡県立美術館】6月2日
「磐田袋井森地区美術研修会」
【袋井中央公民館】6月13日
「静岡市図画工作・美術科夏季研修会」
【静岡県立美術館】8月7日
文化芸術鑑賞・出張美術講座
【袋井市立浅羽中学校】1月9日
【浜松市立神久呂中学校】1月16日
- 鈴木 雅道：第54回教育研究発表会授業研究協力【静
岡大学教育学部附属島田中学校】
11月6日
平成20年度 造形を語る会・講評
県中部地区図工・美術教諭有志11名
【当館実技室】11月24日
静岡文化芸術大学大学院生懇談（テー
マ：美術館における鑑賞教育）【当館修
復室】12月18日
文化芸術鑑賞・出張美術講座
【浜松市立水窪中学校】1月13日
【下田市立下田中学校】1月22日
- 新田 建史：「ピラネージ版画展2008－未知なる都市
の彼方へ－」【企画協力】町田市立国際
版画美術館、10月4日～11月24日
文化芸術鑑賞・出張美術講座
【浜松市立富塚中学校】1月9日
【掛川市立城東中学校】1月13日
- 川谷 承子：文化芸術鑑賞・出張美術講座
【日大三島中学校】1月24日
【袋井市立周南中学校】1月29日
- 村上 敬：文化芸術鑑賞・出張美術講座
【浜松市立南部中学校】1月19日
【掛川市立桜が丘中学校】1月22日
- 森 充代：文化財ボランティア入門講座【NPO文化
財を守る会／県立美術館】10月19日
静岡文化芸術大学大学院生懇談（テー
マ：美術館における鑑賞教育）【当館修
復室】12月18日
事例発表「県立美術館ボランティアによ
る地域連携事業の展開」【静岡県博物館
協会講習会「博物館における「連携」
／掛川市二の丸美術館】2月26日
文化芸術鑑賞・出張美術講座

【浜松市立積志中学校】 1月19日

【浜松市立興誠中学校】 1月26日

福士雄也：文化芸術鑑賞・出張美術講座

【富士市立田子浦中学校】 1月9日

【浜松市立丸塚中学校】 1月14日

<美術館友の会事業への協力>

(講座講師)

鈴木雅道：「実技講座「民族衣装の女性を楽しく描きましょう」 1月31日・2月1日

飯田真・森充代・福士雄也：

「講座：日本画をじかに見る」 3月20日
午前

<静岡県博物館協会>

当館は同協会の事務局として、協会加盟館園の協力のもとに以下の事業を行った。

1 役員会・総会の開催 5月20日(県立美術館)

2 地域セミナーの開催

(1) 焼津市歴史民俗資料館 講演会

日時：11月15日 午後2時～午後3時40分

会場：焼津市文化センター

主催：静岡県博物館協会、焼津市歴史民俗資料館友の会、焼津市歴史民俗資料館

講師：小和田哲男氏(静岡大学教授)

演題：「戦国武将と禅像－名将に名僧あり」

参加者数：105名

(2) 新居関所史料館 関所資料館企画展事業 宿場移転300年記念講演会

日時：11月15日 午前10時～午後12時

会場：新居町町民センター

主催：新居町教育委員会(関所資料館)、静岡県博物館協会

講師：渡辺和敏氏(愛知大学経済学部教授)

演題：「関所・総町移転と本坂通について」

参加者数：45名

(3) 富士山ネットワーク 第7回夏休み発見レポートコンテスト受賞作品巡回展示

日時：10月～平成21年3月

会場：富士美術館、奇石博物館、富士市立博物館、富士サファリパーク、裾野市立富士山資料館、富士山御胎内清宏園、富士山こどもの国

主催：富士山ネットワーク・静岡県博物館協会(申請館：富士市立博物館)

3 研修会・講習会の実施

(1) 災害対策講習会「文化財の防災と被災文化財の応急処置」 日時：11月18日(火) 午後1時～4時

会場：沼津市立図書館 視聴覚ホール

主催：静岡県博物館協会、

共催：沼津市明治史料館沼津市教育委員会

参加者数：36名

内容：

講演1「博物館等防災士」の構想について

講師：井野盛夫氏(富士常葉大学環境防災学部)

講演2「緊急時の紙資料の取り扱いとNPO文化財を守る会の活動」

講師：友田千恵氏(文化財を守る会)

(2) 新公益法人・指定管理者制度の導入について

日時：平成21年1月27日(火) 午後1時～5時

会場：静岡県立大学 経営情報学部棟1階 4109教室

参加者数：34名

内容：

意見交換会1「新公益法人制度」

(新公益法人制度研究会)：荻原美広氏(奇石博物館副館長)、鈴木誠氏(松崎町振興公社事務局長)、高見輝宏氏(MOA美術館総務課長)、平野弘氏(平野美術館副理事長)、山本良晴氏(佐野美術館管理グループ長)、米田寛氏(駿府博物館前館長)、西野和豊氏(フェルケール博物館館長)、平井隆而氏(同事務局長)

意見交換会2「指定管理者制度」

渡井義彦氏(富士市立博物館館長)、井上卓哉氏(富士市立博物館学芸員)、藤本章夫氏(島田市博物館館長)、坂巻隆一氏(島田市博物館学芸員)、八木勝行氏(藤枝市郷土博物館・文学館館長)、椿原靖弘氏(藤枝市教育委員会)

(3) 博物館における「連携」

日時：平成21年2月26日(木)午後1時30分～4時30分

会場：掛川市立中央図書館

参加者数：26名

内容：

事例発表1「掛川二の丸美術館と地域の文化団体との連携」

講師：井村広巳氏(掛川二の丸美術館学芸員)

事例発表2「県立美術館ボランティアによる地域連携事業の展開」

講師：森充代氏(静岡県立美術館学芸員)

グループ意見交換

見学 掛川二の丸美術館「平野美術館所蔵 近代日本画名品展」

4 講演会等の共催・後援

(共催)「第6回災害から文化財を守る」

日時：9月27日(土)

主催：静岡県教育委員会、静岡県文化財保存協会、
伊豆屋伝八文化振興財団

(後援)「歴史を巡る文化財ウォーク」

日時：12月7日(日) 主催：NPO文化財を守る会

「社会人のための準デジタルアーキビスト資格所
得講座」

日時：11月15日(土)、16日(日)

主催：静岡市女性会館(NPO男女共同参画フォーラム)
「静岡大学 博物館フォーラム 文化財保護の
現在と未来」

日時：平成21年3月14日(土)

主催：静岡大学生涯学習教育研究センター

5 静岡県博物館協会会報(No.61・No.62)の発行

6 静岡県博物館協会研究紀要 第32号の刊行

7 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営

8 東海地区博物館連絡協議会総会への参加

日時：7月25日(金) 場所：徳川美術館

9 広報及び情報交換

随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。

<その他>

小針由紀隆：静岡アートギャラリー企画協力委員

第44回静岡県芸術祭審査委員

国立西洋美術館美術品選考委員

静岡市新美術館準備検討委員

第24回国民文化祭美術展企画委員

飯田 真：豊橋市美術博物館資料収集委員

静岡市文化財保護審議委員

堀切 正人：CCC展覧会企画公募(静岡市クリエー

ター支援センター)選考委員

美術館ボランティア・広報サポーター

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985年から募集と研修を始め、86年4月の開館と同時に350人で活動を開始した。以来、日本の公立美術館としては最大規模のボランティアとして、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を続けている。

今期は、昨年度正式に発足した運営会を中心として、日常活動班の班長会、グループ活動の代表者会と協力しながらボランティアとしての活動方針を定めるなど、自主的な取り組みを行った。これら近年の様々な改革、またボランティア会員数の減少を鑑みるに、新たなボランティア募集の時期を検討する段階に入ったと考えられる。次年度以降の課題としたい。

■活動人数の推移（年度当初）

昭和61年度	350名
昭和62年度	307名
昭和63年度	260名
平成元年度	317名（新規参加者90名）
平成2年度	263名
平成3年度	240名
平成4年度	223名
平成5年度	347名（新規参加者140名）
平成6年度	331名
平成7年度	299名
平成8年度	282名
平成9年度	273名
平成10年度	354名（新規参加者94名）
平成11年度	316名
平成12年度	297名
平成13年度	265名
平成14年度	331名（10月より新規参加者95名）
平成15年度	328名
平成16年度	303名
平成17年度	285名
平成18年度	278名
平成19年度	241名
平成20年度	227名

■活動内容と役割

日常活動とグループ活動の2種があり、そのいずれかまたは両方に登録して活動する。

各々の詳細は下に記すが、このほか鑑賞研修も重要な活動と位置づけ、収蔵品展は随時、企画展は各展数回の鑑賞研修の機会を設けている。また、企画展開幕時には「ボランティア内覧会」を実施し、いち早く展

覧会内容の把握に努め、対外的な広報活動に役立てている。

【日常活動班】

火曜班から日曜班までの6班編成により、月2回または1回、既定の活動日に来館して下記の活動を行った。また、班相互の連絡調整のために「班長会」を開催し、今後の日常活動のあり方や自主運営について討議した。

- ・インフォメーションカウンターでの案内
- ・図書閲覧室の運営・公開端末利用の受付
- ・来館者アンケート調査
- ・障害のある方への補助
- ・団体観覧者に対する資料配布
- ・他館の展覧会ポスターの館内での掲示、管理
- ・新聞記事の切り抜きや整理など、美術館活動の基本資料の整備
- ・その他、美術館の要請に応じて美術館活動を助けること

【グループ活動】

下記10グループが活動を行った。各グループの連絡調整の場として「グループ代表者会」を随時開催し、ボランティア改革についての意見交換等を行った。

- (1) アートセンターA
閲覧室改善と運営
- (2) アートセンターB
新聞資料・はがき整理
- (3) ギャラリートーク
収蔵品展および企画展の来館者への作品解説
- (4) 草薙ツアー
草薙ツアーの計画・実施、彫刻プロムナード茶の世話、お茶会の企画・実施
- (5) 講演会運営
講演会事業の広報、運営補助、企画への参画
- (6) 広報支援
美術館の広報活動支援
- (7) 実技室
実技室における各種イベントの運営補助
- (8) タッチ・ツアー・ガイド
タッチツアープログラムの案内係
- (9) パソコン隊
パソコン入力による美術館のデータ整備支援
- (10) 旅行研修
自主的な研修旅行の企画、実施

■年間活動記録抄

- 4月7日 運営会（第1回）
- 4月11日 「シャガール」内覧会
- 4月28日 班長会（第1回）
- 5月12日 運営会（第2回）
- 7月14日 「国宝 鑑真和上展」内覧会
- 7月22日 グループ代表者会（第1回）
- 7月28日 班長会（第2回）
- 8月11日 運営会（第3回）
- 9月16日 「十二の旅」内覧会
- 9月22日 班長会（第3回）
- 10月20日 運営会（第4回）
- 11月5日 「風景ルルル」内覧会
- 11月25日 班長会（第4回）
- 12月8日 運営会（第5回）
- 1月26日 運営会（第6回）、班長会（第5回）、グループ代表者会（第2回）
- 2月16日 「朝鮮王朝の絵画と日本」内覧会、運営会（第7回）
- 3月7日 運営会（第8回）
- 3月16日 総会

■広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度より「地域サポーター」と改称した。「美術館と展覧会の広報」の分野を担う、美術館に通って来ないボランティア活動として定着を見せており、平成20年度当初、登録人数は88名。

地域サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター・チラシおよび当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

地域サポーターは、当館ボランティア向けにおこなっている展覧会内覧会に参加できることとしている。広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくためである。また、実際の活動状況を把握するため、年に一度「活動アンケート」を義務付けている。

1) 「地域サポーター」に登録すると

- ・展覧会ポスターやチラシ、イベント情報が随時送られてくる
- ・展覧会のボランティア・プレビューに参加できる

地域サポーター証の発行を受ける

2) 「地域サポーター」の義務

- ・展覧会やイベントの情報を地域や職場に広める
- ・効果的なポスター掲示場所等の情報を美術館に寄せる
- ・年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する

平成20年度 友の会活動

1 諸会議

(1) 理事会

平成20年5月24日(土) 静岡県立美術館 会議室
・役員改選、新任、退任について
・平成19年度事業報告、決算報告
・平成20年度事業計画、予算案

(2) 評議員会

平成20年5月24日(土) 静岡県立美術館 講座室
・役員改選、新任、退任について
・平成19年度事業報告、決算報告
・平成20年度事業計画、予算案

(3) 臨時理事会

平成20年11月3日(月) 静岡県立美術館 学芸課内
修復室
美術館本館工事休館に伴う友の会の対応について

(4) 事業委員会

静岡県立美術館 会議室 11回開催

(5) 会報委員会

静岡県立美術館 会議室 26回開催

2 実技講座

(1) 日本画実技講座「光琳屏風の一部模写」

平成20年8月29日(金)～8月31日(日)
静岡県立美術館 実技室
講師 日本画家 竹内雅明氏
参加人数 21名

(2) 実技講座「民族衣装の女性を楽しく描きましょう」

平成21年1月31日(土)・2月1日(日)
静岡県立美術館 実技室
講師 鈴木雅道氏(県立美術館学芸課主任)
参加人数 30名

3 講演会等の開催

(1) 「日本画をじかに見る」

平成21年3月20日(金)
講師 飯田真氏、石上充代氏、福士雄也氏(県立美術館学芸員)
参加人数 26名

4 親睦旅行

(1) 横須賀美術館・神奈川県近美葉山館 日帰り旅行

平成20年5月10日(土)
参加人数 24名

(2) 奈良法隆寺 金堂展と奈良散策 一泊旅行

平成20年6月17日(火)・18日(水)
参加人数 25名

(3) 美濃焼の里と虎渓山永保寺へ 日帰りバス旅行

平成20年11月29日(土)
飯田真氏(美術館学芸課長)同行
参加人数 44名(内 非会員4名)

5 美術館主催の講座等の後援

(1) 美術館学校連携普及委託事業

・粘土ワークショップのコーディネーター1名・助手2名の雇用と賃金支払事務等
・平成20年4月～平成21年3月 110回開催

6 情報資料の作成と提供

(1) 友の会だより「プロムナード」発行(各1,000部)

・第66号(7月15日発行)
アトリエ訪問 洋画家 村上征生氏
・第67号(12月15日発行)
アトリエ訪問 画家 司 修氏
・第68号(3月15日発行)
アトリエ訪問 画家 野島芳史氏

(2) 情報の提供

・美術館ニュース「アマリリス」郵送(年4回)
・各種催事の情報提供
・館内掲示板に「友の会からのお知らせ」を提示(随時)

7 その他の事業

(1) 会員証の発行

(2) 会員勧誘活動

4月・5月・7月 延べ日数 9日間 実施
新規入会会員 一般:49 特別:6
シニア:19 (計74名)

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年5月25日

改正 平成13年6月16日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)という。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館内に置く。

(目的)

第3条 本会は、美術を愛好する人たちの集まりであり、静岡県立美術館の活動を後援することにより、本県の芸術文化の普及及び振興を図るとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深めることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 講演会・講座・コンサート・映画会等の開催及び後援
- (2) 会報の発行
- (3) 鑑賞会及び研修旅行の開催
- (4) 出版事業
- (5) 静岡県立美術館が行う事業への協力・後援
- (6) その他必要な事業

(会員の種類及び特典)

第5条 本会の会員は、一般会員、シニア会員、特別会員及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、一般会員、シニア会員、特別会員のいずれかを選択する。
- (2) 会員資格の有効期限内における会員の種類の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第6条 会員とは本会の主旨に賛同し、所定の入会申込みの手続きを行い、会費を納めた者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年とする。ただし、会員から退会の申し出がない限り、さらに1年延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第7条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は理由の如何を問わず、返還しない。

2 見学、実習などの参加者は、別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第8条 会員は、住所、氏名、電話番号、口座番号等の届出事項に変更があった場合は、直ちに本会に報告し、変更手続きを行う。

2 前項の報告がないために生じた会員の不利益又は損害については、本会は一切の責任を負わない。

(会員証)

第9条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

- 2 会員証には、クレジット機能はない。
- 3 会員証を譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第10条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、直ちに本会に届け出る。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第11条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項により退会する場合は、会員有効期限の2か月前までに、本会に申し出を行う。

(組織)

第12条 本会に代議員会と理事会を置く。

(役員)

第13条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長 若干名
- (3) 代議員 30名以内
- (4) 理事 15名以内
- (5) 監事 2名

2 代議員及び理事は、会員の中から代議員会において選任する。

3 監事は、代議員会で選任する。

4 会長は、代議員の互選とし、副会長及び事務局長は代議員の同意を得て、会長が任命する。

(役員の仕事)

第14条 役員の仕事は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、会長があらかじめ指定した副会長が、その職務を代理する。
- (3) 代議員は、付議された事項の審議、決定を行う。
- (4) 理事は、会の運営を行う。

- (5) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。
(顧問)
第15条 本会に顧問を置く。
2 顧問は、静岡県立美術館長をもって充てる。
(役員任期)
第16条 役員任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。
(会議)
第17条 本会の会議は、代議員会と理事会とし、会長、副会長及び理事並びに代議員の出席により開催する。ただし、特別の事情がある場合には、代理者が出席することができる。
2 代議員会は、すべての役員で構成され、毎年1回会長が召集し、次の事項を審議、決定する。
(1) 予算及び決算
(2) 事業計画及び事業報告
(3) 役員を選出
(4) 会則の改正
3 理事会は、会長、副会長及び理事で構成され、次の事項を審議する。
(1) 代議員会に付議する事項
(2) その他会長が必要と認める事項
(議決)
第18条 代議員会の議事は、出席した役員（代理者も含む）の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長が決する。

- (専決処分)
第19条 会長は、会議を召集することが困難と認めるときは、第17条第2項及び第3項に掲げる事項について、これを専決処分することができる。
2 前項の規定により専決処分したときは、会長はこれを次の会議において報告しなければならない。
(専門委員会)
第20条 本会に事業計画の策定や具体的な企画等の検討を目的とした事業委員会と会報委員会を置く。
(事務局)
第21条 本会の事務を処理するために、事務局を置く。
2 事務局に事務局長を置くことができる。
3 会長は、代議員の同意を得て、事務局長を理事とすることができる。
4 事務局に事務職員を置く。
(財務)
第22条 本会の経費は、会費その他の収入をもって充てる。
2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。
(補則)
第23条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関し必要な事項は、会長が定める。
附 則
この会則は、平成14年4月1日から施行する。

別表1 (第5条第2項関係) 会員の特典

特典の種類	会員の種類		
	一般会員	シニア会員	特別会員
①県立美術館主催の企画展招待券5枚	○		○
②会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○		○ (同伴4名まで)
③会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○		○ (同伴4名まで)
④友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリリス」(年4回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○
⑤研修旅行(美術館めぐり)、各種講座等友の会主催の事業に参加可能	○	○	○ (同伴4名まで)
⑥会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」の飲食料金が会員本人のみ1割引	○	○	○
⑦会員証提示により、県立美術館内のブックショップの利用補助	○	○	○
⑧県立美術館主催の企画展オープニングセレモニー御招待			○ (同伴4名まで)

(注)○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第7条関係) 年会費

会員区分	年会費	備考
一般会員	(1名) 5,000円	
シニア会員	(1名) 2,000円	70歳以上で、選択した人
特別会員	(1口) 10,000円	
賛助会員	申し出のあった額	

広報活動（ホームページ）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、マスコミなどを通じ、広く館活動の広報を行っているが、近年では類似施設の増加、広報手段の多様化に伴い、入館者増加のために新たな広報展開が必要になってきている。

ここでは、紙媒体を中心にした広報活動とともに、新たな広報メディアとして注目されるホームページの運営について記載する。

< 広報活動 >

- ・ 展覧会等のイベント情報のマスコミへの資料提供
- ・ ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ・ 学校に対する学校関係イベント情報の提供
- ・ 県広報課との連携（県民だより、県政番組など）
- ・ ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hi、FMしみず）
- ・ 広報サポーターへの情報提供
（展覧会ごとに、ポスター・チラシを送付、口コミでの広報を依頼）
- ・ 展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・ 広告掲載・テレビスポット放映、特集紙面、番組への協力など

< ホームページ >

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

静岡県立美術館ホームページは、平成8年度末に開設され、今年度で10年目を迎えた。年度別のアクセス概数は以下のとおりである。

平成8年度末～9年度（1997）	6000		
平成10年度（1998）	12000	累計	18000
平成11年度（1999）	21000	累計	39000
平成12年度（2000）	40000	累計	79000
平成13年度（2001）	70200	累計	149200
平成14年度（2002）	87300	累計	236500
平成15年度（2003）	85000	累計	321500
平成16年度（2004）	98000	累計	419500
平成17年度（2005）	103500	累計	523100
平成18年度（2006）	155400	累計	678500
平成19年度（2007）	164500	累計	843000
平成20年度（2008）	169780	累計	1012780

アクセス数はインターネットの普及に伴い年々増加してきたが、本年度は169780（一日平均465）アクセスで、昨年度の件数と比較して5000件増え、過去最高を記録した。年々、インターネットを通じて情報を収集する人の数が飛躍的に伸びていることが改めて確認できる。

当館では、コンテンツの充実を図ることにより、魅力あるホームページを提供するよう運営に努めており、平成19年度にサイトの構成および全体のレイアウトを大幅にリニューアルしたが、平成20年度には加えて、ロダン館ページをリニューアルした。建物の内部空間や作品の画像をふんだんに盛り込みながら、ロダンと展示作品をわかりやすく、くわしく紹介している。またロダン館での普及イベントの案内や、ロダン体操を動画で紹介するコーナーも設けている。そのほか、来館者からの投稿画像を紹介するコーナーを設けた。

また各カテゴリーの内容も、カレンダー欄や、休館日情報などをはじめとして、重複するものを削り、足りないものを補うなどして整理した。

以前より行っているアンケートについては以下のとおり継続実施した。

- ・ ホームページアンケート
ホームページ改善の資料とするため、WEB上でのアンケートを実施、聴取内容は以下のとおりでメールで回答できる形にした。
1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか
 2. 当ホームページの情報内容について
 3. 当ホームページの更新頻度について
 4. 当ホームページのデザインについて
 5. 当ホームページの見やすさについて
 6. その他、当ホームページに対するご意見、ご要望

各項目、概ね満足度は高いが、字の大きさやデザインなど改善の参考になる意見も寄せられた。

なお、回答者の中からほぼ2ヶ月毎に抽選で5名の方に次回企画展の招待券をプレゼントした。

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4版8ページ、オールカラー

■第89（春）号 2008年4月1日発行

表紙 石田徹也《飛べなくなった人》／堀切 正人
 p. 1
 平成19年度 新収蔵品のご紹介／川谷 承子、村上 敬、
 小針 由紀隆 pp. 2, 3
 「シャガール 色彩の詩人」展 終生、抱き続けた故郷
 ヴィテブスクへの想い／小針 由紀隆 p. 4
 ただいま準備中！ 唐招提寺金堂平成大修理記念「国
 宝 鑑真和上展」／森充代 p. 5
 ただいま準備中！ 「十二の旅」展／南 美幸 p. 5
 研究ノート 若沖の手紙／福士 雄也 pp. 6, 7
 本の窓 『Infans』（インファンス）／堀切 正人 p. 7
 美術館問はず語り 「桜の頃は、さらなり」／中嶋 浩
 美 p. 8

■第90（夏）号 2008年7月1日発行

表紙 ジャン＝ヴィクトル・ベルタン《ディアナと水
 浴するニンフのいる古典的風景》《ナルキッソスのい
 る古典的風景》／小針 由紀隆 p. 1
 美術館からのお知らせ／中嶋 浩美 p. 2
 実技室イベントの紹介／鈴木 雅道 p. 3
 唐招提寺金堂平成大修理記念 国宝 鑑真和上展／森 充
 代 p. 4
 「十二の旅 感性と経験のイギリス美術」展／南 美幸
 p. 5
 研究ノート 「博物館実習について」／村上 敬 pp. 6, 7
 本の窓 辻邦生「春の戴冠」辻邦生全集9・10／南 美幸 p. 7
 美術館問はず語り 「朝鮮王朝の絵画と日本」展への
 招待／福士 雄也 p. 8

■第91（秋）号 2008年10月1日発行

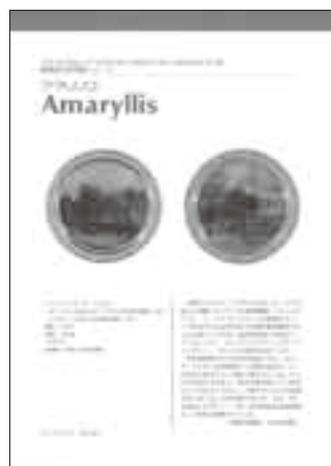
表紙 栗原忠二《セント・ポール》／村上 敬 p. 1
 「国宝 鑑真和上展」夏休み子どもワークショップ／
 鈴木 雅道 p. 2
 「十二の旅 感性と経験のイギリス美術」展／南 美
 幸 p. 3
 風景ルルル～わたしのソトガワとのかかわり方／川
 谷 承子 p. 4
 「朝鮮王朝の絵画と日本」展／福士 雄也 p. 5
 「下村観山・横山大観《日・月蓬萊山図》— 主題と朦
 朧体との関わりについて」／森 充代 pp. 6, 7
 本の窓 「アーティスト症候群」 大野佐紀子著／新
 田 建史 p. 7
 美術館問はず語り 画家とその妻 - 「宮芳平自伝」
 （未刊行）より／堀切 正人 p. 8

■第92（冬）号 2009年1月1日発行

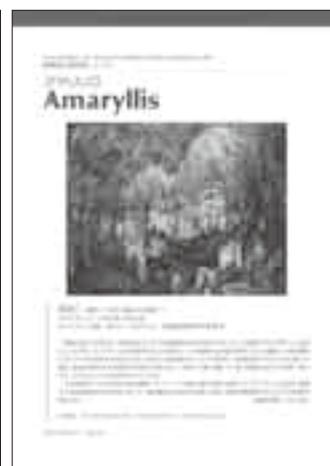
表紙 クロード・ロラン《笛を吹く人物のいる牧歌的
 風景》／新田 建史 p. 1
 「朝鮮王朝の絵画と日本」展まで、いよいよあと1ヶ
 月！／福士 雄也 pp. 2, 3
 移動美術展報告／堀切 正人 p. 4
 よみがえる黄金文明展－ブルガリアに眠る古代トラキ
 アの秘宝－／新田 建史 p. 5
 研究ノート 1825-1828年のコロニーオレヴァーノ風
 景をめぐる一つのメモ／小針 由紀隆 pp. 6, 7
 本の窓 『壁画洞窟の音』／新田 建史 p. 7
 美術館問はず語り お茶がつなぐもの／森 充代 p. 8



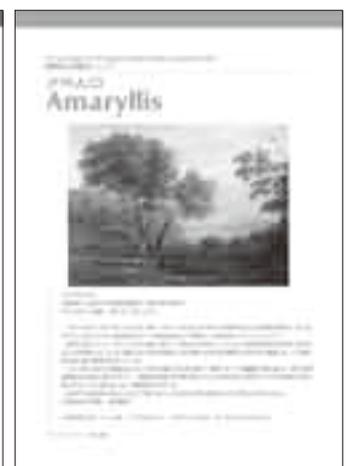
第89(春)号



第90(夏)号



第91(秋)号



第92(冬)号

新たな広報チャンネルの開拓

県内外にロダン館の存在と当館の魅力を広く発信するため、県立美術館の新しいロゴを作成し、美術館職員一人一人が広報マンとしての自覚をもち、名刺交換の際に緑に囲まれた美術館とロダン館を表した新しいロゴの説明をして広報活動している。

また、平成21年6月に開港する富士山静岡空港内観光情報エリア等に、アジアからの観光客に向けて、ロダン館の存在と当館の魅力をPRするために、当館収蔵品レプリカを設置するべく準備に取り組んだ結果、平成21年度早々にレプリカが設置されることになった。

なお、当館の魅力をアジアからの観光客にアピールし、観光ルート化に向けた試みとしては、「朝鮮王朝の絵画と日本」展で、密接な交流を持つ韓国の観光情報等をビデオブースで紹介した。

【館長公約 C】 戦略的な広報を展開し、情報発信に努めます。

【重点目標 3】 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。

ロダン館展示・イベント

■ロダン館展示・イベント

ロダン館普及事業として、ロダン館を会場に今年は2回のコンサートが行われ、およそ450名の方が美術館でのコンサートを楽しんだ。

1 EPOロダン館アコースティックライブ

日 時：11月3日（月）

演奏者：EPO

観客数：250名

2 とらわれのない日常

日 時：11月16日（日）

演奏者：黒田亜樹・野口千代光氏

観客数：200名

【館長公約 D】施設の改修を推進し、美術館のアメニティーを高めていきます。

【重点目標 1】館内施設を充実し、満足度を高めます。

施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数	
61	93,918	8,005	10,000			
62	95,635	9,911	10,000			
63	112,528	10,346	14,714			
元	98,806	12,474	11,937			
2	101,477	11,432	8,274			
3	91,342	13,755	8,545			
4	109,287	14,442	9,499			
5	95,903	10,927	9,308			
6	108,004	12,060	9,159			
7	73,254	10,717	7,015			
8	109,076	9,487	8,621			
9	87,436	10,615	6,486	4,257		
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132	
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154	
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235	
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361	
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306	
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345	
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299	
17	69,357	11,762	4,626	4,904	289	
18	81,657	10,700	5,087	8,891	499	
19	70,217	10,668	5,580	5,253	365	
20	75,238	11,804	5,143	6,189	319	
20 年 度 月 別 内 訳	4	6,854	730	278	358	34
	5	6,797	707	419	728	47
	6	0	0	0	324	0
	7	3,655	700	516	525	21
	8	10,616	1,350	1,183	1,622	52
	9	4,747	1,080	399	414	27
	10	10,015	772	340	644	25
	11	4,898	1,520	293	352	24
	12	1,477	1,110	190	196	20
	1	7,902	980	421	275	28
	2	5,506	460	470	223	16
	3	12,771	2,395	634	528	25
計	1,975,510	266,404	171,062	125,082	3,304	

県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	4/1(火)	4/6(日)	6	A	無	創'sグループ展	日野岡和匡	1,054
2	4/1(火)	4/6(日)	6	B	無	井出波龍記念拓技画展	現代拓技画清美会	1,055
3	4/8(火)	4/13(日)	6	A	無	荻生昌平水彩画展	荻生昌平	927
4	4/8(火)	4/13(日)	6	B	無	個展	イスマイルチョウドリ	928
5	4/15(火)	4/27(日)	12	AB	無	第35回二科会静岡県支部美術展	二科会静岡県支部	2,284
6	4/29(火)	5/5(月)	7	AB	無	第18回静岡県女流美術協会展	静岡県女流美術協会	1,996
7	5/7(水)	5/11(日)	5	AB	無	第45回静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	1,707
8	5/13(火)	5/25(日)	12	AB	無	野田好子回顧展	「野田好子回顧展」実行委員会・当館	3,700
9	7/12(土)	7/13(日)	2	AB	無	共栄デザイン展	岡本彩子	329
10	7/15(火)	7/27(日)	12	AB	無	第36回静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	2,838
11	7/29(火)	8/3(日)	6	AB	無	第73回静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,054
12	8/5(火)	8/10(日)	6	AB	無	毎日書道展第60回記念 毎日現代書巡回展静岡展	毎日新聞社・毎日書道会・ 巡回展静岡展実行委員会	1,421
13	8/12(火)	8/17(日)	6	AB	無	静岡県写真愛好者秀作展	沖田完治	1,817
14	8/19(火)	8/24(日)	6	A	無	第4回おもしろ額装展	静岡県アートフレームーズ協会	1,876
15	8/19(火)	8/24(日)	6	B	無	富士山写真展	富士山を愛し撮る会	1,362
16	8/26(火)	8/31(日)	6	A	無	能面&デジタルアート展	静岡能面研究会	2,084
17	8/26(火)	8/31(日)	6	B	無	庫流	三輪民庫	1,490
18	9/2(火)	9/7(日)	6	A	無	静岡形象派展	形象派美術協会静岡支部	574
19	9/2(火)	9/7(日)	6	B	無	パソコンアート協会作品展	パソコンアート協会	668
20	9/9(火)	9/15(月)	7	AB	無	第39回独立静岡県支部展	財団法人独立書人団静岡県支部	944
21	9/17(水)	9/21(日)	5	AB	無	第24回千世の会書展	千世の会	695
22	9/23(火)	9/28(日)	6	AB	無	徳川家康と静岡展	当館・静岡県立中央図書館国学院大学院友会静岡県中部支部	1,648
23	9/30(火)	10/5(日)	6	A	無	デザイン静岡グループ展	デザイン静岡	1,019
24	9/30(火)	10/5(日)	6	B	無	静岡県フレミッシュ織教室工芸展	静岡県フレミッシュ織教室	1,067
25	10/7(火)	10/13(月)	7	A	無	発掘された静岡の文化交流	当館・静岡県教育委員会	1,467
26	10/7(火)	10/13(月)	7	B	無	第5回子ども造形・デザイン・絵画教室展覧会	大森 恵	1,482
27	10/15(水)	10/19(日)	5	A	無	発掘された静岡の文化交流	MAC FLOWER	789
28	10/15(水)	10/19(日)	5	B	無	マックフラワー作品展	静岡新聞社	944
29	10/21(火)	10/26(日)	6	AB	無	第26回なつやすみ読書感想画コンクール	静岡県工芸家協会	3,087
30	10/28(火)	11/9(日)	12	AB	無	第34回静岡県工芸美術展	当館・静岡県教育委員会	2,443
31	11/11(火)	11/24(月)	13	AB	無	第56回静岡県高等学校美術・工芸展中部支部展	当館・静岡県教育委員会	2,833
32	12/9(火)	12/14(日)	6	A	無	フランス人による能面と書二人展	DELVART FRANCOIS	771
33	12/16(火)	12/21(日)	6	A	無	第49回新槐樹社静岡県支部展	新槐樹社静岡県支部	706
34	1/27(火)	2/8(日)	12	AB	有	第19回富嶽ビエンナーレ展	静岡新聞社・静岡放送	7,902
35	1/27(火)	2/8(日)	12	AB	無	第12回静岡県すこやか長寿祭美術展	財団法人しずおか健康長寿財団	1,847
36	2/18(水)	2/22(日)	5	AB	無	第21回静岡県特別支援学校高等部合同作品展	静岡県教育委員会	597
37	2/24(火)	3/1(日)	6	AB	無	第30回ジュニア県展	静岡新聞社・静岡放送	5,612
38	3/3(火)	3/8(日)	6	A	無	和紙ちぎり絵作品展	(株)全国教育産業協会	1,553
39	3/3(火)	3/8(日)	6	B	無	クレイ・ライフ09	クレイ・ライフ	1,254
40	3/10(火)	3/15(日)	6	A	無	静岡和紙ちぎり絵絵画研究会	静岡和紙ちぎり絵研究会	1,781
41	3/10(火)	3/15(日)	6	B	無	戸塚ししゅう新井隆子教室作品展	戸塚ししゅう新井教室	1,742
42	3/17(火)	3/29(日)	12	AB	無	第29回山岳写真の会「白い峰」写真展	山岳写真の会「白い峰」静岡支部	3,581
43	3/31(火)	4/5(日)	6	AB	無	現代書作家展しずおか	現代書作家展しずおか運営委員会	310

来館者のアクセス満足度

20年度のアクセス環境の満足度に対するアンケート集計の結果は、公共交通機関を利用した方の満足度は76.4%、自家用車を利用した方の満足度は80.7%であった。過去4年間の状況を見ても、公共交通機関を利用された方の満足度は76%～82%、自家用車を利用された方の満足度は67%～81%の間で推移しており、来館者のうちの概ね2～3割の方が交通アクセスに満足していない、という結果になっている。

このことについての要因を考えると、まず自家用車の利用者については、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が400台と限られているために、週末などに来館者が集中してしまうと、駐車場が満車になり駐車できるまでに時間がかかってしまうという問題がある。このことがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。

公共交通機関の利用者については、最寄のJRの駅、草薙駅からの距離が1.5キロメートル程あり、駅から歩いて来館する場合にはなだらかな坂道を上ることになるので、普段歩き慣れていない方にとってはかなりの運動量に感じるはずである。このことがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。

対策としては自家用車利用者については、駐車スペースをこれ以上増やすことは困難であるので、美術館、美術館園地、芝生公園、県立中央図書館の利用者以外の車を極力排除する方法を考えていかなければならない。具体的には機械によるゲート管理の方法などが考えられるが、費用がかかることもあり今後の課題である。20年度については、抜本的な対策とは言えないが、自家用車利用者の利便性を少しでも高めるため、敷地内道路の路面補修、南幹線の案内標識を見えにくくしている街路樹の剪定（市役所に依頼）を行った。

公共交通機関の利用者については、JR草薙駅からのバスの利用が、運賃100円、運行本数20分に1本、所要時間6分と費用、時間ともにリーズナブルであるので、このことをもっとPRする方法を考えていきたい。帰りは下り坂であり運動量も多くならないので、行きはバス、帰りは歩き、という利用のしかたもあるのではないと思われる。

平成20年度主要記事

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 4月1日 | 収蔵品展「新収蔵品展」(～4月27日) | 27日 | 徳川家康と静岡展講演会「家康公と駿府」
落合偉洲(久能山東照宮宮司) |
| 4月12日 | 企画展「シャガール展 色彩の詩人」開幕
(～5月25日) | 10月5日 | EPOロダン館アコースティックライブ
EPO(歌手・セラピスト)、笹子重治
(ギタリスト) |
| 20日 | シャガール展特別講演会「形成期の芸術
的環境ーキュビズム、オルフィスム」八
重樫春樹(美術史家) | 8日 | 県民ギャラリー「発掘された静岡の文化
交流」展 主催 静岡県教育委員会 |
| 26日 | シャガール展フロアレクチャー | 12日 | 十二の旅展特別講演会「イギリスの暮ら
しー絵になるイングリッシュガーデン」
吉谷桂子(英国園芸研究家・ガーデンデ
ザイナー) |
| 29日 | 収蔵品展「若冲から狩野派までー百花繚
乱の18世紀ー」(～5月25日) | 18日 | 十二の旅展特別講演会「イギリスのティー
ハウスやウォーキングを楽しむ、滞在型
旅のすすめ」小関由美(文筆家・英国ア
ンティーク研究家) |
| 5月11日 | シャガール展美術講座「シャガール芸術
とノスタルジア」小針由紀隆(当館学芸
部長) | 28日 | 十二の旅展フロアレクチャー(9月28日、
10月4日、25日)
収蔵品展「Resonance(リゾナンス)ー共
振する感覚」(～12月26日) |
| 18日 | 「シャガールのヴァイオリン」小林旬(静
岡音楽館AOI学芸員) | 11月3日 | 企画展「風景ルルルーわたしのソトガワ
とのかかわり方ー」展開幕(～12月21日)
風景ルルル展オープニングイベント「出
品作家によるギャラリートーク」 |
| 5月13日 | 共催展「野田好子回顧展」開幕(～5月25日) | 4日 | 移動美術展(～10日:県立富士宮東高等
学校) |
| 19日 | 第1回美術館研究活動評価委員会 | 7日 | 風景ルルル展オープンスタジオ「出品作
家ブライアン・アルフレッドのカラージュ
作品の公開制作」 |
| 6月2日 | 第2回美術館研究活動評価委員会 | 9日 | 風景ルルル展イベント「出品作家による
アーティスト・トーク」ブライアン・
アルフレッド(9日)、小西真奈(22日)、
柳澤顕(23日) |
| 3日 | 展示室整備などのため休館(～7月11日) | 15日 | 風景ルルル展スペシャルトーク「静岡県
教職員互助組合高校支部 教育講演会」
照屋勇賢(出品作家)×森本千絵(アー
トディレクター):県立中央図書館 |
| 7月12日 | 企画展「国宝鑑真和上展」開幕(～8月31日) | 16日 | ロダン館ミュージアムコンサート「とら
われのない日常informal usualness」(黒
田亜樹、野口千代光 ピアノとヴァイオ
リンコンサート) |
| | 収蔵品展「富士山の絵画」(～9月7日) | 24日 | 風景ルルル展イベント「鈴木理策ワーク
ショップ」(「谷田風景散策」撮影会:
24日、講評会:12月7日) |
| 21日 | 国宝鑑真和上展特別記念講演「共結縁」
(ともに未来を結ばん)松浦俊海(律宗
総本山 唐招提寺長老) | 25日 | 移動美術展(～27日:県立気賀高等学校) |
| | 国宝鑑真和上展特別記念講演「鑑真和上
と唐招提寺の仏像」鷲塚泰光(前奈良国
立博物館館長) | 29日 | 風景ルルル展イベント「アートとお茶で |
| 26日 | 国宝鑑真和上展連続講演会「鑑真和上の
教えー戒律について」石田太一(律宗総
本山 唐招提寺執事) | | |
| 27日 | 夏休み親子鑑賞講座「ロダン彫刻をまね
しよう」 | | |
| 8月2日 | 国宝鑑真和上展連続講演会「仏像のひみ
つに近づく」山本勉(清泉女子大学教授) | | |
| 16日 | 国宝鑑真和上展連続講演会「蓮のイコノ
ロジー」宮治昭(当館館長、龍谷大学特
任教授) | | |
| 9月9日 | 収蔵品展「イギリスゆかりの日本洋画」
(～10月26日) | | |
| 12日 | 企画展「十二の旅 感性と経験のイギリ
ス美術」展(～10月26日) | | |
| 14日 | 版画入門(9月14日、15日) | | |
| 21日 | 十二の旅展特別講演会「イギリス周遊ー
自然に触発される旅」潮江宏三(京都市
立芸術大学学長) | | |
| 23日 | 共催展「徳川家康と静岡」展(～9月28日) | | |

	感じる静岡の風景」(協力 富士東製茶農業協同組合青年部、県立美術館ボランティア草薙ツアーグループ:29日、30日)	通月	創作週間(毎月原則第3週開室:通算94日)
12月13日	風景ルル展イベント「佐々木加奈子ワークショップ」(「風景の中のわたし in 旧マッケンジー邸」 展覧会見学・レクチャー:13日、撮影会・講評会:14日)		ロダン館デッサン会(毎月原則第3金・土曜日:通算31日)
1月2日	第19回富嶽ビエンナーレ展開幕(～25日)		粘土開放日(毎月原則第4日曜日:通算11日)
19日	中学生文化芸術鑑賞推進事業(～30日)		絵の具開放日(毎月原則第1日曜日:通算10日)
2月17日	企画展「朝鮮王朝の絵画と日本」開幕(～3月29日)		土曜工作室(毎月原則第4土曜日:通算12日)
21日	朝鮮王朝の絵画と日本展特別講演会「朝鮮王朝の絵画と室町絵画」橋本慎司(栃木県立美術館特別研究員)		色彩アトリエ(毎月原則第1土曜日:通算12日)
28日	朝鮮王朝の絵画と日本展イベント「ポジャギ教室」李京玉(イ・キョンオク):2月28日、3月21日		ギャラリートーク171回(企画展51回、収蔵品展45回)
3月1日	朝鮮王朝の絵画と日本展公開ワークショップ「朝鮮時代の絵画とその周辺ー時代背景への視点」:①「朝鮮時代の政治・文化と絵画」六反田豊(東京大学大学院人文社会系研究科准教授)②「風俗画に見る朝鮮時代の経済と社会」須川英徳(横浜国立大学教育人間科学部教授)③「朝鮮通信使の遺したもの」長森美信(天理大学国際文化学部専任講師)④「絵画に描かれた朝鮮時代の水辺風景」森平雅彦(九州大学大学院人文科学研究院准教授)		
7日	朝鮮王朝の絵画と日本展特別講演会「朝鮮王朝中期の絵画ー明宗の時代を中心に」板倉聖哲(東京大学東洋文化研究所准教授)		
14日	朝鮮王朝の絵画と日本展特別映像上映会「朝鮮通信使 駿府発・21世紀の使行録」		
15日	朝鮮王朝の絵画と日本展美術講座「朝鮮絵画と近世の日本絵画」福士雄也(当館学芸員)		
17日	収蔵品展「余白の美」(～3月29日)		

(企画展)

シャガール展

No	作品名	作品名(英)	材質・技法	制作年	寸法・cm	所蔵先
1 初期絵画 [1910年代]						
01-01	かごを持つ女(農婦)	An Old Woman with a Basket	油彩・グアッシュ、厚紙	1906-07	67.5×50.0	トレチャコフ美術館
01-02	肉屋(祖父)	The Butcher	グアッシュ、紙	1910	34.5×24.5	トレチャコフ美術館
01-03	楽士たち	Musicians	グアッシュ、紙	1911	18.5×18.7	トレチャコフ美術館
01-04	雨・習作	Study for "Rain"	グアッシュ・鉛筆、紙	1911	23.7×31.0	トレチャコフ美術館
01-05	家の前の自画像	Self-Portrait in Front of the House	油彩、厚紙(カンヴァスで裏打ち)	1914	49.5×37.5	個人蔵
01-06	時計	The Clock	油彩・グアッシュ・鉛筆、紙	1914	49.3×37.0	トレチャコフ美術館
01-07	ダヴィッド	David	油彩、紙(厚紙に貼付)	1914	50.0×37.5	個人蔵
01-08	マンドリンを弾くりザ	Lisa Playing a Mandolin	油彩、厚紙	1914	38.0×49.0	個人蔵
01-09	テーブルの祖母と妹	The Grand Mother and the Sister at the Table	油彩、厚紙(カンヴァスで裏打ち)	1914	43.0×50.0	個人蔵
01-10	長椅子に座る母	The Mother on the Sofa	油彩、厚紙(カンヴァスで裏打ち)	1914	37.0×48.7	個人蔵
01-11	理髪店	The Barbershop	油彩・グアッシュ・鉛筆、紙	1914	49.5×37.2	トレチャコフ美術館
01-12	リョズノの叔父の店	A House in Lyozno	油彩・グアッシュ・鉛筆、紙	1914	37.3×49.2	トレチャコフ美術館
01-13	負傷した兵士	The Wounded Soldier	墨、紙	1914	22.6×18.3	トレチャコフ美術館
01-14	老人と木の杖	An Old Man with Cane	水彩・インク・白色顔料、紙	1914	22.4×17.6	トレチャコフ美術館
01-15	放浪	Strollers	インク・白色顔料、紙	1914	22.3×17.2	トレチャコフ美術館
01-16	ヴィテブスクの街の上・下絵	Environs of Vitebsk (a study for a painting)	水彩・鉛筆、紙	1914	23.0×33.6	トレチャコフ美術館
01-17	街の上で	Over the City	油彩、カンヴァス	1914-18	139.0×197.0	トレチャコフ美術館
01-18	横顔のベラ	The Profile of Bella	油彩・グアッシュ、厚紙	1916	30.5×27.0	個人蔵
01-19	すずらん	Lilies of the Valley	油彩、厚紙	1916	42.0×32.8	トレチャコフ美術館
01-20	行進(家のそばで)	In Step	グアッシュ・鉛筆、紙	1916	20.2×18.0	トレチャコフ美術館
01-21	結婚式	Wedding	油彩、カンヴァス	1918	102.5×120.7	トレチャコフ美術館
01-22	逆さまの頭の男	A Man with the Reversed Head	墨・鉛筆、紙	1918	29.2×22.3	トレチャコフ美術館
01-23	サーカス	Circus	油彩、紙	1919	35.0×48.0	トレチャコフ美術館
01-24	宮殿に戦争を	War on Palaces	水彩・鉛筆、紙	1918-19	33.5×23.2	トレチャコフ美術館
2 ユダヤ劇場						
02-01	ユダヤ劇場への誘い	Introduction to the Jewish Theatre	テンペラ・グアッシュ・白色顔料、カンヴァス	1920	284.0×787.0	トレチャコフ美術館
02-02	音楽	Music	テンペラ・グアッシュ・白色顔料、カンヴァス	1920	213.0×104.0	トレチャコフ美術館
02-03	舞踊	Dance	テンペラ・グアッシュ・白色顔料、カンヴァス	1920	214.0×108.5	トレチャコフ美術館
02-04	演劇	Theatre	テンペラ・グアッシュ・白色顔料、カンヴァス	1920	212.6×107.2	トレチャコフ美術館
02-05	文学	Literature	テンペラ・グアッシュ・白色顔料、カンヴァス	1920	216.0×81.3	トレチャコフ美術館

No	作品名	作品名(英)	材質・技法	制作年	寸法・cm	所蔵先
02-06	婚礼の祝宴	Wedding Table	テンペラ・グアッシュ・ 白色顔料、カンヴァス	1920	64.0× 799.0	トレチャコ フ美術館
02-07	舞台上の愛	Love on the Stage	テンペラ・グアッシュ・ 白色顔料、カンヴァス	1920	283.0× 248.0	トレチャコ フ美術館
3 中期・晩期絵画 [1920～70年代]						
03-01	二つの顔を持つ花嫁	The Bride with the Double Face	油彩、カンヴァス	1927	99.0×72.0	個人蔵
03-02	青い顔の婚約者	The Blue Fiancee	油彩、カンヴァス	1932,1960	100.0× 82.0	個人蔵
03-03	ヴィテブスクの街の上の裸体	Nude above Vitebsk	油彩、カンヴァス	1933	87.0× 113.0	個人蔵
03-04	たそがれ時	Between Dog and Wolf	油彩、紙(カンヴァス で裏打ち)	1938,1943	100.0× 73.0	個人蔵
03-05	緑の瞳	The Green Eye	油彩、カンヴァス	1944	58.0×51.0	個人蔵
03-06	振り子時計の自画像	Self-Portrait in front of Wall Clock	油彩、カンヴァス	1947	86.0×70.5	個人蔵
03-07	青い翼の振り子時計	Wall Clock with a Blue Wing	油彩、紙(カンヴァス で裏打ち)	1949	92.0×79.0	個人蔵
03-08	ベルシー河岸	Quay of Bercy	油彩、カンヴァス	1953	65.0×95.0	個人蔵
03-09	ヴァヴァの肖像	Portrait of Vava	油彩、カンヴァス	1953-56	95.0×73.0	個人蔵
03-10	人類創造	The Creation of Man	油彩、カンヴァス	1956-58	55.0×33.0	ニース国立シャ ガール美術館
03-11	天国	Paradise	油彩、イゾレル(合板)	1961	45.5×58.9	ニース国立シャ ガール美術館
03-12	ヤコブと天使の闘い	Fight between Jacob and Angel	油彩、カンヴァス	1960-66	41.0×27.0	ニース国立シャ ガール美術館
03-13	ソロモンの雅歌I	The Song of Songs I	油彩、カンヴァス	1960	33.5×40.0	ニース国立シャ ガール美術館
03-14	ソロモンの雅歌III	The Song of Songs III	油彩、カンヴァス	1960	27.0×35.0	ニース国立シャ ガール美術館
03-15	ソロモンの雅歌IV	The Song of Songs IV	油彩、カンヴァス	1958	50.0×61.0	ニース国立シャ ガール美術館
03-16	ソロモンの雅歌V	The Song of Songs V	油彩、カンヴァス	1965-66	46.0×55.0	ニース国立シャ ガール美術館
03-17	赤いサーカス	Red Circus	油彩、カンヴァス	1956-60	130.0× 97.0	個人蔵
03-18	薄紫の裸体	The Mauve Nude	油彩、カンヴァス	1967	140.0× 148.0	個人蔵
03-19	サン＝ポールのアトリエ	The Studio at Saint-Paul	油彩、カンヴァス	1967	162.0× 105.0	個人蔵
03-20	サン＝ポールの上の恋人たち	Lovers above Saint-Paul	油彩、カンヴァス	1970-71	145.0× 130.0	個人蔵
03-21	画家	The Artist	グアッシュ、紙	1972	69.2×50.7	トレチャコ フ美術館
03-22	妻と一緒の自画像	Self-Portrait with My Wife	グアッシュ、紙	1973	62.1×43.8	トレチャコ フ美術館
03-23	放蕩息子	The Prodigal Son	油彩、カンヴァス	1975-76	162.0× 122.0	個人蔵
03-24	家族	Family	油彩、カンヴァス	1975-76	130.0× 97.0	個人蔵
03-25	「魔笛」の思い出	Memories of <The Magic Flute>	油彩、カンヴァス	1976	113.5× 194.8	個人蔵
4 版画集『わが人生』 My Life (1923刊行)						
04-01	1 父	The Father	エッチング・ドライポ イント、和紙	1922	27.7×21.5	個人蔵
04-02	2 母と息子	The Mother and the Son	エッチング・ドライポ イント、和紙	1922	27.7×21.5	個人蔵
04-03	3 祖父たち	The Grand Fathers	エッチング・ドライポ イント、和紙	1922	27.7×21.5	個人蔵

No	作品名	作品名(英)	材質・技法	制作年	寸法・cm	所蔵先
04-04	4 祖母	The Grand Mother	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	21.0×16.0	個人蔵
04-05	5 ヴィテブスクのポクロフスカヤ	Pokrowskaja at Vitebsk	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	18.0×21.0	個人蔵
04-06	6 誕生	The Birth	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	13.0×18.0	個人蔵
04-07	7 町の火事	The Fire in the Town	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	18.0×21.0	個人蔵
04-08	8 ベスコヴァティックの家	The House of Peskowitz	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	18.0×21.0	個人蔵
04-09	9 タルムード学者	The Scholar of the Talmud	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	24.5×18.8	個人蔵
04-10	10 食堂	The Restaurant	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	21.8×27.5	個人蔵
04-11	11 ヴィテブスクの家	The House in Vitebsk	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	19.0×25.0	個人蔵
04-12	12 祖父の家	The Grand Father's House	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	20.8×16.0	個人蔵
04-13	13 老いたユダヤ人	An Old Jew	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	11.7×9.7	個人蔵
04-14	14 門の前で	In Front of the Main Entrance	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	20.9×16.0	個人蔵
04-15	15 ベンチの上の恋人たち	Lovers on the Bench	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	13.0×17.8	個人蔵
04-16	16 婚礼	Wedding	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	14.5×16.2	個人蔵
04-17	17 自画像	Self-Portrait	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	27.5×21.5	個人蔵
04-18	18 イーゼルの前で	At the Easel	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	25.0×19.0	個人蔵
04-19	19 母の墓で	Above the Tomb of My Mother	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	11.5×8.7	個人蔵
04-20	20 父の墓	The Tomb of My Father	エッチング・ドライポイント、和紙	1922	11.0×14.8	個人蔵

5 版画集『死せる魂』 Dead Souls (1948刊行)

05-01	3 小さな町	The City NN	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	22.0×28.6	トレチャコフ美術館
05-02	5 ペトルーシカ	The Bey Petrushka	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	22.0×28.7	トレチャコフ美術館
05-03	6 御者セリファン	Selifan with Horses	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	22.0×28.6	トレチャコフ美術館
05-04	7 道中	Chichikov's Visit to Manilov	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	22.0×28.7	トレチャコフ美術館
05-05	8 マニーロフ	Manilov	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	28.6×22.5	トレチャコフ美術館
05-06	9 扉口でのマニーロフとチーコフ	Chichikov and Manilov	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	28.6×22.1	トレチャコフ美術館
05-07	17 放し飼いの庭	The Yard of Korobochka	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	22.5×29.3	トレチャコフ美術館
05-08	22 ノズドリョーフ	Nozdryov	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	28.8×23.2	トレチャコフ美術館
05-09	24 トランプ	Playing Cards (Nozdryov and Chichikov)	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	22.0×28.5	トレチャコフ美術館
05-10	25 警察署長現わる	Arrival of the Captain	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	28.8×22.2	トレチャコフ美術館
05-11	29 ミチャイ小父とミニヤイ小父	Uncle Mityai and Uncle Minyai	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	27.7×21.5	トレチャコフ美術館
05-12	32 ソバケーヴィッチ	Sobakevitch	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	27.8×21.1	トレチャコフ美術館
05-13	33 ソバケーヴィッチ夫人	Mrs. Sobakevitch	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	27.7×21.1	トレチャコフ美術館
05-14	35 支度のできた食卓	The Table	エッチング・ドライポイント・アクワティント、紙	1923-27	27.7×21.4	トレチャコフ美術館

No	作品名	作品名(英)	材質・技法	制作年	寸法・cm	所蔵先
05-15	37 チーチコフとソバケー ヴィッチは取引をする	After Lunch Chichikov and Sobakevitch	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	21.4×27.8	トレチャコ フ美術館
05-16	43 扉口のプリューシキン	Plushkin at the Gate	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	27.8×21.3	トレチャコ フ美術館
05-17	44 プリューシキンの部屋	Plushkin's Room	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	27.7×21.5	トレチャコ フ美術館
05-18	46 プローシカ	Chichikov at Prochka	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	27.7×21.1	トレチャコ フ美術館
05-19	47 プリューシキンが酒をすす める	Plushkin Treats to Chichikov	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	21.4×27.7	トレチャコ フ美術館
05-20	51 ゴーゴリとシャガール	Gogol and Chagall	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	27.5×21.3	トレチャコ フ美術館
05-21	65 賄賂	Chichikov Gives Bribe to Ivan Antonovitch	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	22.0×27.7	トレチャコ フ美術館
05-22	73 舞踏会に現われたチーチコ フ	Chichikov at the Ball	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	22.0×27.7	トレチャコ フ美術館
05-23	81 痩せ細った役人たち	The Post-Keeper Tells a Story about the Captain Kopeikin	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	27.7×23.6	トレチャコ フ美術館
05-24	84 検事死す	The Death of the Prosectutor	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	20.9×27.6	トレチャコ フ美術館
05-25	86 チーチコフは髭を剃る	Chichikov is Shaving Himself at the Mirror	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	27.7×21.0	トレチャコ フ美術館
05-26	87 門番はチーチコフを通さな い	The Door-Keeper Doesn't Let Chichikov Go to the Governor	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	27.6×23.6	トレチャコ フ美術館
05-27	90 チーチコフの誕生	The Birth of Chichikov	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	27.7×20.4	トレチャコ フ美術館
05-28	91 父親はチーチコフに体罰を 与える	The Education of Chichikov	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	27.6×20.8	トレチャコ フ美術館
05-29	95 税関吏チーチコフ	Chichikov at the Customs	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	21.1×27.6	トレチャコ フ美術館
05-30	96 夕暮れのトロイカ	Leaving of Chichikov from the City NN	エッチング・ドライポイン ト・アクワティント、紙	1923-27	21.1×27.6	トレチャコ フ美術館

6 版画集『ラ・フォンテーヌの寓話』 La Fontaine Fables (1952刊行)

06-01	4 2匹のロバ	The Two Mules	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.3×24.8	個人蔵
06-02	7 人と映るその像	A Man and His Image	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.0×23.7	個人蔵
06-03	9 死と木樵	The Death and Woodman	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.5×23.9	個人蔵
06-04	16 矢で傷ついた鳥	The Bird Wounded from an Arrow	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.3×23.4	個人蔵
06-05	18 鷲とコガネムシ	The Eagle and the Gold Bug	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.5×23.7	個人蔵
06-06	19 ライオンとブヨ	The Lion and the Midge	エッチング・水彩、紙	1927-30	25.9×24.0	個人蔵
06-07	23 雄鶏とキツネ	The Cock and the Fox	エッチング・水彩、紙	1927-30	28.5×24.4	個人蔵
06-08	25 ユノに訴える孔雀	The Peacock Pleading to Juno	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.6×23.9	個人蔵
06-09	26 人間の女に姿を変えた牝猫	The Cat Metamorphosing into a Lady	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.7×24.0	個人蔵
06-10	34 酔っぱらいとその妻	A Drunken Man and His Wife	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.2×23.6	個人蔵
06-11	35 オオカミとコウノトリ	The Wolf and the Stork	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.1×23.5	個人蔵
06-12	36 キツネとブドウ	The Fox and Grapes	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.2×23.6	個人蔵
06-13	54 木樵とメルクリウス	Woodman and Mercury	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.5×23.7	個人蔵
06-14	55 勝負にならない	The Ceramic Pot and Iron Pot	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.8×23.4	個人蔵
06-15	56 小魚と釣り人	The Small Fish and the Fisherman	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.5×23.7	個人蔵

No	作品名	作品名(英)	材質・技法	制作年	寸法・cm	所蔵先
06-16	58 老女と二人の召使い	The Old Woman and Two Servants	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.4×23.8	個人蔵
06-17	59 サテュロスと旅人	Satyr and Passersby	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.1×23.7	個人蔵
06-18	63 鷲とフクロウ	The Eagle and the Owl	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.8×24.0	個人蔵
06-19	73 ベテン師	The Impostor	エッチング・水彩、紙	1927-30	29.6×24.1	個人蔵
7 版画集『聖書』 Bible (1956刊行)						
07-01	1 人類創造	The Creation of Man	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	30.3×23.0	個人蔵
07-02	2 箱舟の鳩	The Dove of the Ark	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	31.2×23.7	個人蔵
07-03	4 虹	Rainbow	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	30.0×22.8	個人蔵
07-04	7 アブラハムと三人の天使	Abraham and Three Angels	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	30.5×24.5	個人蔵
07-05	10 イサクの犠牲	Sacrifice of Isaac	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	30.5×23.7	個人蔵
07-06	11 サラを悼むアブラハム	Abraham Laments Sarah	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	30.0×23.5	個人蔵
07-07	14 ヤコブの梯子	The Dream of Jacob	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	24.7×26.3	個人蔵
07-08	17 ラケルの墓	The Tomb of Rachel	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	23.9×30.5	個人蔵
07-09	18 羊飼いのヨセフ	Joseph the Shepherd	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	30.0×23.7	個人蔵
07-10	33 出エジプト	Exodus	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	24.1×32.0	個人蔵
07-11	40 アロンと燭台	Aaron and the Candlestick	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	29.3×23.0	個人蔵
07-12	43 主の命により武装したヨ シュア	Armed Joshua by Order of God	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	29.5×23.5	個人蔵
07-13	55 ガザの町の門を担ぎ上げる サムソン	Samson Carrying the Door of Gaza	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	28.5×22.4	個人蔵
07-14	56 サムソンとデリラ	Samson and Delilah	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	28.0×24.2	個人蔵
07-15	80 シバの女王	Queen of Sheva	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	32.0×22.0	個人蔵
07-16	87 天使に触れられたエリヤ	Elijah Touched by the Angel	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	24.7×26.3	個人蔵
07-17	92 来るべきメシアの再来、あ るいはエサウの予言	The Time of Messia or Prophecy of Esau	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	31.6×24.7	個人蔵
07-18	93 バビロンの神託	Oracle on Babylon	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	31.5×24.5	個人蔵
07-19	104 エゼキエルの幻視	The Vision of Ezechiel	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	32.3×25.5	個人蔵
07-20	105 エゼキエルの召命	Ezechiel Vocation	エッチング・ドライポ イント・水彩、紙	1931-39, 1952-56	32.7×24.7	個人蔵
8 戦後のリトグラフ『ニースとコートダジュール』 Nice and Cote d'Azur (1967刊行)						
08-01	26 夕日	Sunset	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
08-02	27 人魚と詩人	Siren and Poet	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
08-03	28 人魚と魚	Siren and Fish	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
08-04	29 バラとミモザ	Roses and Mimosa	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
08-05	30 デ・ザンジュ湾	The Bay of Des Anges	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
08-06	31 ヴィクトワール大通り	Victory Avenue in Nice	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵

No	作品名	作品名(英)	材質・技法	制作年	寸法・cm	所蔵先
08-07	32 ミモザの中の恋人たち	Lovers in Mimosa	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
08-08	33 花の戦	Battle of Flowers	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
08-09	34 恋人たちと魚	Lovers and Fish	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
08-10	35 人魚と松	Siren and Pine Tree	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
08-11	36 ニースの空の婚約者たち	Fiances in the Sky at Nice	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
08-12	37 花束を持った女性	Lady with Bouquet	リトグラフ、紙	1967	73.0×52.0	個人蔵
9 タペストリー						
09-01	平和	Peace	タペストリー	1994	410.0× 620.0	個人蔵
09-03	アルルカン	Harlequins	タペストリー	1993	317.0× 525.0	個人蔵
09-02	モーゼ	Moses	タペストリー	1971	320.0× 235.0	個人蔵

国宝 鑑真和上展

図録 番号	作品名	指定	材 質	員数	時代	展示期間		
						前期	後期	
1	鑑真和上坐像	国宝	脱活乾漆 彩色	一軀	奈良時代	○	○	
3	舍利容器	1	金亀舍利塔	国宝	銅鑄造 鍍金	一基	平安時代	○ ○
		2	白瑠璃舍利壺(複製品)			一口		○ ○
		3	方円彩糸花網	国宝	絹製	一枚	唐時代	複製 ○
5	日供舍利塔	重文	木製 銅鑄造 鍍金	一基	鎌倉時代	○ ○		
6	唐招提寺伽藍図		絹本着色	一幅	江戸時代	○ ○		
7	勅額	重文	木製	一面	奈良時代	○ ○		
8	梵天立像	国宝	木造・乾漆併用 彩色	一軀	奈良時代	○ ○		
9	帝釈天立像	国宝	木造・乾漆併用 彩色	一軀	奈良時代	○ ○		
12	四天王立像 広目天	国宝	木造・乾漆併用 彩色・漆箔	一軀	奈良時代	○ ○		
13	四天王立像 多聞天	国宝	木造・乾漆併用 彩色・漆箔	一軀	奈良時代	○ ○		
14	東征伝絵巻 (2巻・3巻)	重文	紙本着色	二巻	鎌倉時代	○ ○		
16	華盤	重文	木製 黒漆塗 彩色	一口	奈良時代	○ ○		
17	香水壺	重文	銅鑄造 鍍金	一口	鎌倉時代	○ ○		
18	法会所要具類 (木製柄香炉)	重文	木製 彩色	三口	平安時代	○ ○		
19	両界曼荼羅		絹本着色	二幅	鎌倉時代	○ ○		
20	法華曼荼羅	重文	絹本着色	一面	鎌倉時代	○		
21	薬師十二神将像	奈良県 指定	絹本着色	一幅	鎌倉時代	○ ○		
22	五大尊像		絹本着色	五幅	南北朝時代	○ ○		
23	大威徳明王像	重文	絹本着色	一面	平安後期	○		
24	十六羅漢像	重文	絹本着色	十六面	鎌倉時代	八面 八面		
26	老母六英経	重文	紙本墨書	一卷	奈良時代	○ ○		
27	大雲経請雨品 第六十四		紙本墨書	一卷	奈良時代	○ ○		
29	大毘盧遮那成仏神変加持経	重文	紙本墨書	一卷	平安時代	○ ○		
30	法華経		紺紙金字	八巻	平安時代	○ ○		
31	薬師如来立像	重文	木造	一軀	奈良時代	○ ○		
33	衆宝王菩薩立像	重文	木造	一軀	奈良時代	○ ○		
34	獅子吼菩薩立像	重文	木造	一軀	奈良時代	○ ○		
35	如来形立像	重文	木造 彩色	一軀	平安時代	○ ○		
36	四天王立像 持国天 (講堂所在)	重文	木造	一軀	奈良～平安時代	○ ○		
37	四天王立像 增長天 (講堂所在)	重文	木造	一軀	奈良～平安時代	○ ○		
38	仏頭	重文	木心乾漆造 漆箔	一個	奈良時代	○ ○		
39	菩薩頭	重文	木心乾漆造 漆箔	一個	奈良時代	○ ○		
40	押出仏	重文	銅版製 押出 鍍金	一面	白鳳～奈良時代	○ ○		
41	押出仏	1	薬師如来立像	重文	銅版製 押出	一面	白鳳～奈良時代	○ ○
		2	如来立像	重文	銅版製 押出	一面	白鳳～奈良時代	○ ○
		3	如来坐像	重文	銅版製 押出	一面	白鳳～奈良時代	○ ○
		4	吉祥天立像	重文	銅版製 押出	一面	白鳳～奈良時代	○ ○
		5	十一面観音立像	重文	銅版製 押出	一面	白鳳～奈良時代	○ ○
42	覚盛上人坐像	重文	木造 彩色	一軀	室町時代	○ ○		
43	戒律伝来記 上巻	重文	紙本墨書	一卷	平安時代	○ ○		
44	四分律行事鈔	重文	紙本墨書	一卷	平安時代	○ ○		
45	覚盛願経 宝篋印陀羅尼経	重文	紙本墨書	一帖	鎌倉時代	○ ○		

図録 番号	作品名	指定	材 質	員数	時代	展示期間			
						前期	後期		
46	覚盛願経 唯識三十頌/大乘百法明門論/般若心経	重文	紙本墨書	一帖	鎌倉時代	○	○		
47	瑜伽師地論 卷第三十八	重文	紙本墨書	一卷	奈良時代	○	○		
48	東征伝 (賢位撰)		紙本墨書	二帖	室町時代	○	○		
49	金堂の天井支輪板	国宝	木 彩色	四枚	奈良時代	○	○		
50	金堂の軒支輪板	1	軒支輪板三番	国宝	木 彩色	一個	江戸時代	○	○
		2	軒支輪板四番	国宝	木 彩色	一個	江戸時代	○	○
		3	軒支輪板七番	国宝	木 彩色	一個	江戸時代	○	○
51	金堂所用瓦	1	平瓦	国宝		一個	奈良時代	○	○
		2	丸瓦	国宝		一個	奈良時代	○	○
		3	平瓦	国宝		一個	奈良時代	○	○
		4	平瓦	国宝		一個	奈良時代	○	○
		5	平瓦	国宝		一個	鎌倉時代	○	○
		6	丸瓦	国宝		一個	鎌倉時代	○	○
		7	平瓦	国宝		一個	室町時代	○	○
		8	丸瓦	国宝		一個	室町時代	○	○
		9	平瓦	国宝		一個	江戸時代	○	○
		10	平瓦	国宝		一個	江戸時代	○	○
		11	軒平瓦	国宝		一個	江戸時代	○	○
		12	軒丸瓦	国宝		一個	江戸時代	○	○
52	唐招提寺文書 (天の巻)(地の巻)	重文	紙本墨書	二巻	奈良～平安時代	○	○		
53	釈迦念仏会願文并諷誦文		彩牋墨書	二巻	鎌倉時代	○	○		
54	唐招提寺版木(覚盛撰述)	1	通別二受鈔(大)	木製	三枚	室町時代	○	○	
		2	新学作持要文(小)	木製	二枚	室町時代	○	○	
55	伝釈迦如来坐像	重文	木造 漆箔	一軀	平安時代	○	○		
56	伝多宝如来坐像	重文	木造	一軀	平安時代	○	○		
57	鑄銅三具足	1	燭台	重文	銅製 鑄造 鍍金	一口	明時代	○	○
		2	香炉	重文	銅製 鑄造 鍍金	一口	明時代	○	○
		3	華瓶	重文	銅製 鑄造 鍍金	一口	明時代	○	○
58	覚盛願経 四分戒本	重文	紙本墨書	一帖	鎌倉時代	○	○		
59	覚盛願経 梵網経	重文	紙本墨書	二帖	鎌倉時代	○	○		
60	覚盛願経 法華経	重文	紙本墨書	十帖	鎌倉時代	○	○		
61	律三祖像	1	道宣律師		絹本着色	一幅	江戸時代	○	○
		2	鑑真和上		絹本着色	一幅	江戸時代	○	○
		3	元照律師		絹本着色	一幅	江戸時代	○	○
62	鑑真和上受持鉢		鉄製 鍛造 黒漆塗	一口	奈良時代	○	○		
63	金銅装葵紋居箱		金銅製	二合	江戸時代	○	○		
64	金銅華鬘		銅製 鍍金 鍛造	三枚	江戸時代	○	○		
65	七条袈裟 (慶円和尚奉納)		麻布製	一領	南北朝時代	○	○		
66	二十五条袈裟 (覚盛使用)		麻布製	一領	鎌倉時代	○	○		
67	鑑真和上袈裟入蒔絵箱		黒漆塗 金蒔絵	一合	江戸時代	○	○		
68	釈迦如来袈裟入蒔絵箱		黒漆塗 金蒔絵	一合	江戸時代	○	○		
69	前机		木製	一基	江戸時代	○	○		
70	脇机		木製	二基	江戸時代	○	○		
71	静・槌		木製	二基	江戸時代	○	○		

前期 平成20年7月12日(土)～8月3日(日)

(重文=重要文化財)

後期 平成20年8月5日(火)～8月31日(日)

「十二の旅：感性と経験のイギリス美術」展

カタログ 番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法cm (平面：縦×横、 立体：高さ×幅×奥行き)	所蔵
1	ボイル・ファミリー	赤い崖の研究	1981	ミクストメディア、樹脂、ファイバーグラス	183×183	栃木県立美術館
2	ボイル・ファミリー	富山の泥と石の研究	1982-86	ミクストメディア、樹脂、ファイバーグラス	183×183×19	富山県立近代美術館
3	ボイル・ファミリー	ヒロシマ・ディプティック	1987-88	ミクストメディア、樹脂、ファイバーグラス	183×182×22 (左) / 183×184×26.8(右)	広島市現代美術館
4	ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1805-17頃	油彩、カンヴァス	52.8×44.8	栃木県立美術館
6	ジョン・コンスタブル	イングランドの風景	1833刊	メゾチント	各27.3×40	栃木県立美術館
6-1		口絵：イースト・バーゴルト、サフォーク				
6-2		春				
6-3		秋の夕暮れ				
6-4		正午				
6-5		ヤーマス、ノーフォーク				
6-6		夏の朝				
6-7		夏の夕べ				
6-8		小谷、ヘルミンガム・パーク、サフォーク				
6-9		荒地				
6-10		ストーク・バイ・ネイランド、サフォーク				
6-11		浜辺				
6-12		製粉場				
6-13		スタウア川の水門、サフォーク				
6-14		オールド・セーラム				
6-15		夏の野				
6-16		スタウア川、サフォーク				
6-17		製粉場の流れ				
6-18		ウェイマス湾、ドーセット シャー				
6-19		夏の午後、にわか雨の後				
6-20		グレーブ・ファーム				
6-21		ハドレイ城				
6-22		ハムステッド・ヒース				
7	アンディ・ゴールズワージー	穴の周囲のカエデの紅葉、黄色から赤へ、午後、曇り、暗くなる 大内山村 1987年11月14日	1987	写真、テキスト付属	40.5×48.5	名古屋市美術館
8	アンディ・ゴールズワージー	アオキの葉、草の茎でつなぎ合わせ、木から吊るす、両側から秋の光を受ける 大内山村 1987年11月20日	1987	写真、テキスト付属	76×76.3	世田谷美術館
9	アンディ・ゴールズワージー	光を受けるために葉に折れ目をつけ、竹の小枝で地面に固定する、晴れた日の深い影の中で制作する 大内山村 1987年11月24日	1987	写真、テキスト付属	65×211.5	栃木県立美術館
10	アンディ・ゴールズワージー	古い竹の柔らかくなった部分に穴を開け、スクリーンを組む、暗くなる、無風、暖かい、湿度が高く雨になる、蚊が出る 紀伊長島町 1987年11月27日	1987	写真、テキスト付属	65.5×127.5	栃木県立美術館
11	アンディ・ゴールズワージー	白く擦った石 紀伊長島町 1987年11月29日	1987	写真、テキスト付属	50.6×50.6	名古屋市美術館

カタログ 番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 ^{cm} (平面:縦×横、 立体:高さ×幅×奥行き)	所蔵
12	アンディ・ゴールズ ワージー	穴の周囲に小石を置く、曇り始 める 紀伊長島町 1987年12月 7日	1987	写真、テキスト付属	40.3×43.5	世田谷美術館
13	アンディ・ゴールズ ワージー	快晴の朝、凍った雪を板状に切 り、注意深く運ぶ、棒で雪を貫 通する直前まで削る、暖かくな り、解ける 和泉村 1987年12 月19日	1987	写真、テキスト付属	74.8×75	栃木県立美術館
14	アンディ・ゴールズ ワージー	葉脈の間に裂き松葉で縫合した 葉 和泉村 1987年12月20日	1987	葉、アクリル・フ レーム	53×50.4	世田谷美術館
15	アンディ・ゴールズ ワージー	葉脈の間に裂き松葉で縫合した 葉 和泉村 1987年12月22日	1987	葉、アクリル・フ レーム	60×47	世田谷美術館
16	アンディ・ゴールズ ワージー	冷え込んだ山影で早朝に制作、 日の出、ほぼ完成するが太陽の 熱で突然2ヵ所が崩壊、修復を 急ぐ 和泉村 1987年12月24日	1987	写真、テキスト付属	69.7×142	名古屋市美術館
17	アンディ・ゴールズ ワージー	カエデの葉を投げる 庚申川溪 谷、足尾 1990年11月3日	1990	写真9枚組 (パネル3 枚組)	49.2×49.2 (× 9)	栃木県立美術館
18	アンディ・ゴールズ ワージー	黄色のニレの葉で川石を包 む、水量は少ない スカウア・ ウォーター、ダンフリーシャー 1991年10月15日	1991	写真、テキスト付属	76.7×76.7	栃木県立美術館
19	アンディ・ゴールズ ワージー	赤いカエデの葉を水でつける、 晴れ 大内山村 1991年11月19 日	1991	写真、テキスト付属	76.7×76.7	栃木県立美術館
20	アンディ・ゴールズ ワージー	暗いうちに制作を始める、寒い、 笹の葉を土で岩につけ、昇る朝 日を迎える 大内山村 1991年 11月21日	1991	写真、テキスト付属	91×91	栃木県立美術館
21	アンソニー・グリーン	父の肖像	1974	油彩、カンヴァス	137×157	栃木県立美術館
22	アンソニー・グリーン	スコール6 デイ	1975	油彩、ボード	183×183	栃木県立美術館
23	アンソニー・グリーン	19回目の結婚記念日	1980	油彩、ボード	236×160	栃木県立美術館
24	アンソニー・グリーン	時計の修理/1946年の記憶	1980	油彩、ボード	184×187	世田谷美術館
25	アンソニー・グリーン	復活祭/ル・ランシー	1981	油彩、ボード	205.7×276.9	世田谷美術館
26	モナ・ハトゥーム	隔たりの尺度	1988	映像 (15分26秒)		富山県立近代美術館
27	デイヴィッド・ホック ニー	島	1971	アクリル、カンヴァ ス	152.4×182.9	栃木県立美術館
28	デイヴィッド・ホック ニー	英国大使館での昼食 1983年2 月16日	1983	写真	117×210.8	栃木県立美術館
29	デイヴィッド・ホック ニー	大仏 1983年2月18日	1983	写真	152.4×147.3	世田谷美術館
30	デイヴィッド・ホック ニー	竜安寺の石庭を歩く 1983年2 月21日	1983	写真	101.6×160.7	東京都現代美術館
31	デイヴィッド・ホック ニー	太陽 [ウェザー・シリーズ]	1973	リトグラフ、スク リーンプリント	95×78	東京都現代美術館
32	デイヴィッド・ホック ニー	雨 [ウェザー・シリーズ]	1973	リトグラフ、スク リーンプリント	99.8×80.5	東京都現代美術館
33	デイヴィッド・ホック ニー	霧 [ウェザー・シリーズ]	1973	リトグラフ	94×81	東京都現代美術館
37	バーナード・リーチ	楽焼花文鉢	1914頃	陶器	高さ6.5、径 24	愛知県美術館
39	バーナード・リーチ	楽焼筒描電気コンロ	1919	陶器	高さ15、径17	益子参考館
40	バーナード・リーチ	鹿絵大皿	1926	陶器	高さ9、径 49.5	益子参考館
41	バーナード・リーチ	蛸絵大皿	1928	陶器	高さ11、径50	栃木県立美術館
42	バーナード・リーチ	魚文大皿	1934	陶器	高さ8、径37	栃木県立美術館
43	バーナード・リーチ	鉄絵井戸図大皿	1954	陶器	高さ10.5、径 41.5	個人蔵

カタログ 番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 ^{cm} (平面：縦×横、 立体：高さ×幅×奥行き)	所蔵
44	バーナード・リーチ	鉄絵山里図大皿	1954	陶器	高さ12.8、径 47.2	個人蔵
45	ヘンリー・ムーア	直立のモチーフA	1968	ブロンズ	28.5×6×5	栃木県立美術館
46	ヘンリー・ムーア	象の頭蓋骨	1969-1970	エッチング		ふくやま美術館
46-8		それはイメージの中でもたれた 腕の形になった	1969		23.5×30.8	
46-9		断片に偉大な多様性と形態上の 微妙な変化を秘めた骨	1969		27.6×23.5	
46-10		構造上の素晴らしい力と形に強 度の緊張感を備えた骨	1970		29.8×20	
46-11		頭蓋骨側面－顎の関節	1969		25.4×20	
46-12		幻想家のデッサン－線の技法	1969		19.8×30.2	
46-13		絵画で頭蓋骨の内部構造を探る	1969		18.5×26	
46-14		線描のみで頭蓋骨の量塊を示し たい	1969		25.4×20	
47	ヘンリー・ムーア	糸つむぎの形 (原型)	1968-69	ブロンズ	86×68.5×66	彫刻の森美術館
48	ヘンリー・ムーア	オーデン・ポエム	1973	リトグラフ		富山県立近代美術館
48-1		詩人オーデンのスケッチ			28×21.6	
48-2		吹きさらしの風景			41.3×33.7	
48-3		洞窟			32.1×26.7	
48-4		群集 I			28.3×22.5	
48-5		群集 II			29.2×27	
48-6		唇の薄い兵士 I			22.5×29.5	
48-7		ふたつの頭部			12.7×20	
48-8		唇の薄い兵士 II			21.6×29.2	
48-9		子守歌のためのスケッチ			24.2×17.5	
48-10		子守歌			28.9×30.5	
48-11		子守歌：眠っている頭			27.3×29.2	
48-12		男と女			36.2×26	
48-13		フィヨルド			22.2×25.4	
48-14		分割された風景			41.3×34	
48-15		裂けた石			30.2×15	
48-16		ガースデイル			24.8×31.7	
48-17		森			28.9×21	
48-18		橋			24.8×34.3	
49	ヘンリー・ムーア	ストーンヘンジ	1972-73			広島市現代美術館
49-2		サーセン石と楣石	1973	リトグラフ	28.6×45.2	
49-7		雨に洗われた石	1973	リトグラフ	28.9×45.2	
49-10		裂け目の光	1973	リトグラフ	45.6×29.3	
49-14		月明の滝	1973	リトグラフ	29.3×45.7	
50	ヘンリー・ムーア	ふたつのかたちによる横たわる 人体：2重円	1976-77	大理石	83×50×47 ／48×65.5× 39.5	富山県立近代美術館
51	ヘンリー・ムーア	横たわる人体：骨のスカート	1977	ブロンズ	14×58.5×48	静岡県立美術館
52	デイヴィッド・ナツ シュ	裂箱	1982	木 (ミズナラ)	60.5×58×58	栃木県立美術館
53	デイヴィッド・ナツ シュ	捻箱	1982	木 (ミズナラ)	127×137× 131	栃木県立美術館
54	デイヴィッド・ナツ シュ	朽ちた根元	1982	コンテ、紙	71×103	東京都現代美術館
55	デイヴィッド・ナツ シュ	雪窯	1982	コンテ、紙	61.5×91.5	東京都現代美術館

カタログ 番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 ^{cm} (平面:縦×横、 立体:高さ×幅×奥行き)	所蔵
56	デイヴィッド・ナッシュ	焼き出される川のトンネル	1982	コンテ、紙	61.5×91	栃木県立美術館
57	デイヴィッド・ナッシュ	川のトンネル、光徳	1982	コンテ、紙	64×94	栃木県立美術館
58	デイヴィッド・ナッシュ	ミズナラとの20日間	1982	鉛筆、コンテ、紙	97×188.5	栃木県立美術館
59	デイヴィッド・ナッシュ	ファミリー・トゥリー 1971-1981/ミズナラとの20日間、光徳、日本、1982年2月	1982	エッチング、コンテ、紙	74.6×102.6	栃木県立美術館
60	デイヴィッド・ナッシュ	歩く梯子	1984	木(ニレ)	218×190×64	栃木県立美術館
61	デイヴィッド・ナッシュ	絵日記:1984年10月18日-11月15日(29点組)	1984	コンテ、フェルトペン、色鉛筆、紙	各53.1×39.6	栃木県立美術館
62	ベン・ニコルソン	1930(カンバーランドの風景)	1930	油彩、厚紙	44.8×54	世田谷美術館
63	ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933	油彩、鉛筆、プリント柄の布と紙のコラージュ、カンヴァス	50.8×76.3	愛知県美術館
64	ベン・ニコルソン	1945(ペインティング)	1945	油彩、ボード	24.3×27	メナード美術館
65	ベン・ニコルソン	1947(コンポジション)	1947	油彩、鉛筆、コンテ、板	45.7×45.7	群馬県立館林美術館
66	ベン・ニコルソン	1949.5.19(屋上、セント・アイヴス)	1949	油彩、鉛筆、カンヴァス	46×71	メナード美術館
67	ベン・ニコルソン	1961(赤のない静物)	1961	油彩、カンヴァス	63.5×75.5	富山県立近代美術館
68	ベン・ニコルソン	1968年1月1日(滑らかな小石)	1968	油彩、ウオッシュ、板(レリーフ)	64×60	群馬県立近代美術館
69	ベン・ニコルソン	ギリシアとトルコの形	1968刊	エッチング		富山県立近代美術館
69-1		ふたつめのトルコの形			37.6×31.9	
69-2		エーゲ			32.2×41.5	
69-3		トルコの日時計と木			46.5×37.2	
69-4		トルコの日時計と柱			32×37.5	
69-5		エーゲII			31.6×37.5	
69-6		ねじれたトルコの形			37.8×27	
69-7		パロス2			41×37.9	
69-8		柱と木			42.4×32	
69-9		木の葉のあるトルコの形			44.5×37.3	
69-10		パトモスの修道院			46.7×59.4	
71	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	研鑽の書(リベル・ストゥディオルム)	1807-19(1845刷り)	エッチング、メゾチント	各18.7×26.7	栃木県立美術館
71-1		タンバリンをもつ女				
71-2		トゥーン湖				
71-3		グリニッジよりロンドンを望む				
71-4		浜辺で遊ぶ子供たち				
71-5		カンパーニャの情景				
71-6		カークストール修道院の地下室				
71-7		リッパ				
71-8		ソルウェイの泥炭地				
71-9		カレー港の入口				
71-10		ノラム城				
71-11		インヴェラレイ城と街				
71-12		キリストとサマリアの女				
72	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	メリック修道院、スウェイル渓谷	1816-17頃	水彩、紙	28.2×41.3	栃木県立美術館

カタログ 番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 ^{cm} (平面:縦×横、 立体:高さ×幅×奥行き)	所蔵
73	ジョゼフ・マロード・ ウィリアム・ターナー	メリック修道院、スウェイル溪 谷 (ウイテカー『リッチモンド シャーの歴史』より)	1822刊	ライン・エングレー ヴィング	19.2×27.5	栃木県立美術館
74	ジョゼフ・マロード・ ウィリアム・ターナー	ウイテカー『リッチモンド シャーの最もピクチャレスクな 景観集』	1818-23 (1843刊)	ライン・エングレー ヴィング	各34×49.5	栃木県立美術館
74-1		リッチモンド城と町				
74-2		聖アガサ修道院、イーズビー				
74-3		アスク・ホール、ゼトランド伯 爵の館				
74-4		ティーズ川の高い滝				
74-5		ロックビーでのグリータ川と ティーズ川の合流				
74-6		メリック修道院				
74-7		アイスガースの瀧				
74-8		アスクリグ近くのシマー湖				
74-9		ハードローの瀧				
74-10		カークビー・ロンズデイルの教 会の庭				
74-11		ヘイシャムとカンバーランドの 山々				
74-12		ウェザーコート崩落				
75	ジョゼフ・マロード・ ウィリアム・ターナー	イングランド南岸のピクチャレ スクな風景	1814-26 (1826刊)	ライン・エングレー ヴィング	各31.7×24.6	栃木県立美術館
75-1		マーゲイト、ケント				
75-2		ライ、サセックス				
75-3		ブライトヘルムストーン、サセッ クス				
75-4		ポーツマス、ハンブシャー				
75-5		ルルワースの入江、ドーセット シャー				
75-6		ブリッドポート、ドーセット シャー				
75-7		ライム・リージス、ドーセット シャー				
75-8		プリマス・ドック、デヴォン シャー				
75-9		セント・マイケル山、コーン ウォール				
75-10		イルフラクーム、デヴォン シャー				
76	ジョゼフ・マロード・ ウィリアム・ターナー	イングランドおよびウェールズ のピクチャレスクな風景	1827-1838 (1838刊)	ライン・エングレー ヴィング	各37×27	町田市立国際版画美 術館
76-6		グレート・ヤーマス、ノー フォーク				
76-7		ストーンヘンジ、ウィルト シャー				
76-8		デヴォン港とドックヤード、デ ヴォンシャー				
76-9		カウズ、ワイト島				
76-10		スタムフォード、リンカーン シャー				
77	ジョゼフ・マロード・ ウィリアム・ターナー	風景・タンバリンをもつ女	1840-50頃	油彩、カンヴァス	88.5×118	栃木県立美術館
78	ジョゼフ・マロード・ ウィリアム・ターナー	パツランツァ、マッジョーレ湖	1846-48頃	水彩、紙	36.8×54	静岡県立美術館

風景ルル展

作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
高木紗恵子 Saeko TAKAGI			
《業火 HELLFIRE》	キャンバスにアクリル絵の具、ウレタン樹脂、鉱石	162.1×130.3	2008
《ワイルドライフ／ストラタス THE TREE OF LIFE / STRATUS》	キャンバスにアクリル絵の具、ウレタン樹脂	116.7 ×116.7	2008
《ワイルドライフ／ゲンマ WILD LIFE / GEMMA》	キャンバスにアクリル絵の具、ウレタン樹脂、鉱石	130.31×194.0	2008
《生命の樹／ドッベルゲンガー THE TREE OF LIFE / DOPPELGANGER》	キャンバスにアクリル絵の具、ウレタン樹脂、鉱石	90.9×116.7	2008
《生命の樹／オリエント THE TREE OF LIFE / ORIENT》	キャンバスにアクリル絵の具、ウレタン樹脂、鉱石、顔料インク、エナメル	194.0×162	2008
《生命の樹／エレガンス THE TREE OF LIFE / ELEGANCE》	キャンバスにアクリル絵の具、ウレタン樹脂、鉱石	194.0 ×162	2008
《ワイルドライフ／ブルズアイ WILD LIFE / BULL'S - EYE 》	キャンバスにアクリル絵の具、ウレタン樹脂	116.7×116.7	2008
《日当りの良い庭 SUNNY GARDEN》	キャンバスにアクリル絵の具、ウレタン樹脂	162.1×112.1	2008
照屋勇賢 Yuken TERUYA			
《告知-森 (クリスピークリーム)》	ペーパーバッグ	10.3/4 x 5.1/4 x 3.1/8inch	2008
《告知-森 (マクドナルド)》	ペーパーバッグ	11 x 5.3/4 x 3.3/4inch	2008
《告知-森 (バーガーキング)》	ペーパーバッグ	11 x 7.1/4 x 5inch	2008
《告知-森 (スターバックス)》	ペーパーバッグ	10 x 7.7/8 x 4.1/2inch	2008
《天地創造のためのレシピ》	ペーパーナプキン、色鉛筆	サイズ可変	2008
《Dessert Project》	ゼリー、スポンジ・ケーキ、ガム、砂糖	35.0×22.0×22.0	2008
《Dessert Project》	ゼリー、スポンジ・ケーキ、ガム、砂糖	35.0×22.0×22.0	2008
《コーナー・フォレスト》	トイレットペーパーの芯	サイズ可変	2007
《Dessert Projectのためのドローイング》	色鉛筆、紙	23.5×39.5	2006
《Dessert Projectのためのドローイング》	色鉛筆、紙	29.5×22.3	2006
《Dessert Projectのためのドローイング》	色鉛筆、紙	29.5×22.3	2006
柳澤顕 Akira Yanagisawa			
《無題》	キャンヴァス、油彩、カラーシート	359×586	2008
《無題》	カラーシート	158×248	2008
《無題》	キャンヴァス、油彩	202.5×357.5	2008
《無題》	インクジェットプリント、キャンヴァス	360×866	2008

作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
鈴木理策 Risaku SUZUKI			
《海と山のあいだ(08,DK-55)》	タイプCプリント	95.2×119.0	2008
《海と山のあいだ(08,DK-70)》	タイプCプリント	95.2×119.0	2008
《海と山のあいだ(08,DK-72)》	タイプCプリント	95.2×119.0	2008
《海と山のあいだ(08,DK-30)》	タイプCプリント	95.2×119.0	2008
《海と山のあいだ(08,DK-29)》	タイプCプリント	95.2×119.0	2008
《海と山のあいだ(B-3)》	タイプCプリント	95.2×119.0	2005
《海と山のあいだ (A-35)》	タイプCプリント	95.2×119.0	2005
《海と山のあいだ(A-32)》	タイプCプリント	95.2×119.0	2005
《海と山のあいだ (A-28)》	タイプCプリント	95.2×119.0	2005
内海聖史 Satoshi UCHIUMI			
《十方視野》	綿布、油彩	サイズ可変	2008
《色彩に入る》	綿布、油彩	410×922×4	2007
《色葉を踏む》	綿布、油彩	(約) 400×460×6	2006
ブライアン・アルフレッド Brian ALFRED			
《UN》	キャンバスにアクリル絵の具	203.5 x 153	2007
《Reactors》	キャンバスにアクリル絵の具	122 x 122	2006
《Play Mural》	ペーパーコラージュ	30×37.5	2008
《My Name in Roppongi》	ペーパーコラージュ	30×37.5	2008
《Trapped》	ペーパーコラージュ	30×37.5	2008
《Poster》	ペーパーコラージュ	30×37.5	2008
《Dynamic Sky》	ペーパーコラージュ	30×37.5	2008
《E.T. Highway》	ペーパーコラージュ	30×37.5	2004
《GR2》	ペーパーコラージュ	30×37.5	2008
《Nokia Sunset》	ペーパーコラージュ	30×37.5	2008
《Pretty Cancer》	ペーパーコラージュ	30×37.5	2004
《XXX》	ペーパーコラージュ	30×37.5	2008

作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
《Break Up》	ペーパー コラージュ	30×37.5	2007
《On the Way to SCAI》	ペーパー コラージュ	30×37.5	2008
《ATS in IGY》	キャンバスにアクリル絵の具	152.5 x 183	2008
《Los Angeles Collapse》	キャンバスにアクリル絵の具	130×193	2008
《Spray》	キャンバスにアクリル絵の具	153 x 183	2007
《There is a Light That Will Never Go Out》	アニメーション	3分34秒、繰り返し	2006～2008

佐々木加奈子 Kanako SASAKI

《アンネ森に入る #1》	タイプCプリント	50.8×60.96	2007
《アンネ森に入る #2》	タイプCプリント	50.8×60.96	2007
《昼食配達 #1》	タイプCプリント	50.8×40.64	2007
《昼食配達 #2》	タイプCプリント	50.8×40.64	2007
《放課後シリーズ #21》	タイプCプリント	20.32×25.4	2007
《放課後シリーズ #22》	タイプCプリント	20.32×25.4	2007
《浪漫飛行》	タイプCプリント	76.2×101.6	2005
《大使》	タイプCプリント	20.32×25.4	2005
《鳥になる》	タイプCプリント	50.8×60.96	2008
《つわり》	タイプCプリント	27.94×35.56	2003
《葉っぱになる》	タイプCプリント	81.5×98	2004
《スイングクラブ》	タイプCプリント	20.32×25.4	2003
《黄色いレオタード》	タイプCプリント	50.8×40.64	2003
《漱石のように》	タイプCプリント	50.8×60.96	2004
《待合室》	タイプCプリント	15.24×20.32	2004
《アンネとの会話 2》	ビデオインスタレーション 3分40秒、繰り返し		2008

小西真奈 Mana KONISHI

《Slope》	キャンバスに油彩	130×162	2008
《山のひと》	キャンバスに油彩	162×162	2007
《キンカザン 1》	キャンバスに油彩	181.8×227.3	2005

朝鮮王朝の絵画と日本展

第1部 朝鮮絵画の精華

第1章【朝鮮絵画の流れ：山水画を中心に】

1 前期

章	図録No	指定	作者	作品名	員数	材質	法量	制作年代・時代	所蔵
1-1	1		金玄成賛	瀟湘八景図屏風	8曲1隻	絹本墨画	105.0×386.2	朝鮮前期 15世紀後半	九州国立博物館
1-1	2		伝文徽明/具滯賛	瀟湘八景図冊	1冊	絹本墨画	34.5×26.9 (第3紙:26.0)	朝鮮前期 16世紀半ば	個人
1-1	3		伝安堅	漁村夕照・平沙落雁図	2幅	絹本墨画淡彩	平:64.8×42.2/ 漁:65.2×42.4	朝鮮前期 15世紀半ば	大和文華館
1-1	4		伝胡直夫/伝古林清茂賛	山水図(瀟湘夜雨図)	1幅	絹本墨画	48.5×31.1	朝鮮前期 中国・元時代もしくは朝鮮前期・15世紀後半	群馬県立近代美術館(戸方庵井上コレクション)
1-1	5		伝如雪	洞庭秋月・瀟湘夜雨図	2幅	紙本墨画淡彩	各30.1×31.0	朝鮮前期 15世紀末-16世紀初	個人
1-1	8		伝安堅	煙寺暮鐘図	1幅	絹本墨画	80.4×47.9	朝鮮前期 16世紀前半	大和文華館
1-1	9		伝曾我蛇足	青緑山水図(秋嵐山水図)	1幅	紙本墨画着色	42.9×36.3	朝鮮前期 15世紀末-16世紀初	個人
1-1	10		伝蕭照	江山飄影図	1幅	絹本墨画	24.0×20.5	朝鮮前期 16世紀前半	個人
1-1	11		伝陳嘉言賛	山水図	1幅	絹本墨画淡彩	53.5×32.6	朝鮮前期 16世紀前半	個人
1-1	12			雪景山水図	1幅	絹本墨画	82.2×42.5	朝鮮前期 15世紀後半	個人
1-1	13		崔叔昌・李長孫・徐文宝(款)	雲山図	6面	絹本墨画淡彩	各39.8×60.1	朝鮮中期 16世紀後半	大和文華館
1-1	16			樓閣山水図	1幅	絹本墨画淡彩	52.8×31.5	朝鮮前期 16世紀前半	個人
1-1	17			樓閣山水図	1幅	紙本墨画淡彩	131.4×70.0	朝鮮前期 16世紀前半	個人
1-1	18		伝馬遠	白居易載鶴図	1幅	絹本墨画	62.7×49.9	朝鮮前期 15世紀後半	個人
1-1	19		伝馬麟	山水図	2幅	絹本墨画淡彩	各103.8×49.2	朝鮮前期 16世紀半ば	両足院
1-1	20		「隠斎」印	夏冬景山水図	2幅	絹本墨画	各129.0×71.5	朝鮮前期 16世紀前半	京都国立博物館

2 中期

1-2	21			山水図	1幅	絹本墨画淡彩	98.2×85.4	朝鮮中期 16世紀後半	個人
1-2	22		伝馬遠	山水図	1幅	絹本墨画淡彩	89.0×36.8	朝鮮中期 16世紀後半	個人
1-2	23		尚徳(款)	山水図冊	1冊	絹本墨画淡彩	各26.3×50.8	朝鮮中期 16世紀末-17世紀前半	個人
1-2	24			樓閣山水図	2幅	紙本着色	各82.0×41.0	朝鮮中期 17世紀半ば	個人
1-2	25			瀟湘八景図	4幅	絹本墨画淡彩	各26.7×38.5	朝鮮中期 17世紀前半	個人
1-2	26		崔明龍	山水図	1幅	絹本墨画淡彩	139.8×77.0	朝鮮中期 16世紀末-17世紀初	個人
1-2	27		伝李龍	樓閣山水図	1幅	紙本墨画淡彩	159.7×85.1	朝鮮中期 17世紀前半	個人
1-2	28		伝玉潤	山水図	1幅	絹本墨画	88.8×57.0	朝鮮中期 16世紀末-17世紀初	個人
1-2	29		伝相阿弥	山水図	1幅	絹本墨画	31.9×69.2	朝鮮中期 17世紀前半	個人
1-2	30		董其昌(款)	米法山水図	1幅	絹本墨画淡彩	106.2×42.3	朝鮮中期 17世紀半ば	個人
1-2	31		寓夫賛	契会図	1幅	紙本墨画	60.7×73.8	朝鮮中期 1554年	九州国立博物館
1-2	32			東宮冊封都監契会図	1幅	絹本墨画	90.6×58.0	朝鮮中期 1557年	個人
1-2	35		王文迪賛	契会図	1幅	絹本墨画淡彩	70.8×73.4	朝鮮中期 16世紀中期	大和文華館
1-2	36			松林携琴図	1幅	絹本墨画	53.0×25.3	朝鮮中期 17世紀	個人
1-2	37			王羲之愛鷺図	1幅	絹本着色	73.0×33.0	朝鮮中期 17世紀後半	個人
1-2	38			靖節先生行楽図	1幅	絹本着色	62.5×66.5	朝鮮中期 16世紀後半	個人
1-2	39			送別図	1幅	絹本着色	80.3×122.4	朝鮮中期 16世紀後半	正宗寺
1-2	40			帰漁図	1幅	絹本着色	29.3×20.1	朝鮮中期 16世紀後半	個人
1-2	41		「小樵」印	山水人物図冊	1冊	絹本着色	各22.0×18.0	朝鮮中期 17世紀	個人
1-2	42		李巖	花下遊狗図	1幅	絹本墨画淡彩	106.5×58.5	朝鮮前中期 16世紀半ば	日本民藝館

章	図録 No	指定	作者	作品名	員数	材質	法量	制作年代・時代	所蔵
1-2	43		李巖	架鷹図	1幅	絹本着色	87.5×53.8	朝鮮前中期 16世紀半ば	日本民藝館
1-2	44		伝 金禪	秋草に鳥図	1幅	絹本墨画	28.0×27.8	朝鮮中期 16-17世紀	個人
1-2	45		伝 金植	牛図	1幅	紙本墨画淡彩	25.9×18.3	朝鮮中期 17世紀	個人
1-2	46		李楨	龍虎図	2幅	絹本墨画	各116.0×75.5	朝鮮中期 17世紀	高麗美術館
1-2	47		「翠山」印	墨竹図	2幅	絹本墨画	各109.1×51.9	朝鮮中期 17世紀前半	個人
1-2	48		伝 魚夢龍	墨梅図	1幅(2図 合装)	絹本墨画	各27.4×20.0	朝鮮中期 17世紀前半	個人
1-2	49			紅梅図	1幅	紙本墨画	83.1×28.2	朝鮮中・後期 17-18世紀	個人
1-2	50		李継祐	葡萄図	1幅	紙本墨画	95.8×46.8	朝鮮中期 17世紀前半	大和文華館
1-3	53			宣伝官庁契会図	1幅	紙本着色	73.8×69.5	朝鮮中・後期 17世紀後半 -18世紀	日本民藝館
1-3	56		鄭敏	冠岳夕嵐図	1幅	絹本着色	32.4×44.7	朝鮮後期 18世紀前半	大和文華館
1-3	57		鄭敏	宋之間詩意図 扇面	1幅	紙本墨画淡彩	25.1×69.0	朝鮮後期 18世紀前半	個人
1-3	58		鄭敏	万瀑洞図(「謙玄 神品帖」の内)	1面	絹本墨画	33.2×22.0	朝鮮後期 18世紀前半	ソウル大学校博物館
1-3	59		鄭敏	穴望峰図(「謙玄 神品帖」の内)	1面	絹本墨画	33.3×21.9	朝鮮後期 18世紀前半	ソウル大学校博物館
1-3	60		鄭敏	朴淵瀑図	1面	紙本墨画	119.5×52.0	朝鮮後期 18世紀半ば	個人
1-3	61		許佖	金剛山図 扇面	1面	紙本墨画	21.8×58.8	朝鮮後期 18世紀半ば	高麗大学校博物館
1-3	62		李麟祥	長白山図	1面	紙本墨画	26.2×122.0	朝鮮後期 18世紀半ば	個人
1-3	63		呉歴(款)	真景図冊	1冊	絹本墨画淡彩	各30.6×44.1	朝鮮後期 18世紀後半	個人
1-3	64			奉寿堂進饌図	1幅	紙本着色	155.8×64.8	朝鮮後期 1795年	東国大学校博物館
1-3	65		李寅文	山水図	3幅	絹本墨画淡彩	各110.0×39.0	朝鮮後期 18世紀末-19 世紀初	個人
1-3	66		詹僖賛	高山九曲図	1幅	絹本墨画	119.8×35.2	朝鮮末期 18-19世紀	個人
1-3	67		金正喜	書簡	1幅	紙本墨書	32.5×49.9	朝鮮末期 1855年	個人
1-3	68		権敦仁・金正喜	山水図	1幅(2図 合装)	紙本墨画	各21.7×16.1	朝鮮末期 19世紀前半	高麗美術館
1-3	70		許鍊	山水図 扇面	1面	紙本淡彩	21.0×60.8	朝鮮末期 19世紀半ば	ソウル大学校博物館
1-3	72		柳徳章	墨竹図	1幅(3図 合装)	絹本墨画	各30.4×20.2	朝鮮後期 18世紀前半	個人
1-3	73		沈師正	怪石草虫図(「謙 玄神品帖」の内)	1面	絹本墨画淡彩	28.1×21.6	朝鮮後期 1749-56年	ソウル大学校博物館
1-3	74		沈師正	指頭竹石図	1幅	紙本墨画	42.0×30.3	朝鮮後期 18世紀半ば	順天第一大学校 博物館
1-3	75		鄭喆祚	菊図	1幅	絹本墨画	97.4×32.5	朝鮮後期 18世紀中後期	個人
1-3	78		李寅文	葡萄図	1幅	紙本淡彩	36.8×30.9	朝鮮後期 18-19世紀	東京藝術大学
1-3	79			人物図冊	1冊	紙本墨画淡彩	各30.7×32.5	朝鮮末期 19世紀	個人
1-3	80		趙熙龍	紅白梅図	1幅	紙本墨画淡彩	123.8×34.8	朝鮮末期 19世紀半ば	個人
1-3	81		崔爽煥	葡萄図屏風	10曲 1隻	紙本墨画着色	106.3×311.3	朝鮮後期 19世紀前半	福岡市美術館
1-3	82		周津	海棠群蝶図	1幅	紙本着色	61.5×29.8	朝鮮末期 19世紀	個人
1-3	84		李昞応	墨蘭図	2幅	絹本墨画	各134.5×39.2	朝鮮末期 1887年	個人
1-3	85		張承業	山水人物翎毛図	8面	絹本墨画淡彩	各129.5×32.0	朝鮮末期 19世紀末	個人
1-3	86		楊基薫	蘆雁図屏風	10曲 1隻	黒地絹本金泥	141.3×325.8	朝鮮末期 19世紀後半	個人
1-3	87		張福昶	雑画冊	1冊	絹本着色	各21.5×21.0	朝鮮末期 19世紀後半	個人
1-3	88		李応魯	風俗図冊	1冊	絹本着色	127.8×41.7	朝鮮末期 20世紀初	個人
2	90			阿弥陀說法図	1幅	麻本着色	178.3×126.1	朝鮮前期 1591年	大倉集古館
2	92			三尊仏図(釈迦三 尊二比丘図)	1幅	絹本着色	128.4×101.9	朝鮮前期 16世紀後期	個人
2	93			阿弥陀如来図	1幅	麻本着色	120.3×81.8	朝鮮前期 16世紀後期	岡山県立美術館寄託
2	94			阿弥陀八大菩薩図	1幅	絹本朱地金線描	78.6×55.3	朝鮮前期 1532年	延暦寺
2	95			阿弥陀八大菩薩図	1幅	絹本着色	128.3×78.5	朝鮮前期 16世紀中期	個人

章	図録 No	指定	作者	作品名	員数	材質	法量	制作年代・時代	所蔵
2	96			阿弥陀浄土図	1幅	麻本着色	66.8×55.8	朝鮮前期 16世紀後期	個人
2	97	重文		五仏尊像	1幅	絹本着色	160.3×109.2	朝鮮前期 1490年頃	十輪寺
2	101		李自実	観音菩薩三十二応現図	1幅	絹本着色	201.6×151.8	朝鮮前期 1550年	知恩院
2	105			摩利支天図	1幅	絹本着色	99.3×52.7	高麗後期 14世紀前期	個人
2	106			羅漢図	1幅	絹本着色	53.2×36.7	高麗中期 13世紀中期	個人
2	108		黄遂呂(?)	寒山拾得図	2幅	絹本墨画淡彩	各99.5×37.0	朝鮮前期 14世紀末-15世紀前期	個人
2	109			大方広仏華嚴経卷第二十六	1帖	白紙金字	41.5×1073.0	高麗後期 1348年	個人
2	110			大方広仏華嚴経卷第三十九	1帖	白紙金字	37.0×1029.6	高麗後期 14世紀中期	個人
2	111			大方広仏華嚴経卷第三	1帖	紺紙金字	31.2×616.0	高麗後期 14世紀中期	個人
3	114			鉄砂 梅竹文 壺	1口	磁器	高15.6	朝鮮中期 17世紀後半	個人
3	115			青花 花鳥虫文 壺	1口	磁器	高28.6	朝鮮後期 18世紀後半	個人
3	116			蓮鷺図	1幅	絹本墨画	85.3×54.1	朝鮮前-中期 16世紀	曼殊院
3	117		伝 呂紀	花鳥図	1幅	絹本着色	175.0×83.4	朝鮮前-中期 16世紀半ば	大和文華館
3	118		「恵隆」印	花鳥図	1幅	紙本墨画着色	98.7×44.7	朝鮮前-中期 16世紀半ば	個人
3	119		伝 李巖	群禽図	1幅	紙本着色	150.6×71.3	朝鮮中期 16世紀後半	大倉集古館
3	120		伝 辺鸞	白鷹図	1幅	絹本着色	115.0×57.4	朝鮮中期 16-17世紀	個人
3	121		伝 呂紀	花鳥図	1幅	紙本着色	104.6×51.3	朝鮮中期 16世紀末-17世紀前半	個人
3	122			花鳥図	1幅	紙本着色	112.8×51.8	朝鮮中期 16世紀末-17世紀前半	個人
3	123		「李澄」印	花鳥図屏風	4曲1双	紙本墨画淡彩	各144.5×35.0	朝鮮中期 17世紀半ば	北村美術館
3	124			架鷹図	8幅	絹本着色	各102.2×50.3	明時代 もしくは 朝鮮前期	16世紀前半 正伝永源院
3	126		伝 申師任堂	草虫図	1幅	絹本着色	52.4×29.2	朝鮮前-中期 16世紀半ば	個人
3	128		伝 申師任堂	茄子双鳥図	1幅	絹本着色	89.4×48.2	朝鮮中期 16世紀	福岡市美術館
3	129			菊虫図	1幅	絹本着色	27.4×43.3	朝鮮中期 16世紀	個人
3	130		伝 張挙	草花図	1幅	絹本着色	29.0×31.0	朝鮮中期 17世紀	個人
3	131		伝 魯治	大根図	1幅	麻本着色	28.8×30.7	朝鮮後期 18世紀	個人
3	133			鉄砂青花 葡萄文 大壺	1口	磁器	高37.0	朝鮮中期 17世紀末-18世紀初	大和文華館
3	134			鉄砂 葡萄文 壺	1口	磁器	高28.4	朝鮮中期 17世紀後半	個人
3	135		伝 徐柱	葡萄図	1幅	絹本墨画	112.4×35.3	朝鮮前期 16世紀前半	個人
3	136		伝 閑情	葡萄図	1幅	紙本墨画	81.1×29.5	朝鮮中期 16世紀末-17世紀前半	個人
3	137		伝 徐柱	葡萄蟬図	1幅	紙本墨画	82.8×20.8	朝鮮中期 16世紀末-17世紀前半	個人
3	138		伝 日観	葡萄栗鼠図	1幅	紙本墨画	94.0×24.8	朝鮮中期 17世紀前半	個人
3	139		一眺無双(款)	葡萄栗鼠図	1幅	紙本墨画	95.4×30.7	朝鮮中期 17世紀	個人
3	140		「蒼萄堂」印	葡萄図	1幅	紙本墨画	113.9×48.8	朝鮮中期 17世紀後半	個人
3	141		伝 日観	葡萄図屏風	2曲1隻	絹本墨画	各70.0×51.5	朝鮮中-後期 17-18世紀	個人
3	142		傳氏	葡萄図	1幅	絹本墨画	162.1×78.4	朝鮮後期 18世紀	個人
3	143			松竹葡萄栗鼠図	1幅	紙本墨画	104.4×28.0	朝鮮後期 18-19世紀	個人
3	144			葡萄栗鼠図屏風	10曲1隻	紙本墨画	96.8×310.0	朝鮮後期 18-19世紀	福岡市博物館
3	145			青花 十長生文 瓶	1口	磁器	高31.4	朝鮮後期 19世紀中葉	個人
3	146			十長生文 日月硯	1台	石	35.6×20.6	朝鮮後期 19世紀	個人
3	147			松下双鹿図	1幅	紙本着色	107.0×52.6	朝鮮中期 16世紀後半	個人
3	148			群鹿図	1幅	絹本着色	128.8×75.7	朝鮮中期 16世紀後半	大和文華館
3	149			鹿図	1幅	絹本墨画	89.3×50.5	朝鮮中期 16世紀末-17世紀前半	個人

章	図録 No	指定	作者	作品名	員数	材質	法量	制作年代・時代	所蔵
3	150			柳下双馬図	1 幅	紙本着色	128.2×52.7	朝鮮前・中期 16世紀半ば	個人
3	151			牛図	1 幅	絹本墨画	30.9×55.7	朝鮮中期 17世紀	個人
3	152			青花 鯉藻文 盤	1 口	磁器	口径22.7	朝鮮前期 15世紀後半	個人
3	154			青花 楼閣山水文 扁壺	1 口	磁器	高31.0	朝鮮後期 19世紀	個人
3	155			華角貼人物図箱	1 点	木製	幅35.6、奥行 19.5、高9.5	朝鮮中・後期 17-19世紀	個人
4	156		伝 李公麟	虎図	1 幅	紙本着色	144.5×87.3	朝鮮中期 16世紀後半	正伝寺
4	157			虎図	1 幅	紙本墨画淡彩	66.2×50.0	朝鮮中・後期 17-18世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	158		許士寅	虎図	1 幅	紙本着色	109.6×51.0	朝鮮中・後期 17-18世紀	個人
4	159		東皋（款）	松虎図	1 幅	絹本墨画淡彩	104.8×43.6	朝鮮後期 19世紀	個人
4	160			虎図	1 幅	絹本墨画淡彩	138.3×73.8	朝鮮中期 16世紀後半	個人
4	161			龍虎図	2 幅	絹本墨画淡彩	龍：105.1×30.0/ 虎：105.6×53.0	朝鮮後期 18-19世紀	個人
4	162			虎図屏風	8 曲 1 隻	紙本墨画	各106.0×58.6	朝鮮後期 18世紀	個人
4	163			虎図	1 幅	紙本着色	105.0×68.0	朝鮮後期 19世紀	日本民藝館
4	164			虎図	1 面	紙本墨画淡彩	59.8×39.5	朝鮮後期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	165			文房図屏風	8 曲 1 隻	紙本着色	145.0×284.0	朝鮮後期 19世紀	倉敷民藝館
4	166			文具図屏風	2 曲 1 隻	紙本着色	右隻：53.0×28.0/ 左隻：64.0×31.8	朝鮮後・末期 19世紀	日本民藝館
4	167		伝 司馬江漢	時計図	1 幅	紙本着色	112.9×27.2	江戸時代 19世紀	群馬県立近代美 術館（戸方庵井 上コレクション）
4	168			文房図	4 幅	紙本着色	各105.4×47.1	朝鮮後・末期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	169			文房図	7 面	紙本着色	各45.0×30.0	朝鮮後・末期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	170			文字図屏風	8 曲 1 隻	紙本版画	各38.6×27.2	朝鮮後・末期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	171			文字図屏風	4 曲 1 隻	紙本墨画	各62.3×31.8	朝鮮後・末期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	172			文具図屏風	8 曲 1 隻	紙本着色	各92.6×30.5	朝鮮後期 19世紀	個人
4	173			寿老図	1 幅	絹本着色	139.3×81.3	朝鮮中期 16-17世紀	個人
4	177			祠堂図	1 幅	紙本着色	106.3×53.1	朝鮮後期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	178			馬上人物図	1 面	絹本着色	63.8×49.7	朝鮮後・末期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	179			狩獵図	1 面	絹本刺繍	62.5×33.4	朝鮮後・末期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	180			狩獵図	1 面	絹本刺繍	62.5×33.4	朝鮮後・末期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	181			九雲夢図	2 面	紙本着色	各80.0×38.0	朝鮮後・末期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	183		伝 申師任堂	花鳥図	2 幅	紙本着色	各40.3×28.7	朝鮮後期 19世紀	日本民藝館
4	185			蓮花図	1 面	紙本着色	104.8×41.5	朝鮮後・末期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	186			藻魚図	1 幅	紙本墨画淡彩	76.8×26.8	朝鮮後期 19世紀	個人
4	187			亀と魚	1 面	紙本着色	65.0×37.3	朝鮮後・末期 19世紀	静岡市立芹沢銈 介美術館
4	188			水族図屏風	8 曲 1 隻	絹本墨画淡彩	各96.2×47.6	朝鮮後期 19世紀	個人
4	189		「栖隠」印	瀟湘八景図屏風	10 曲 1 隻	紙本淡彩	各83.3×29.5	朝鮮後期 19世紀	個人
4	190		黄一夢	山水雑画屏風	10 曲 1 隻	絹本着色	各165.5×31.3	朝鮮後期 19世紀	個人
4	191			紙織画屏風	6 曲 1 隻	紙織着色	各88.5×45.4	朝鮮後期 18-19世紀	福岡市博物館
4	192		西安主人	紙織山水図	1 幅	紙織着色	131.6×55.8	朝鮮後期 18-19世紀	個人

章	図録 No	指定	作者	作品名	員数	材質	法量	制作年代・時代	所蔵
4	193			紙織山水図	1 幅	紙織墨画淡彩	97.1×47.5	朝鮮後期 18-19世紀	個人
4	194			紙織鳳凰図	1 幅	紙織着色	93.5×49.3	朝鮮末期 19世紀	個人
4	195			紙織雲龍図	1 幅	紙織着色	91.6×52.0	朝鮮後期 18-19世紀	個人
4	196			紙織魁星点斗図 (北斗七星図)	1 幅	紙織墨画淡彩	99.3×48.5	朝鮮後期 18-19世紀	個人
5	197		伝 秀文	林和靖図	1 幅	紙本墨画	79.9×33.4	室町時代 16世紀前半	京都国立博物館
5	198		伝 秀文	風蘭図	1 幅	紙本墨画	71.8×30.5	室町時代 16世紀前半	個人
5	200	重文	靈彩	白衣観音図	1 幅	絹本墨画	78.3×45.9	室町時代 15世紀	相国寺
5	201	重文	雪舟／李蔭・ 朴衡文 賛	山水図	1 幅	紙本墨画	88.3×45.6	室町時代 15世紀中後期	香雪美術館
5	202		海北友松／李 文長 賛	鹿図	1 幅	紙本墨画	108.2×50.7	桃山時代 17世紀	個人
5	203		松葉軒／李文長 賛	瀟湘八景図屏風	8 曲 1 隻	絹本墨画淡彩	28.0×318.2	江戸時代 17世紀	個人
5	204		狩野山雪／金 世濂 賛	孔子像	1 幅	紙本着色	135.7×47.0	江戸時代 1632年	東京国立博物館
5	205		金明国	達磨・梅・竹図	3 幅	絹本墨画	各96.6×38.8	朝鮮中期 1636年か	東京藝術大学
5	206		金明国／林羅山 賛	鷺図	1 幅	紙本墨画	113.4×40.6	朝鮮中期 1643年か	高麗美術館
5	207		金明国／金義信 賛	寿老人図	1 幅	紙本墨画	88.9×31.3	朝鮮中期 1643年	大和文華館
5	208		金義信	朝鮮通信使書屏風	6 曲 1 双	紙本墨画	105.1×277.8	朝鮮中期 1643年	個人
5	209		韓時覚	布袋和尚図	1 幅	紙本墨画	106.0×30.0	朝鮮中・後期 1655年	高麗美術館
5	210		韓時覚／閑人 自息 賛	布袋和尚図	1 幅	紙本墨画	98.5×28.7	朝鮮中・後期 1655年	大和文華館
5	211		「一子」印	山水図	1 幅	絹本着色	23.9×31.8	朝鮮中期 17世紀後半	個人
5	213		李聖麟	仕女図	1 幅	絹本着色	104.0×43.3	朝鮮後期 18世紀	個人
5	214		崔北	月梅図	1 幅	紙本墨画	84.3×34.8	朝鮮後期 1748年	福岡市博物館
5	217		狩野梅笑師信	西湖図屏風	6 曲 1 双	紙本墨画淡彩	各隻155.5×340.4	江戸時代 1800年	個人
5	218		卞璞	松下虎図	1 幅	紙本墨画淡彩	123.3×54.5	朝鮮後期 1764年	大阪市文化財協会 (辛基秀コレクション)
5	219		金有声／慈周 賛	李賀騎馬図	1 幅	紙本墨画淡彩	125.7×54.7	朝鮮後期 1764年	両足院
5	220		金有声／梅莊 顕常 賛	滝山水・寿老人図	2 幅	滝：紙本墨画／寿： 紙本墨画淡彩	滝：116.3×51.5/ 寿：110.8×50.5	朝鮮後期 1764年	両足院
5	221		金有声	山水花鳥図押絵貼 屏風	4 曲 1 隻	紙本墨画淡彩	125.8×52.8	朝鮮後期 1764年	清見寺
5	222		金有声／敬雄 賛	山水図	1 幅	絹本着色	118.3×49.3	朝鮮後期 1764-79年	個人
5	223		金有声	雲龍図	1 幅	紙本墨画	162.5×55.0	朝鮮後期 1764年	順天第一大学校 博物館
5	224		金有声	山水図	1 面	紙本淡彩	102.8×47.5	朝鮮後期 18世紀後期	高麗大学校博物館
5	227		李義養	山水図	1 幅	絹本着色	133.4×43.2	朝鮮後期 1811年	大阪歴史博物館 (辛 基秀コレクション)
5	228		李義養	嗥虎図	1 幅	絹本墨画淡彩	127.2×57.3	朝鮮後期 1811年	両足院
5	229		沙弥栲林	達磨祖師図	1 幅	紙本着色	176.6×95.7	朝鮮後期 18世紀前半頃	個人
5	230		荷潭／古賀精 里 賛	寿老人図	1 幅	紙本墨画	42.0×55.0	朝鮮中期 1636年	大阪歴史博物館 (辛基秀コレク ション)
5	231		丹羽嘉言／頼斎 賛	富士山図	1 幅	紙本墨画淡彩	92.5×41.5	江戸時代 18世紀	個人
5	232			観水声画 書画帖	1 帖	紙本墨書画	各24.2×12.2	江戸時代 1811年	個人
5	233	重文	狩野探幽	東照社縁起絵巻 (仮名本) 巻四	1 巻	紙本着色	天地33.0	江戸時代 1640年	日光東照宮宝物館
5	235			正徳度朝鮮通信使 行列図巻	2 巻	紙本着色	第二巻：27.7× 1462.9/第三巻： 27.7×1365.1	江戸時代 1711年	大阪歴史博物館 (辛基秀コレク ション)
5	236		英一蝶	朝鮮通信使小童図 (馬上揮毫図)	1 幅	絹本着色	91.2×28.0	江戸時代 1711年頃	大阪歴史博物館 (辛基秀コレク ション)

章	図録 No	指定	作者	作品名	員数	材質	法量	制作年代・時代	所蔵
5	237			朝鮮通信使来朝図	1幅	紙本着色	67.5×92.2	江戸時代 18世紀	京都府立総合資料館（京都文化博物館管理）
5	238			朝鮮通信使来朝図	1幅	紙本着色	71.6×94.8	江戸時代 18世紀	栃木県立博物館
5	239			朝鮮通信使行列図 屏風	6曲1隻	紙本着色	46.7×292.0	江戸時代 18世紀	栃木県立博物館
5	240			洛中洛外図屏風	6曲1双	紙本金地着色	各隻152.0× 359.4	江戸時代 17世紀	個人
5	241		狩野典信	釜山浦富士図	1幅	紙本着色	57.9×92.8	江戸時代 18世紀	大阪市文化財協会（辛基秀コレクション）
5	242			文化八年來聘朝鮮 通信使図巻	1巻	紙本着色	30.8×984.0	江戸時代 1811年	東京国立博物館
5	245		白隠	曲馬（乗）図	1幅	紙本淡彩	47.2×64.5	江戸時代 18世紀	個人
5	246			馬上才之図	1巻	紙本着色	37.5×242.0	江戸時代 18世紀	大阪歴史博物館 （辛基秀コレクション）
5	247		二代鳥居清信	馬上才之図	1面	紙本着色	52.0×81.4	江戸時代 18世紀	高麗美術館
5	251		葛（中は人） 飾北斎	富嶽百景	1冊	紙本墨摺	22.5×15.8	江戸時代 1834-35年頃	個人
6	252			山水図（飛瀑溪梅図）	1幅	紙本墨画淡彩	124.5×34.5	室町時代 15世紀前半	正木美術館
6	253	重文	文成外史	放牛図	1幅	紙本墨画	66.2×36.4	室町時代 15世紀前半	京都国立博物館
6	254	重文	伝 蛇足	山水図	2幅	紙本墨画	右幅：49.6× 41.8/左幅：49.8 ×41.5	室町時代 15世紀後半	群馬県立近代美術館（戸方庵井上コレクション）
6	258		興悦	花鳥図	1幅	紙本着色	88.0×43.3	室町時代 16世紀半ば	神奈川県立歴史博物館
6	259		啓孫	瓜茄子に虫図	1幅	紙本墨画	26.7×31.6	室町時代 16世紀後半	正木美術館
6	260		雪洞	瓜茄子に虫図	1幅	紙本墨画	24.8×37.2	室町時代 16世紀後半	正木美術館
6	261		啓孫	虎溪三笑・山水図	3幅	紙本墨画	各79.4×37.5	室町時代 16世紀後半	栃木県立博物館
6	262		長尾景長	山水図	1幅	紙本墨画淡彩	99.0×47.5	室町時代 16世紀前半	個人
6	263		前島宗祐	茄子に虫図	1幅	紙本着色	45.0×26.2	室町時代 16世紀後半	正木美術館
6	265		官南	神農図	1幅	絹本着色	93.5×38.0	室町時代 16世紀後半	栃木県立博物館
6	266		官南	飲中八仙・西園雅 集図屏風	6曲1双	紙本墨画	各隻153.0× 224.0	室町時代 16世紀後半	正宗寺
6	267		官南	渡唐天神図	1幅	紙本墨画	83.2×32.3	室町時代 16世紀後半	栃木県立博物館
6	268		文筌	松に鷹図	1幅	紙本墨画	100.2×36.9	室町時代 16世紀後半	栃木県立博物館
6	269		文筌	架鷹図	1幅	紙本着色	88.0×33.2	室町時代 16世紀後半	個人
6	270		元賀	鴛鴦図	1幅	紙本着色	65.3×38.1	室町時代 16世紀半ば	栃木県立博物館
6	271		元賀	葡萄栗鼠図	1幅	紙本墨画	47.0×24.0	室町時代 16世紀半ば	個人
6	272		元賀	葡萄図	1幅	紙本墨画	47.0×24.0	室町時代 16世紀半ば	山口県立美術館
6	273		制光	瀟湘八景図	1幅	紙本墨画	48.4×87.0	室町時代 16世紀後半	栃木県立博物館
6	274		制光	瀟湘八景図	8幅	紙本墨画	各32.0×22.7	室町時代 16世紀後半	栃木県立博物館
6	275		雪林	蘭図	1幅	紙本着色	57.5×21.0	室町時代 16世紀末	栃木県立博物館
6	276		雪村周継	瓜にかやつり草図	1幅	紙本墨画	50.5×29.3	室町時代 16世紀半ば	個人
6	277		雪村周継	瀟湘八景図屏風	6曲1隻	紙本墨画	152.0×349.5	室町時代 16世紀末	個人
6	279		雪村周継	山水図	1幅	紙本墨画淡彩	117.8×40.7	室町時代 16世紀後半	個人
6	280		雪村周継	花鳥図	2幅	紙本着色	各108.3×51.8	室町時代 16世紀後半	個人
6	281		雪村周継	花鳥図屏風	6曲1隻	紙本着色	91.6×351.0	室町時代 16世紀中期	栃木県立博物館
6	283		伝 雪村周継	竹虎図	1幅	紙本墨画	97.0×151.6	江戸時代 17世紀前半	東京藝術大学
6	284		雪洞	瀟湘八景図	6幅	紙本着色	各32.5×47.3	室町時代 16世紀末	栃木県立博物館
6	285		雪洞	遠寺晚鐘図	1幅	紙本着色	27.5×42.3	室町時代 16世紀末	個人
6	286		雲溪永怡	山水図	1幅	紙本墨画	44.0×20.6	室町時代 16世紀後半	正木美術館
6	287		伝 如水宗淵	残雪山水図	1幅	紙本墨画	74.5×46.2	室町時代 16世紀	大倉集古館

章	図録 No	指定	作者	作品名	員数	材質	法量	制作年代・時代	所蔵
6	288		「真相」印	山水図（煙寺晚鐘、 洞庭秋月、山市晴嵐）	3幅	紙本墨画	煙：81.9×29.0/ 洞・山：81.7×29.0	室町時代 16世紀前半	個人
6	289		「真相」印	花鳥図	1幅	紙本墨画	43.0×31.0	室町時代 16世紀前半	個人
6	291		狩野探幽	探幽縮図	1帖 (18帖の内)	紙本墨画 (一部着色)	1：42.8×24.0/ 2：34.0×24.8/ 3：33.7×24.9/ 4：22.8×25.7/ 5：27.2×23.0/ 6：29.8×23.4/ 7：33.8×24.4/ 8：28.6×30.1	江戸時代 17世紀	東京国立博物館
6	294		俵屋宗達／一 絲賛	犬図	1幅	紙本墨画	87.7×36.7	江戸時代 17世紀	個人
6	295		俵屋宗達	犬図	1幅	紙本墨画	90.6×43.4	江戸時代 17世紀	西新井大師総持寺
6	296		俵屋宗達	狗子図	1幅	紙本墨画淡彩	98.5×44.0	江戸時代 17世紀	神奈川県立近代 美術館
6	298		祇園南海	秋雲舒出谷図	1幅	紙本墨画	38.2×55.7	江戸時代 18世紀前半	個人
6	299		池大雅	富士山図	1幅	絹本着色	69.3×86.9	江戸時代 18世紀	個人
6	300		池大雅	富士山図	1幅	紙本墨画淡彩	59.0×90.6	江戸時代 18世紀	個人
6	301		池大雅	富士山図	1幅	紙本墨画	46.3×81.1	江戸時代 18世紀	個人
6	302		池大雅	南山清秀図	1幅	紙本墨画淡彩	137.7×43.1	江戸時代 18世紀	個人
6	304		桑山玉洲	猛虎図	1幅	絹本着色	87.7×31.6	江戸時代 18世紀	和歌山県立博物館
6	305		佐竹蓬平	虎図	1幅	絹本着色	130.3×40.3	江戸時代 18-19世紀	個人
6	306		与謝蕪村	狗子図	4面	紙本淡彩	各23.8×27.8	江戸時代 18世紀	個人
6	307		伊藤若冲	百犬図	1幅	絹本着色	142.7×84.2	江戸時代 1799年	個人
6	308		伊藤若冲	白象群獣図	1面	紙本墨画淡彩	123.0×71.5	江戸時代 18世紀	個人
6	309		伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風	6曲1双	紙本着色	右隻：137.5× 355.6/左隻： 137.5×366.2	江戸時代 18世紀	静岡県立美術館
6	310		伊藤若冲	松樹群鶴図	1幅	絹本着色	111.0×49.7	江戸時代 18世紀	個人
6	311		伊藤若冲	尾見戯箒図	1幅	絹本着色	102.0×40.1	江戸時代 18世紀	鹿苑寺
6	312		伊藤若冲	隠元豆・玉蜀黍図	2幅	紙本墨画	各143.4×71.5	江戸時代 18世紀	草堂禪寺
6	315		葛飾北斎	鯉図	1幅	絹本墨画淡彩	101.9×44.0	江戸時代 19世紀前半	群馬県立近代美 術館（戸方庵井 上コレクション）
6	316		浦上玉堂	南村訪雪図	1幅	紙本墨画淡彩	50.0×47.2	江戸時代 1780年代後半	岡山県立博物館
6	317		浦上玉堂	仙山鳴鶴図	1幅	絹本墨画淡彩	94.0×34.1	江戸時代 1790年代前半	個人
6	318		浦上玉堂	水亭臨敞図	1幅	紙本墨画	77.4×27.8	江戸時代 1790年代前半	個人
6	319		浦上玉堂・秋琴	山水画帖	1帖	紙本墨画ほか	19.4×14.6ほか	江戸時代 1790年代半ば	個人
6	320		浦上玉堂	幽谷訪隠図	1幅	絹本墨画淡彩	27.3×17.7	江戸時代 1810年代前半	個人
6	321		天龍道人	葡萄に鷹図	1幅	紙本墨画淡彩	126.3×58.6	江戸時代 文化7年(1810)	群馬県立近代美 術館（戸方庵井 上コレクション）
6	322		谷文晁	山水図	1幅	紙本墨画淡彩	93.7×35.7	江戸時代 1832年	個人
6	323		谷文晁	葡萄栗鼠図屏風	6曲1双	紙本墨画	各隻163.3×347.6	江戸時代 1834年	個人
6	325		五十嵐竹沙	虎図	1幅	絹本着色	98.2×35.6	江戸時代 19世紀前半	個人
6	326		狩野栄信	月夜葡萄図屏風	6曲1双	紙本金地墨画	各隻172.2×363.6	江戸時代 1802-16年	静岡県立美術館

収蔵品展

新収蔵品展

平成20年4月1日～4月27日

現代美術

No	作者名	作品名
1	草間彌生	水上の蛍

現代日本の絵画

No	作者名	作品名
1	石田徹也	ピアガーデン発
2	石田徹也	居酒屋発
3	石田徹也	SLになった人
4	石田徹也	(無題1)
5	石田徹也	社長の傘の下
6	石田徹也	飛べなくなった人
7	石田徹也	燃料補給のような食事
8	石田徹也	トイレへ逃げこむ人
9	石田徹也	兵士
10	石田徹也	引き出し
11	石田徹也	クラゲの夢
12	石田徹也	(無題2)
13	石田徹也	めばえ
14	石田徹也	市場
15	石田徹也	彼方
16	石田徹也	(無題3)
17	石田徹也	(無題4)
18	石田徹也	(無題5)
19	石田徹也	(無題6)
20	石田徹也	(無題7)
21	石田徹也	(無題8)

日本洋画

No	作者名	作品名
1	田中保	セーヌの宵

西洋の油彩画

No	作者名	作品名
1	ジャン＝ヴィクトル・ベルタン	ディアナと水浴するニンフのいる古典的風景

ジャン＝ヴィクトル・ベルタン ナルキッソスのいる古典的風景

若冲から狩野派まで―百花繚乱の18世紀―

平成20年4月29日～5月25日

No	作者名	作品名
1	源琦	四季花鳥図屏風◆
2	呉春	柳陰帰漁図屏風
3	石田幽汀	群鶴図屏風
4	岸駒	孔雀図屏風◆
5	円山応挙	猛虎図屏風◆
6	円山応挙	木賊兎図
7	長沢蘆雪	赤壁図屏風◆
8	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風
9	伊藤若冲	花鳥蔬菜図押絵貼屏風◆
10	伊藤若冲	鶏図◆
11	池大雅	龍山勝会・蘭亭曲水図屏風 <重要文化財>
12	池玉瀾	溪亭吟詩図
13	曾我蕭白	林和靖図◆
14	狩野永良	親子犬図
15	狩野典信(栄川)	山水図
16	狩野惟信(養川)	山水図押絵貼屏風

名品コーナー 出品目録

No	作者名	作品名
1	川村清雄	風景▲
2	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
3	歌川広重	東海道五十三次(保永堂版) 「日本橋」「三島」「由井」 東海道五十三次(保永堂版) 「金谷」「庄野」「三条大橋」

※▲は富士山の絵画

富士山の絵画

【前期：平成20年7月12日～8月10日】

No	作者名	作品名
1		富士参詣曼荼羅図◆ (重要文化財・富士山本宮 浅間大社蔵)
2	狩野派	伊豆三津長浜より富嶽を望む図

3	中山高陽	八州勝地図◆
4	司馬江漢	駿河湾富士遠望図
5	〃	七里ヶ浜図◆
6	〃	駿州原駅図◆
7	中林竹洞	神洲奇観
8	原在正	富士山図巻◆
9	上田耕夫	富士山中図巻◆
10		武蔵野図屏風◆
	木村武山	羽衣

【後期：平成20年8月12日～9月7日】

No	作者名	作品名
1		富士参詣曼荼羅図 ◆ (静岡県指定文化財・富士山本宮浅間大社蔵)
2	狩野探幽	富士・育王山・径山寺図 ◆
3	高芙蓉	富士川望富嶽図 ◆
4	司馬江漢	駿州薩陀山富士遠望図
5	〃	七里ヶ浜図 ◆
6	〃	長沼村富士眺望図
7	墨江武禪	芙蓉峯細見之図
8	原在正	富士山図巻 ◆
9	上田耕夫	富士山中図巻 ◆
10		曾我物語 富士巻狩・仇討 図
11	岡田半江	洋人富士山遠望図 ◆

◆は寄託品

名品コーナー 出品目録

No	作者名	作品名
1	菅井汲	Masse Noire
2	和田英作	富士▲
3	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女

※▲は富士山の絵画

イギリスゆかりの日本洋画

【前期：平成20年9月9日～10月5日】

No	作者名	作品名
1	栗原忠二	セントポール
2	栗原忠二	田園の秋

3	栗原忠二	ロンドン郊外
4	栗原忠二	奈良浅茅ヶ原
5	栗原忠二	武蔵野
6	三宅克己	白壁の家 (ベルギー, プリュージュ)
7	赤城泰舒	ギターを弾く少年
8	武内鶴之助	英国風景
9	石川欽一郎	利根の水郷
10	石川欽一郎	台湾風景
11	石川欽一郎	海辺 (早川海岸)
12	石川欽一郎	岡山の海岸
13	石川欽一郎	台湾次高山

【後期：平成20年10月7日～10月26日】

No	作者名	作品名
1	栗原忠二	セントポール
2	栗原忠二	田園の秋
3	栗原忠二	ロンドン郊外
4	栗原忠二	奈良浅茅ヶ原
5	栗原忠二	武蔵野
6	大下藤次郎	田子の浦
7	赤城泰舒	雲 (折原)
8	武内鶴之助	紀州瀨峡
9	石川欽一郎	神域より天の香具山を望む
10	石川欽一郎	駿河湾
11	石川欽一郎	海辺 (早川海岸)
12	石川欽一郎	ムードン風景
13	石川欽一郎	台湾風景農村

名品コーナー 出品目録

【前期：9月9日～10月5日】

No	作者名	作品名
1	岡田謙三	作品
2	和田英作	日本平望嶽台◆▲
3	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パツランツァ, マツジョーレ湖

【後期：10月7日～10月26日】

No	作者名	作品名
1	岡田謙三	作品
2	和田英作	日本平望嶽台◆▲
3	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む

※ ▲は富士山の絵画 ◆は寄託品

Resonance (リゾナンス) ー共振する感覚
平成21年10月28日～12月26日

No	作者名	作品名
1	狩野探幽	「瀟湘八景」より *
2	浦上玉堂	抱琴訪隠図
3	椿椿山	花卉図
4	小松均	赤富士 上下
5	岡鹿之助	観測所
6	長谷川潔	南仏風景
7	原勝郎	バガテル公園、パリ924頃
8	アンゼラム・キーファー	極光
9	鈴木理策	海と山のあいだ (E-72、E-73) ★
10	内海聖史	三千世界 ★
11	柳澤顕	untitled ★
12	高木紗恵子	untitled ★
13	小西真奈	Gardens ★
14	佐々木加奈子	Walking in the jungle / The Site of Russian armies went to attack Japan 103years ago, Liepaja, Latvia (103年前、ここからロシア軍が日本へ向かった。リエパーラ、ラトビア) ★
15	佐々木加奈子	Walking in the jungle / Anne Frank's Signal (アンネの信号) ★
16	佐々木加奈子	Walking in the jungle / Departure (出発) ★

名品コーナー 出品目録

No	作者名	作品名
1	黒川翠山	題名不詳 (長尾峠からの富士山) ▲
2	コンスタンティン・ブランクシー	鏡をみつめる女
3	コンスタンティン・ブランクシー	ボガニー嬢II

4	コンスタンティン・ブランクシー	アトリエの光景、《無限柱》
5	コンスタンティン・ブランクシー	アトリエの光景
6	深瀬昌久	「鴉」より金沢市 ○

*は一部の出展です。また会期中、展示替えがあります。
★は作家蔵 ○は寄託品 ▲は富士山の作品

屏風絵の世界

平成21年1月2日～2月12日

No	作者名	作品名
1	海北友松	禅宗祖師・散聖図屏風
2	狩野宗眼重信	帝鑑図・咸陽宮図屏風
3	徳力善雪	子猷訪戴・東坡騎驢図屏風
4	狩野探幽	竹林七賢・香山九老図屏風
5	呉春	柳陰帰漁図屏風
6	塩川文麟	清泉煎茶図屏風 ★
7	平山郁夫	黄河 (宵) ★

★は寄託品

ヨーロッパ絵画

バロックから近代へ

平成21年1月2日～2月12日

No	作者名	作品名
1	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景
2	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
3	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
4	ヤーコブ・ファン・ロイスダール	小屋と木立のある田舎道
5	ヤン・ファン・ケッセル	二人の狩猟者のいる森の風景
6	サルヴァトーレ・ローザ	川のある山岳風景
7	クロード=ジョゼフ=ヴェルネ	嵐の海
8	ジャン=ジョゼフ=グザビエ=ピドー	山に見える牧歌的風景
9	ジャン・ヴィクトル=ベルタン	ナルキッソスのいる古典的風景
10	ジャン・ヴィクトル=ベルタン	ディアナと水浴するニンフのいる古典的風景
11	アシル=エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼い
12	ジャン=バティスト=カミーユ=コロロー	メリ街道、ラ・フェルテ=ス=ジュアール付近
13	ヨーハン=バルトールト・ヨンキント	オンフルール近郊の街道
14	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
15	カミーユ・ピサロ	ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘

16	モーリス・ド・ヴラマン ク	小麦畑と赤い屋根の家
17	アルブレヒト・デューラー	放蕩息子
18	ジャック・ド・ゲインII 世	四大元素 (全4点)
18-1		土 (地?)
18-2		水
18-3		空気 (風?)
18-4		火
19	アドリアーン・ファン・ オスターデ	納屋
20	アドリアーン・ファン・ オスターデ	釣り人たち
21	ヨハネス・ライシャー アントニー・ワートルロー	古城
22	クロード・ロラン	嵐
23	クロード・ロラン	川岸の踊り
24	クロード・ロラン	農民の踊り (小)
25	アントニオ・カナル (通 称カナレット)	ドーロ風景
26	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	ポポロ広場

名品コーナー 出品目録

No	作者名	作品名
1	おおく ほういっさう 大久保一丘	ふがくめいぎょうず 富嶽明暁図 
2	ポール・シニャック	サン＝トロペ、グリモーの こじょう 古城
3	きし だりゅうせい 岸田劉生	せいぶつ ちやわん くだもの 静物(リーチの茶碗と果物) ★

※ は富士山の絵画 ★は寄託品

余白の美

No	作者名	作品名
1	尹 熙倉	そこに在るもの Through and Through-3 ◆
2		そこに在るもの Through and Through-4 ☆
3		そこに在るもの Along the Wall-5 ◆
4		
5		そこに在るもの ☆
6		何か ☆
7		何か ☆
8		何か ☆
9	李 禹煥	照応 ◆
10		照応 ◆

11		対話 海と島 1	○
12		対話 海と島 3	○
13		対話 海と島 4	○
14		対話 海と島 8	○
15	イ・ブル	Mekamelencolia (DiluviumNo 8)	◆
16		Mekamelencolia (DiluviumNo 12)	◆

名品コーナー

No	作者名	作品名
1	奥村土牛	八瀬の牛 ◆
2	アールト・ファン・デル・ ネール	森の風景
3	平木政次	富士 

◆は寄託品 ○は個人蔵 ☆は作家蔵 は富士山の作品

移動美術展

富士宮東高校

No.	作家名	作品名	制作年(西暦)	制作年(和暦)	材質	サイズ
1	オーギュスト・ロダン	考える人(小型像)	1880		ブロンズ	h37.2×28.6×23.6
2	柳原義達	道標・鳩	1973-79	昭和48-54	ブロンズ	h43×52×28
3	柳原義達	座る	1960	昭和35	ブロンズ	h129.5×44.0×75.0
4	高田博厚	水浴	1961	昭和36	ブロンズ	h82.0×24.5×23.0
5	飯田昭二	Half & Half	1968	昭和38	ブロンズ	h48.4×50.0×50.0
6	鈴木慶則	《非在のタブロー(マグリットによる)》	1967	昭和42	キャンヴァス、油彩	122×95.5
7	鈴木慶則	《非在のタブロー(キリコによる)》	1967	昭和42	キャンヴァス、油彩、木	h251.2×85.4
8	金沢健一	音のかけら 2	1987	昭和62	鉄、ゴム	h3.2×150.0×150.0

気賀高校

No.	作家名	作品名	制作年(西暦)	制作年(和暦)	材質	サイズ
1	オーギュスト・ロダン	考える人(小型像)	1880		ブロンズ	h37.2×28.6×23.6
2	オーギュスト・ロダン	花子のマスク	1908-12頃		ブロンズ	55×39×29
3	飯田昭二	Half & Half	1968	昭和38	ブロンズ	h48.4×50.0×50.0
4	金沢健一	音のかけら 2	1987	昭和62	鉄、ゴム	h3.2×150.0×150.0

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号

平成3年3月19日条例第2号

平成4年3月25日条例第14号

平成8年3月28日条例第11号

平成11年3月19日条例第16号

平成13年7月24日条例第45号

平成15年3月12日条例第2号

平成17年7月15日条例第49号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もつて県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。

(2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。

(3) その他その使用を不相当と認めるとき。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

(1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。

(2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

(3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあつても、県はその賠償の責めを負わない。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。（協議会の設置）

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員)

第14条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。

2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(一部改正〔平成3年条例2号・17年49号〕)

附 則

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則（平成元年3月29日条例第43号）

- 1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成3年3月19日条例第2号）

- 1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則（平成4年3月25日条例第14号）

- 1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成8年3月28日条例第11号）

- 1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成11年3月19日条例第16号）

- 1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成13年7月24日条例第45号）

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成15年3月12日条例第2号）

この条例は、平成15年4月1日より施行する。

附 則（平成17年7月15日条例第49号）

この条例は、公布の日から施行する。

別表第1（第3条関係）

(1) 常設展示

利用区分	観覧料
個人	300円
団体	1人につき 200円

- 備考 1 個人とは、満15歳以上の者であつて、中学校及び高等学校の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
- 2 団体とは、20人以上をいう。
- 3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事はその都度定める額

別表第2（第5条関係）

利用区分	特別観覧料
模写	1点1日につき 2,000円
模造	1点1日につき 2,000円
撮影	1点1回につき 4,000円
熟覧	1点1日につき 1,000円
原板使用	1点1回につき 3,000円

別表第3（第9条関係）

(一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号〕)

(1) 県民ギャラリー

利用区分	使用料	
	10時から17時30分まで	
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使用料		
午前	午後	全日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,550円	13,650円	21,200円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(平成3年3月26日静岡県規則第24号)

- 改正 平成5年3月25日条例第13号
 平成6年3月10日条例第5号
 平成9年3月28日条例第51号
 平成12年3月31日条例第17号
 平成13年7月24日条例第59号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間及び休館日)

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

(1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただし、入館時間は、午後5時までとする。

(2) 休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日にあたるときは、その翌日以降の最初の休日でない日）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

（一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕）

(観覧手続)

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

(特別観覧手続)

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(県民ギャラリー等の使用手続)

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(使用の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

(2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

(3) その他館長の指示等に違反した者

(譲渡等の禁止)

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復しななければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。（損害賠償）

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料（団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料（小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。）をいう。）の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）

(5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(7) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ

め、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕)

(観覧料等の還付)

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

(2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料(使用料)還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

(委任)

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則 (平成5年3月25日規則第13号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則 (平成6年3月10日規則第5号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則 (平成9年3月28日規則第51号)

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 (平成12年3月31日規則第17号)

1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。
 2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式(以下「旧様式」という。)により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則 (平成13年7月24日規則第59号)

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則 (平成20年3月31日規則第19号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

様式第1号(第4条関係)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

(一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕)

特別観覧承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所

氏名

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名		点数	
特別観覧の目的					
区分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用
日時	年	月	日	時	から
	年	月	日	時	から
内 訳	模 写	点	日	円	合 計
	模 造	点	日	円	
	撮 影	点	回	円	
	熟 覧	点	日	円	
	原板使用	点	回	円	円
備 考					

様式第2号(第5条関係)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

(一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕)

県民ギャラリー等使用承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあつては、その主たる事務所の所在地〕

氏名 〔法人にあつては、その名称及び代表者の氏名〕

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

年 月 日

展覧会、講演等の名称	
展覧会、講演等の内容	
使用区分	県民ギャラリー（A・B）講堂
使用期間	年 月 日（ ） 時 分から 年 月 日（ ） 時 分まで 日間
入場料等の徴収の有無	有・無 円
主催者名	
連絡責任者及び電話	
後援者名	

(注)展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第3号（第10条関係）

（用紙 日本工業規格A 4縦型）

（一部改正〔平成6年規則5号〕）

観覧料等減免申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

印

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料	特別観覧料	使用料
申請の理由			
日 時	年 月 日（ ） 時 分から 年 月 日（ ） 時 分まで		
観覧人員	人		
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員	人		
責任者氏名			
責任者電話番号			
観覧料等	円		
減免申請額	円		

様式第4号（第11条関係）

（用紙 日本工業規格A 4縦型）

（一部改正〔平成6年規則5号〕）

特別観覧料
使用料 還付申請書

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

印

次のとおり特別観覧料使用料の還付を受けたいので、申請します。

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

附 則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

(目的)

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

(利用範囲)

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

(使用期間)

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

(申込期間)

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、使用開始月の申込とする。

2 2週間以上の使用で優先使用を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申 込 期 間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

(展示品等の管理)

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主

催者が責任を持って行うものとする。）

(原状回復義務)

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を原状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めるときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館講堂利用規程

(目的)

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、講堂の管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

(利用範囲)

第2条 講堂は、芸術文化の発表と普及の目的以外での使用は認めない。

2 芸術文化の発表と普及の目的で使用する場合であっても、入場料を徴収する場合は利用できない。

(使用期間)

第3条 使用期間は、1日もしくは半日とする。

2 使用時間は、1日の場合は午前10時から17時30分までとし、半日の場合、午前は10時から12時30分まで、午後は13時から17時30分までとする。

(申込期間)

第4条 申込期間は、使用希望する月6ヶ月前の1日から15日とする。

2 県民ギャラリーにおいて優先予約を申請する場合のみ、講堂の優先予約を認めるものとする。なお、優先予約の申込期間は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申 込 期 間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日

1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

(備品の管理)

第8条 使用中の備品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

(原状回復義務)

第9条 退出時には施設等を原状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めるときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

- (1) 美術品の選定に関すること。
- (2) その他美術に関する専門的事項に関すること。

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

- 2 委員は再任することができる。
- 3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは

退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

静岡県立美術館協議会設置要綱をここに制定する。

静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。（協議会の委員）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

- 2 委員の定数は、15人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年12月23日条例第38号）第13条に規

定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。

3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

- 2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。
- 3 委員会に会長及び副会長を置く。
- 4 会長には生活・文化部長、副会長には、文化振興総室長をもってこれに充てる。
- 5 会長は、会務を総理する。
- 6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が招集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

- 2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。
- 3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。
- 4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。
- 5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。
- 6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

別表

生活・文化部長	文化振興総室長	生活文化管理室長
文化政策室長	美術館副館長	

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

- (1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
- (2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。
- (2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。
- (3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。
- (4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

- (1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。
- (2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

組織・名簿

■事務分掌

総務課

- (1) 職員の人事及び服務に関すること
- (2) 職員の福利厚生及び保健に関すること
- (3) 監査に関すること
- (4) 文書の收受発送に関すること
- (5) 公印の管守及び機密に関すること
- (6) 予算・決算その他会計事務に関すること
- (7) 美術品及び物品の購入に関すること
- (8) 財産及び物品の管理に関すること
- (9) 美術館協議会に関すること
- (10) 他課の所管に属さないこと

学芸課

- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関すること
- (2) 展覧会の企画及び開催に関すること
- (3) 美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関すること
- (4) 美術に関する専門的、技術的な調査研究に関すること
- (5) 美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関すること
- (6) 美術に関する講演会及び講習会等の開催に関すること
- (7) 前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関すること

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	8人	11人	20人
非常勤	1人			3人	4人

■美術館協議会

堀 則 雄	静岡市立長田南小学校長
山下 峰 雄	静岡県立磐田南高等学校長
江崎 善三郎	静岡県文化協会長
鎌田 まり子	NPO静岡県青年団連絡協議会長
長野 蝶 子	静岡県地域女性団体連絡協議会副会長
松井 純	静岡新聞社・静岡放送社長
高木 敦 子	(有)アムズ環境デザイン研究所代表取締役
岡野 晃 子	(財)ベルナル・ビュフェ美術館副館長
立田 洋 司	静岡県立大学大学院教授
岡本 一 八	(株)丸八真綿取締役
田嶋 清 子	(株)レ・サンク代表取締役
北條 博 厚	県立美術館友の会会長
田村 孝 子	グランシップ館長
広瀬 純 一	NHK静岡放送局長

■専門委員

木村 重 圭	甲南女子大学教授
坂本 満	お茶ノ水女子大学名誉教授 金沢美術工芸大学客員教授
潮江 宏 三	京都市立芸術大学学長
建 嶋 哲	国立国際美術館長
山 梨 絵美子	東京文化財研究所企画情報部 近現代視覚芸術研究室長
河野 元 昭	秋田県立近代美術館長

■資料評価委員

稲津 成 孝	静岡県県民部長
丸山 康 至	静岡県県民部部長代理
下山 晃 司	静岡県県民部文化学術局長
後藤 淳	静岡県文化政策室長
鈴木 充 代	静岡県立美術館副館長

■職 員

館 長	宮 治 昭
副 館 長	鈴木 充 代
学芸部長	小針 由紀隆
総務課長	小林 久美子
総務係長	近藤 久仁彦
副 主 任	篠原 昭 一
主 事	中嶋 浩 美
主 事	中村 幸 貴
管理係長	古橋 智 裕
主 任	野 仲 修
副 主 任	村 松 齊
学芸課長	飯 田 真
主任学芸員	南 美 幸
主任学芸員	堀 切 正 人
主任学芸員	新 田 建 史
主 任	岡 崎 隆 司
主 任	鈴木 雅 道
学 芸 員	川 谷 承 子
学 芸 員	村 上 敬
学 芸 員	泰 井 良 (財)地域創造へ派遣)
学 芸 員	森 充 代
学 芸 員	福 士 雄 也

■非常勤嘱託員及び臨時事務員

非常勤嘱託員	中村 有 希
	増田 洋 子
	岡村 あさ乃

歳入・歳出決算

■歳入決算

単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	10,105
共催展収入	57,736
県民ギャラリー等使用料	5,283
財産売払・貸付・運用収入	2,166
助成金等	8,550
その他	40,518
計	124,358

■歳出決算

単位：千円

項 目	金 額
人件費	145,607
管理費	299,355
運営費	57,672
施設管理費	241,683
事業費	142,372
企画展事業費	105,273
常設展事業費	10,651
資料・普及事業費	26,448
館藏品取得費	12,957
施設整備費	41,849
基金積立	6,024
計	648,164

建築・設備概要

■ 建築概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
所 在 地	静岡市谷田53番2号	同 左
敷 地	県文化センター内 (約120,000㎡)	同 左
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造) 2階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕 上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット 長尺塩化ビニールシート貼 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、 タイル打込PC板、吹付タイル 屋根：カラーステンレス葺 トップライト (アルミ、複層ガラス) 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工 期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■ 設備概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
電 気 設 備	受変電設備 受電電圧6,600V 60Hz 変圧器1φ300KVA、3φ400KVAモールド型 発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800rpm 出力300KVA 3φ3W6,600V 蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、充電サイリスタ全自動整流器 弱電設備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入館者表示、映像資料 (ビデオ)、電話、放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤 (自火報、防排煙)、防犯非常錠制御盤、防災アンプ (180W)、ITV監視装置、地図式表示板	受変電設備 受電電圧6,600V 60Hz 1φ280KVA、3φ350KVA 最大電力800KW 発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800rpm 出力200KVA 3φ3W220V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置 弱電設備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、電話、放送、トイレ呼出表示、調光、テレビ共聴 防災、防犯設備 同 左
空 気 調 和 設 備	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機 (150USRT・40USRT)、温水焚吸収冷温水機 (30USRT)、空気熱源回収型スクリュウ式ヒートポンプ冷凍機 (150USRT)、プレート式熱交換器 (396,300Kcal/h) 蓄 熱 槽 冷温水槽 550㎡・55㎡、ソーラー用 20㎡ ソーラーパネル 平板型672枚 空 気 調 和 機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民ギャラリー1系統、その他4系統及びパッケージ型1台、ファンコイルユニット46台、他空冷ヒートポンプパッケージエアコン、ルームエアコン	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機 (80USRT) 2基、蒸気ボイラー (250kg/h) 2基、空冷チラーユニット (4.39USRT) プレート式熱交換器 (86,000Kcal/h) 冷温水クッションタンク 5㎡ 冷水クッションタンク 1㎡ 空 気 調 和 機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱交換器 (3台)

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
衛生設備	排煙機	ロビー系統他 3系統3台
	給水設備	受水槽30㎡(二槽式)、高架水槽12㎡(二槽式)
	排水設備	公共下水道に放流
	消火設備	展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋内消火栓
昇降機設備	身障者用	油圧式11人乗750kg
	荷物用	油圧式3,000kg
衛生設備	排煙機	メイン展示室他2系統4台
	給水設備	空調用自動給水装置受水槽5㎡
	排水設備	公共下水道に放流
	消火設備	展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋外消火栓
昇降機設備	身障者用	油圧式23人乗1,500kg

■建設工事費

	本 館	ロ ダ ン 館
建 築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外 構	397,162	268,509
プロムナード	173,300	
合 計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

■本館

実技室 (114㎡)

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室 (約20席)

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

レストラン (80席 198㎡)

レストラン「エスタ」EST Aは、日本平ホテル直営のレストランで、ダッチコーヒー用のジャンボサイホンが設置してある。営業時間は10:00～18:00

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、1階のエントランスホール内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室 (7室 1,777㎡)

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部に三本、下部に一本の無紫外線蛍光灯があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるようになっている。

県民ギャラリー (2室 490㎡)

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂 (262席 305㎡)

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室 (約30席 71㎡)

美術に関する講座を行う。常設展では、展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は、担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室 (12.5㎡)

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 毎週土、日曜、祝日
10時30分～16時30分まで
2時間を限度

授乳室 開館日全て
10時～17時30分まで
(夜間開館日は20時まで)

■ロダン館

ロダンフロア (1,461㎡)

高さ20mの天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアは、あらゆる角度から彫刻の鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室1 (98㎡)、展示室2 (149㎡)

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールの両側に設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室1には、地獄門の鑄造過程の写真パネルやブロンズの製造過程を示す模型及びロダン写真資料(CD-ROM)検索システムが設置されている。また、展示室2にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

ブリッジ・ギャラリー (276㎡)

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図
■本館



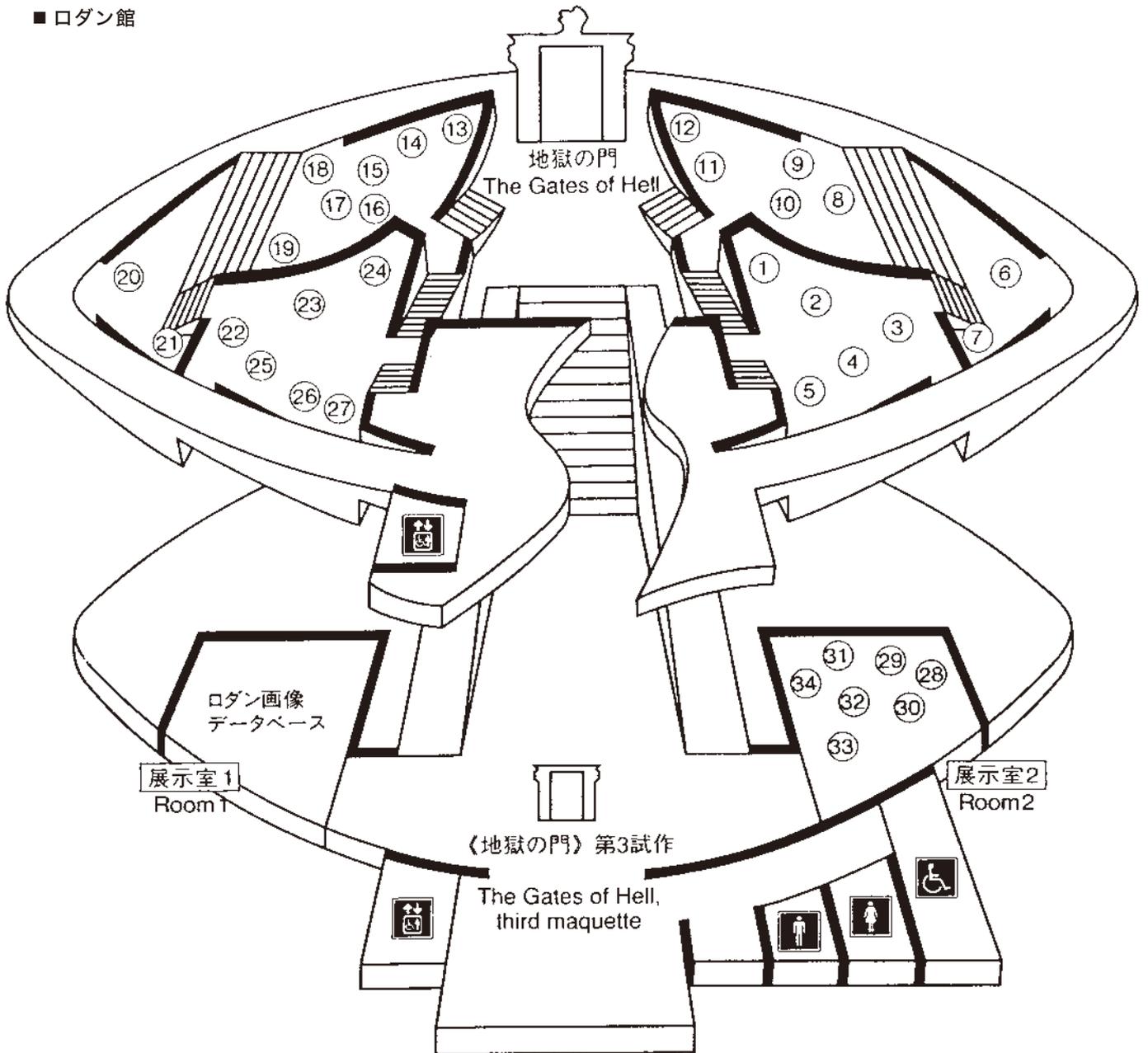
- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ カフェ Cafe

⑪ (次頁へ)



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 託児・授乳室 Nursery
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫1 Storage (1)
- ⑯ 収蔵庫2 Storage (2)
- ⑰ 収蔵庫3 Storage (3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ミュージアムショップ Museum Shop
- ㉟ 機械室 Machinery Room
- ㊱ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊲ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator

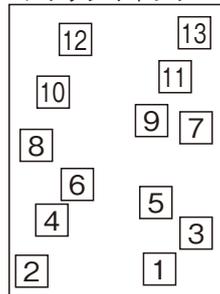
■ ロダン館



ロダン, A

- ① 《カレの市民》 ジャン・デール
- ② 《カレの市民》 ジャン・ド・フィエンス
- ③ 《カレの市民》 ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレの市民》 ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレの市民》 アンドリュウ・ダンドル
- ⑥ 《カレの市民》 ユスターシュ・ド・サン＝ピエール
- ⑦ 《カレの市民》 第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ バオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

ブリッジギャラリー



- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアン＝ルパージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレールの頭部
- ㉗ 花子のマスク

展示室2

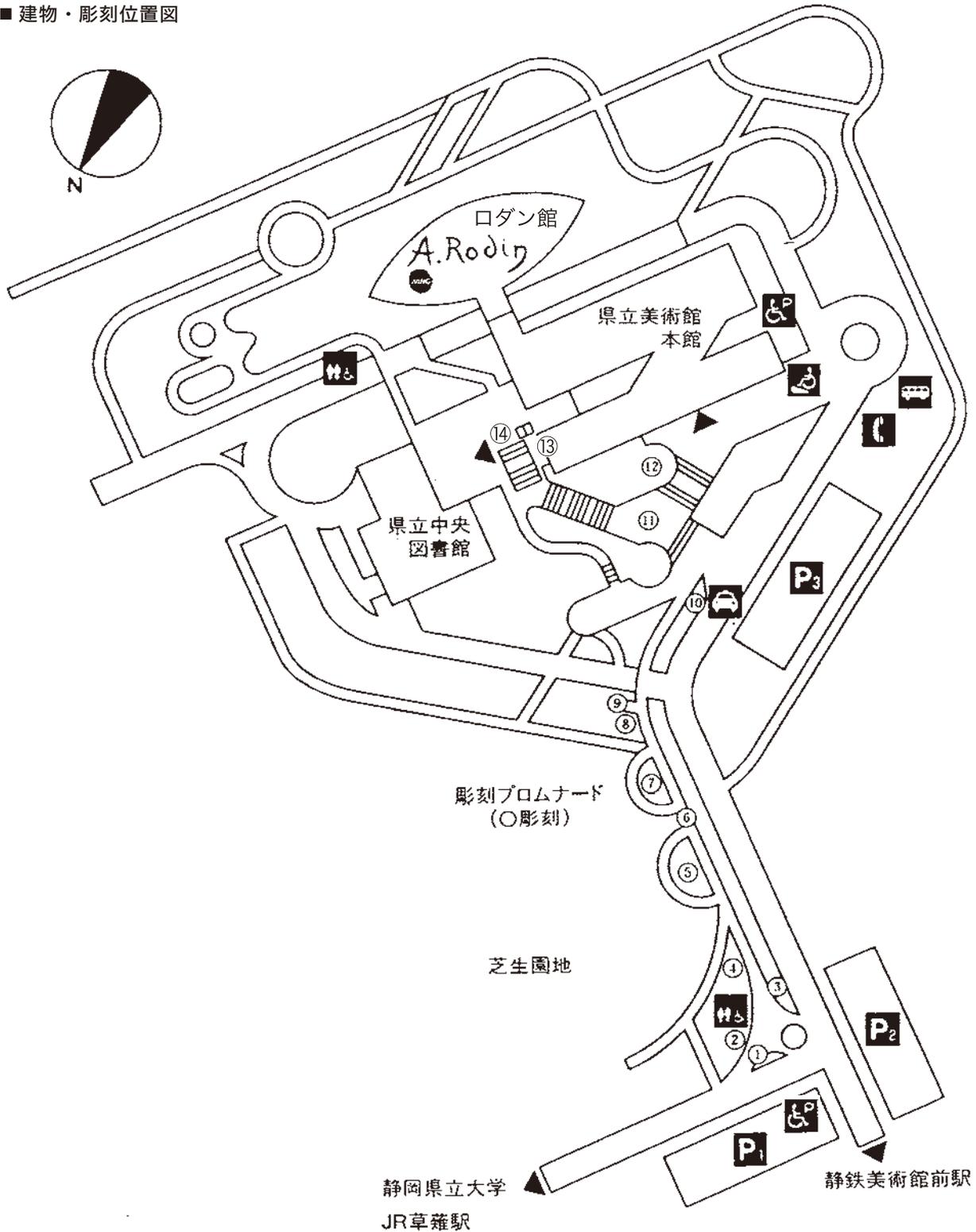
- ㉘ カルポー, J.B. / ナボリの漁師の少年

- ㉙ カリエ＝ベルーズ, A.E. /
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A. / パラの髪飾りの少女
- ㉛ カルポー, J.B. / 悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J. / 乳を与えるパリの女
- ㉝ フレミエ, E. / 蛇使い
- ㉞ バリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P. / オヴィリ
- ② バルラッハ, E. / 読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H. / 横たわる人体
- ④ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A. / 《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C. / ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシツ, J. / 母と子
- ⑨ ロッソ, M. / 病める男
- ⑩ プールデル, E.A. / アポロンの首
- ⑪ プールデル, E.A. / ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A. / 《イル・ド・フランス》
のトルソ
- ⑬ クローデル, C. / 波

■ 建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃくじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークII》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式V-相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線-菱形II》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

- 開館時間 午前10時～午後5時30分
(入館は午後5時まで)
- [夜間開館] 7・8月の企画展期間中の毎週土曜日、
午後8時まで開館(入館は午後7時30分
まで)
- 休館日 毎週月曜日(但し、祝日・振替休日の場
合は開館し、翌日休館) / 年末・年始 /
その他展示替等のための休館日

- 収蔵品展観覧料
観覧料 / 一般・大学300円(団体200円)
 / 小・中・高生・70歳以上の方は無料

- 企画展観覧料 *収蔵品展も合わせてご覧いただけます。

展覧会名	一般	高校・大学 ・70歳以上
シャガール展 色彩の詩人	1,100円 <900円>	500円 <400円>
国宝鑑真和上展	1,200円 <1,000円>	600円 <500円>
十二の旅	800円 <600円>	400円 <300円>
風景ルルル	800円 <600円>	400円 <300円>
第19回富嶽ビエンナーレ展	600円 (400円)	300円 (200円)
朝鮮王朝の絵画と日本	900円 <700円>	400円 <300円>

- * <>内は団体(20名以上)及び前売料金
()内は団体(20名以上)料金
- *中学生以下及び、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。

■施設使用料

(1) 県民ギャラリー

利用区分		使用料 10時～17時30分
入場料を 徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を 徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使用料		
午前 10時～12時30分	午後 13時～17時30分	全日 10時～17時30分
7,550円	13,650円	21,200円

交通案内 JR「草薙駅」からバス「県立美術館ゆき」
で約6分

静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分

JR「静岡駅」南口からタクシー約15分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

電話番号 総務課 (TEL) 054-263-5755

〃 (FAX) 054-263-5767

学芸課 (TEL) 054-263-5857

〃 (FAX) 054-263-5742

美術館友の会事務局 054-264-0897

ミュージアムショップ 054-264-8926





平成20年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館 ©

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755

印刷：松本印刷株式会社

〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡 2210



Annual Report of
Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2008

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©

Printed by MATSUMOTO Printing Co.,Ltd., Shizuoka

Printed in Japan 2008